

徴収法亦直接ニ出ルカ故ニ敢テ之ヲ間税ノ部ニ分類セスシテ却テ之ヲ直税中ニ入ル蓋シ至當トス但純ハラ學理上ヨリ其性質ヲ觀察スル片ハ單ニ消費者ヨリ直接ニ徴収スト云ヘルノミニテ其目的ハ猶ホ奴婢ヲ使用シ若クハ車馬ニ費ス所ノ騎者ノ消費(贅澤ノ費用)ニ課税スルモノナレハ之レヲ消費税ト見ルモ敢テ誤レルモノニアラス

第三國家ノ特占權モノホリ 據リテ徴収スル消費税此ハ政府カ人民ト自由競争以外ニ立チ特占權ヲ握リテ特殊物品ノ生産及ヒ 賣ノ營業ヲ爲ス片ハ其生スル所ノ純収益ハ即チ租税ニ準スヘキモノトス就中政府ハ單ニ財政上ノ目的ヲ以テ專ラ消費ノ廣キ物品ヲ撰ンテ之ヲ製造シ若クハ販賣スルノ特權ヲ有シ往々人民ノ企業ヲ禁スルヲ常トス故ニ政府ノ特占營業ニ係ル収益ハ概チ消費税ノ變形ナリ實ニ

第三、國  
家特占權  
ニ據レル  
徴収法

政府カ此特占權ヲ有スルコトハ猶ホ一ノ消費税徴収ノ一大便法トモ云ヘキモノニシテ此營業ヨリ生スル収益ノ如キモ亦一般世人ノ了解スル所ニ據レハ敢テ之ヲ消費税中ニ置ク所ノモノニアラサルヘケレモ更ニ學理上ヨリ觀ル片ハ尙ホ均シク其性質ヲ同ウスルモノナレハ則チ之ヲ消費税ノ一種トシテ論セサルヘカラス

以上徴収法ノ異ナレルヨリ消費税ハ尙分チテ内國產ノ物品即チ國產ニ課スルモノヲ内地消費税ト云ヒ輸出入物品ニ關スル者ヲ關稅ト云ヒ又内地ニ於テ物品轉移ノ際課スルモノヲ内地關稅或ハ入市稅ト稱ス又直接徴収ノ消費税ハ之ヲ使用物稅ト稱シ若クハ政府特占營業ノ収益ト稱スル等種々ノ名稱ヲ生スルモノトス故ニ余輩ハ先ツ此區別ニ從ヒ以下聊カ各種ニ就イテ概論スル所アルヘシ

### 第十章 内地消費税

#### 第二百十八節 課税スヘキ消費物品ノ撰擇 消費ニ課

税スルノ目的ヲ以テセハ一切ノ消費物品ニ課税スルハ最モ其當ヲ得タルモノ、如シ故ニ公正ノ一點ヨリ觀察ヲ下スルハ一切ノ消費物品ニ課税スルヲ適當トス然レモ之ニ課税スルノ困難及ヒ之レヨリ生スル弊害ハ既ニ上來叙述セシ所ニ由リテ明カナリ是ヲ以テ現今各國一般ニ行ハル、消費税ノ如キハ大率千種ノ消費物品ヲ撰擇シテ以テ之ニ課税スルヲ通例トス中ニ就キ尤モ普通ニ課税セラル、消費物品ハ飲料品、鹽、砂糖、烟、烟草等ノ類是レナリ然レモ尙麥粉若クハ獸肉等ニ課税スル處アリ何故ニ此等ノ消費物品ヲ特ニ撰擇シテ以テ課税スル

特殊ノ物品ヲ撰擇シテ消費スル理由

課税ニ適スル消費物品

第一、其大ナル消費ノ廣

ヤ課税スヘキ消費物品ハ如何ナル點ヲ標準トシテ之ヲ撰擇スルヤ何故ニ現今諸國ノ消費税制ニ於テ某ノ物品ニ課税シテ某ノ物品ニ課税セサルヤ以上ノ理由ニ就イテハ必スヤ諸説之レアルヘシト雖モ要スルニ公正主義ニ據リシニモアラス又經濟上ノ得失ヲ查察シタルニモアラス只其理由ノ存スル所ハ則チ財政上ノ一點ニ在リト謂フヘシ凡ソ物品ニシテ課税スヘキモノハ必ス左ノ數要件ヲ具備スルヲ要ス

第一 消費ノ範圍廣大ナルコト 間税一般ノ通弊トシテ消費税ハ其賦課徴収ニ方リテ經濟上ニ弊害ヲ及ホスコト大ナルカ故ニ財政上特別ノ利益アルニ非サレハ濫リニ消費税ヲ賦課シ若クハ其種類ヲ増加スヘカササルモノトス故ニ經濟上ノ弊害ヲ忍ビ之レニ課税スルノ理由ハ專ラ財政ノ點ヨリ觀察シテ間税ハ多種ノ直税ニ比シ巨額ノ収入ヲ國家ニ納ル、利益アリト云フニ因ル所ノ如ク其目的

ニシテ既ニ專ラ財政ノ一點ニ在リトスレハ其消費極メテ廣大ニ從テ收入巨大ナルヘキ物品ヲ撰擇スルコトハ蓋シ消費稅ヲ賦課スルニ方リテ一大要件ナリトス然ルニ茲ニ注意セサルヘカラサルコトアリ即チ消費ノ範圍尤モ濶大ナルモノハ人生ニ必要缺クヘカラサル消費物ニ在ルコト是レナリ例ヘハ鹽米或ハ麥粉等ノ如シ倘シ是等ノ必要品ニ課稅スルハ其稅率如何ニ高カルトモ其消費ヤ節減シ難ク又其課稅ヤ避ケ得難キモノナレハ必要品ヲ撰ンテ課稅スルカ如キハ縱令財政上ヨリ觀レハ國庫ヲ益スル頗ル大ナルモノアラント雖モ之ニ課稅セハ一方ニ於テ貧民ノ生計ヲ困難ナシメ且ツ貧富ヲ通シテ平等ニ納稅セシムルノ不權衡アルカ故ニ宜シク之ヲ避ケサルヘカラス然ラハ則チ害少ウシテ專ラ富民ノミ負擔スヘキ所ノ驕奢物ニ消費稅ヲ課センカ此レ國庫ニ巨大ノ收入ヲ得セシム

第二、  
監督ニ困難  
ノ少キモ

ルノ途ニアラサルヲ奈何セン此ニ於テカ消費甚タ廣大ニ且ツ其物品ニシテ必要ナラサルモノ即チ嗜好品ヲ擇ンテ以テ之カ課稅ニ充テサルヘカラス蓋シ嗜好品トハ煙艸、茶、珈琲、酒類等ノ如キ其消費一般ニ廣ク且ツ其性質ハ生計上敢テ必要品ナラサルモノ是レナリ故ニ一般ニ消費廣キ嗜好品ハ消費稅ヲ課スルニ尤モ適當ナル所以ナリ

第二 政府カ其生産運轉ヲ監督檢査スルニ容易ナルコト 消費稅ヲ課スルノ困難ハ即チ其課稅ニ由リテ生スル弊害ノ大ナルニ在リ之レヲ換言スレハ專ラ被稅品ノ生産ヲ監督檢査スルニ方リテ繁雜ヲ極メ營業者ヲシテ苦惱セシムルコト大ナルニ在リ故ニ其弊害ヲ最少ナラシメントセハ被稅品ノ製造又ハ其販賣等專ラ一地方或ハ少數者ノ手ニ集合シ即チ其監督檢査容易ナルヘキ物件ヲ擇フテ以

ヲ適當トス例ヘハ釐稅ノ如キ他ノ弊害ハ姑ラク措キ其生産ハ專ラ  
 海邊沿岸ノ地若シクハ釐坑所在地ニ集合セルモノニシテ又他ニ生  
 産シ得ヘキモノニアラサルカ故ニ課稅上之レヲ監督スルノ便宜ア  
 リ又歐洲ニ於ケル砂糖煙草ノ如キ往時ハ均シク歐洲ニ産セスシテ  
 其始メ皆外國ノ輸入ヲ仰キシモノナルカ故ニ之レヲ其生産場各地  
 ニ散在シ隨テ調査監督上頗フル困難存セシ他ノ物品ニ比スレハ砂  
 糖煙艸兩稅ノ如キハ徵收上大ニ便宜ヲ有シタルモノナリキ左レ  
 ハ消費品ノ生産ヲ検査監督スルニ容易ナリト云フコトハ被稅物タ  
 ル消費品ヲ撰擇スルニ方リテ蓋シ缺クヘカラサルノ一要件ナリト  
 ス

第二百十九節 内地消費稅ノ徵收法 消費稅ハ廣キ意義

内地消費  
稅徵收ノ  
四方法

ニ據レハ關稅及ヒ直接徵收ノ顯著物稅ヲモ併セ稱スルモノナリトハ

既ニ余輩ノ陳述シタル所ナレハ關稅ハ專ラ外國輸出入品ニ課スル消  
 費稅ニシテ自ラ其性質ヲ異ニスル所アレハ之ヲ別項ニ論スル事トシ  
 又直接徵收ノ顯著物稅モ前ト均シク其性質ヲ異ニスル所尠カラサレ  
 ハ同シク別項ニ論スル事トシ茲ニハ專ラ内地消費稅ノミニ就イテ論  
 セントス其徵收法ニ四種アリ即チ

- 第一 實地ノ調査檢定ニ由リテ生産高販賣高ニ課稅スル法
- 第二 推定ニ據リテ生産高ニ課稅スル法
- 第三 消費物ノ材料ヲ生産スル土地ニ特別稅ヲ課スル法
- 第四 製造若クハ營業ノ特占權ニ據リテ政府親テ營業スルカ若ク  
 ハ某會社ヲ撰ミ特占權ヲ附與シテ營業セシムル法

是レナリ此ノ他尙ホ入市稅ト稱ヘ專ラ物品運轉ノ際ニ課スル方法ア  
 リ此レ即チ内地關稅ト稱スルモノニシテ多クハ地方稅ノ賦課ニ用フ

ル法トス

實地監査  
檢定ノ方  
法

## 第二百二十節 實地監査檢定ノ方法 第一ノ實地監査檢

定ノ方法ハ佛語ニエキセルシースト云ヒ政府ハ官吏ヲ派遣シテ其課  
 税スヘキ生産品ノ製造若クハ販賣ニ就キ嚴密ニ監督ヲ行ヒ調査ヲ施  
 シ以テ常ニ各製造家若クハ商估ニ於ケル事業ノ張弛ニ注目シ而シテ  
 粗生品ノ出入ヲ監督シ時ニ或ハ製造所商店等ニ派出シテ其一切ニ於  
 ケル生産器具容量生産ノ方法并ニ其分量等ヲ檢査シ又商業ニ於テハ  
 例ヘハ卸賣商小賣商ノ荷藏等ニ出張シテ監督ヲ施シ或ハ穴藏ニ入り  
 積込ヲ檢査シ以テ嚴密ニ過不足ヲ調査シテ其課税スヘキ消費品ノ額  
 ニ脱漏ナカラシムル等ノ方法ヲ云フ而シテ其取扱尤モ嚴重ナルモノ  
 トス畢竟此方法タル間税徴収ノ方法中ニ在リテ最モ國庫ノ爲メニ利  
 アルモノニシテ便チ此方法ニ據ルルハ善ク租税ヲ課スヘキ物ノ分品

量ヲ知リ且ツ容易ニ奸曲ノ所爲ヲ防遏スルヲ得ヘキナリ然レモ又此  
 方法ハ營業ニ檢束ヲ加ヘ生産者ノ自由ヲ妨害スルコト甚シク隨テ一  
 方ニ於テハ數多ノ収税官吏ヲ要シ又一方ニ於テハ營業ノ進歩改良ヲ  
 妨阻シ且ツ収税官吏ハ檢査官トナリテ毎ニ被税者ト會面スルカ故ニ  
 更ニ政府ト人民間ノ感觸ヲ惡シクシ却テ紛爭物議ヲ招キ易キモノト  
 ス故ニ此方法ハ一方ニ於テ亦頗ル弊害鮮カラサルモノナリ但シ其弊  
 害ハ生産品ノ種類ト國情トニ由リテ異同ヲ生ス例ヘハ商工業ノ規模  
 概シテ大ニシテ且ツ少數ノ地方若クハ少數ノ人ニ偏集セル國ニ於テ  
 ハ其營業諸方ニ散布シ多數人ノ手ニ存スル國ニ於ケルヨリハ不便弊  
 害兩ナカラ鮮キモノトス茲ニ一例ヲ舉ケンニ英國ノ如キハ政府ノ監  
 督ヲ受クヘキ生産家ノ數ハ僅カニ數十人ニ過サルカ故ニ敢テ檢束ノ  
 方法ヲ嚴ニスルモ一般人民ハ又之ニ堪フルコト容易ナリ之ニ反シテ

## 第十章 内地消費稅

佛國ノ如キハ數千ノ人民ヲ監督セサルヲ得サルカ故ニ營業ノ自由ヲ檢束スルノ弊害モ亦從テ大ナリト云ハサルヲ得ス

### 推定賦課ノ方法

第二百二十一節 推定賦課ノ方法 第二ノ方法ハ第一ノ方

法ニ比スレハ適力ニ不精密ニシテ殊ニ嚴重ニ被稅物ノ分量ニ比例シテ課稅シ得サルカ故ニ被稅物ノ現在高ニ對シテ自ラ脫漏多ク從テ政府ニ納ル、収入モ第一ノ方法ニ依リテ賦課スル収入額ヨリ大ニ少キモノトス併シ第二ノ方法ニ據レハ政府ハ單ニ製造家ノ器械其大小容量ノ多少及ヒ其生産ノ方法等ヲ檢査スルノミニ止リテ敢テ製造家ノ實地ニ就イテ生産高ノ如何脫漏ノ有無等ヲ問ハス而シテ唯其製造家ノ生産シ得ル物品ノ平均高ヲ推測算定シテ之ニ課稅スルモノナルカ故ニ其製造家ニ加フル所ノ檢束ハ第一ノ方法ニ比スレハ甚タ僅少ナリ故ニ又其推定シタル生産高ハ實際ノ生産高ニ相違スルノ虞ナキニ

アラサルモ夫ノ營業ノ自由ヲ檢束シ其進歩ヲ妨害スル等ノ事ナキハ明カナリ啻ニ營業ノ進歩ヲ妨害セサルノ明カナルノミナラス又間接ニ其進歩ヲ獎勵シテ改良ヲ促カスノ効用アリ何トナレハ營業者ハ其推定セラレタル平均生産高ヲ超過シテ生産スルハ其超過シタル部分ハ毎ニ租稅ヲ免ル、カ故ニ平均生産高ニ超過シテ生産センコトヲ務ムルニ至ルヘケレハナリマクラック氏言ヘルアリ曰ク蘇蘭ニ於テ曾テ蒸酒稅ヲ課スルニ方リ其蒸溜器械ノ容量ニノミ比例セシメタリシニ其効驗ハ能ク蒸溜製造業ノ改良ヲ促シ蒸溜器械ノ一大進歩ヲ見ルニ至レリト蓋シ以上ノ如キハ良ニ稀有ノ場合ナルヘシト雖モ然レモ第二ノ方法ニ此間接ノ効驗アルニ至リテハ決シテ爭フヘカラサル事トス只其欠點トモ云フヘキハ即チ重要ナル製造家ニ施行スルニ適スルモ之ヲ一般ニ廣ク施サントスルニ當リテ多少ノ不便存スルコト是

レナリ然レモ又之ヲ施スノ方法ナキニアラス則チ凡テ消費税ヲ課スルニ生産品ニ於テセスシテ其物品ヲ作為スル所ノ器械ニ於テセハ大抵ノ場合ニ施スモ支障ナキヲ得ヘシ猶蘇蘭ノ例ニ於ケルカ如ク酒精ニ課税セント欲スルハ其生産高ニ課税セスシテ蒸溜器械ニ課税スルカ如キ是レナリ又計量器械ヲ以テ製造用ニ供スル器械ノ大小ヲ量リ之ニ依リテ以テ其生産高ノ概量ヲ計算シ而シテ其概量ニ課税スルヲ得ヘシ此方法ノ如キハ伊太利ニ於テ麥粉税ニ用アルモノト同シ之ヲ要スルニ前節ニ述ヘシ第一ノ方法ハ極メテ精密ナリト雖モ營業者ニ取リテ非常ノ不便アリ然ルニ之ニ反シテ第二ノ方法ハ較不精確ノ嫌ヒナキニアラサルモ營業者ニ取リテハ良ニ不便少キモノト謂フヘシ

**第二百二十二節 消費品ノ生産地ニ特別税ヲ課スル法**

消費税徴収ノ第三ノ方法ハ課税スヘキ消費品ノ材料即チ粗生品ヲ生

生産地ニ  
特別地租  
附加スル  
法

産スル所ノ土地ニ特別税ヲ賦課スルニアリ而シテ特別税ヲ課スルニハ或ハ定額税ヲ以テシ或ハ分級税ヲ以テス元來通常地租ノ上ニ尙ホ特別地即チ生産地ニ限リテ一定ノ租額ヲ増課スルコトハ其方法簡易ナルカ故ニ之ヲ唱道賛成スル者亦世ニ少カラズ良シ此方法ヲシテ更ニ複雑ナル分級法ニ據ラシメ生産地ニ於ケル地味ノ肥瘠ト其地ニ生スル生産品ノ品位トニ應ジ三級若クハ四級ニ分チテ税率ニ輕重ノ段階ヲ立テ之ニ特別税ヲ賦課スルトスルモ尙ホ既成品ノ製造高若クハ販賣高ニ課税スルヨリモ簡易ナル利便ヲ備ヘ從テ其徴収容易ニシテ且ツ畫一ノ租税ヲ課スルヲ得ヘシ例ヘハ葡萄酒税、砂糖税、煙草税等ヲシテ之ニ代フルニ葡萄園、甜菜圃、煙艸耕植地等ニ特別ノ地租ヲ課スルトセハ税法簡ニシテ且ツ營業上束縛干涉煩累等ノ虞ナキヤ明カナリ現ニ日耳曼ノ如キ此方法ヲ施キ即チ煙草ノ製造販賣等ハ之ヲ自由ニ

シ而シテ特別地租ヲ以テ煙艸耕植地ニ課スルノ制トセリ實ニ此方法ノ利便ナル既ニ己ニ陳述シタルカ如シ然レモ又一方ニ於テハ頗ル不便ナキニアラス他ナシ其生産スル所ノ粗生品ノ品位分量等ヲ精密ニ算計スル能ハサルヲ以テ公平ニ各土地ノ生産力ニ比例シテ課税スルコト難ク又縦令之ヲ爲シ得ルトスルモ更ニ精密ニ土地ノ肥瘠生産品ノ美惡等ニ比例セシメントセハ勢ヒ各地ノ等級ヲ細別セサルヲ得ス斯ノ如クセハ既ニ税法ノ簡易ヲ失フノ不便ヲ來セハナリ故ニ前述ノ如ク最モ簡易ノ方法トナサンハ即チ土地ヲ分級セスシテ各生産地ニ一定ノ租額ヲ課スルニ在レモ此租税ニシテ若シ輕微ナル片ハ其多少ノ不平均ハ地主ニ於テ負擔シ得ヘケレモ現今歐洲諸國ニ於テ製造税若クハ販賣税ヲ以テスルカ如キ重税ヲ更ニ轉シテ生産地ノ地租ニ増課セントスル片ハ勢ヒ甚シク地租ノ負擔ヲ増サ、ルヲ得ス然ル片ハ

其不便

不平均不公平ノ甚シキモノヲ生シ乃チ葡萄園甜菜園若クハ煙艸耕植地所有者ノ或ル者ハ非常ノ幸福ヲ享ケ一方ニ他ノ劣等ナル生産地ヲ有スル者ハ甚シキ不幸ヲ被ムルニ至ルヘシ

(備考)現今歐洲ニ於ケル砂糖課税額ハ時トシテ其生産品ノ總價格ニ超エ若クハ之ト均シキ巨額ニ達セリト云

又消費品ノ税ヲ變シテ生産地ノ特別税ト爲スニ當リテハ尙ホ他ノ大不便アルヲ免レス何ソヤ從來諸國ニ行フ所ノ葡萄酒税ナリ砂糖税ナリ烟草税ナリ皆齊シク内地ニ消費サル、物品ニ限リテ課税シタルモノニシテ特リ外國へ輸送スルモノハ一切之カ課税ヲ免スルヲ常トセリ抑、斯ク外國輸出ノ物品ニノミ限リテ免税シタル所以ハ若シ之レニ課税セハ外國市場ニ於テ競争スルヲ得サルヘク加之ナラス消費品ハ外國ノ關門ヲ通過スルニ方リテ輸入税ヲ課セラルレハ之ニ内地消費



税ヲ加へハ國產ノ輸出ヲ禁遏スルニ均シカルヘシトノ理由ニ基ケルモノナリ然ルニ一般書一ノ方法ヲ以テ葡萄酒砂糖煙草等ノ粗生品生産地ニ課税スルハ則チ是等ノ輸出ヲ妨阻スルモノニシテ又其輸出ニ際シ該品カ負擔セル特別地租ヲ税關ニ於テ拂戻サントスルニハ如何ナル方法ヲ以テ拂戻ノ歩合ヲ計算スヘキヤ是等拂戻ノ割合ヲ算定シテ不公平ナカラシメンハ甚タ困難ノ事業トス又諸外國ヨリ輸入スル物品ニシテ内地製造ノ消費品内地消費税ヲ負擔セルト競争スルノ恐レアル時税關ニ於テ該輸入品ニ償補税ヲ課セントスルニ當リテ何程ノ償補税ヲ課スヘキヤ其計算スラ尙甚タ困難ナルニ至ルヘシ

### 第二百二十三節

#### 國家ノ特占權

消費税徵収ノ第四ノ方法

ハ或ル消費物品ニ就イテ其製造若クハ販賣ノ特占權ヲ政府ニ有セシムルニ在リ此ノ如キ政府特占業ノ収益ハ租税ニ準スヘキモノトセラ

國家カ製  
造販賣等  
ノ特占權  
ヲ有スル  
法

特占權ヲ  
有スルハ  
公正ノ主  
義ニ反ス  
例外

ルレト獨リ準租税ト云フヘキノミカ其性質タル純乎タル租税ニシテ又唯消費税徵収ノ一便法ト云フヘキノミ抑凡テノ營業ヲ公許セル現今ニ在リテ殊更政府カ貨物ノ製造若クハ販賣ノ特權ヲ專有スルカ如キコトハ之ヲ公正ノ點ヨリ見ルニ一ノ據ルヘキ理由ナキヤ明カナリ但シダイナマイトノ如キ特ニ危険ナル火藥ノ製造販賣等ハ之ヲ自由ニ許スルハ治安ニ妨害アルノ恐レアルカ故ニ國家ノ靜謐安寧ヲ維持スル點ヨリ警察上取締ノ便宜ヲ以テ之ヲ政府ニ專有スルカ如キハ一ノ例外トシテ公正ノ點ヨリ觀察スルモ十分ノ理由存スルモノナレバ以上ノ如キ性質ヲ有スル者ヲ除ク外政府ニ於テ貨物製造販賣等ノ特占權ヲ有スルハ之ヲ公正ノ點ヨリ見ルモ又經濟上ヨリ論スルモ更ニ一ノ據ルヘキ道理存セサルノミカ却テ所謂特占權ニ附帶スル一切ノ不利不便ヲ醸成シ兼テ又官業ニ附帶セル不利弊害百出スルニ至ル

政府特占  
營業ノ不  
利弊害

現今政府  
ノ有スル  
特占權ハ  
單ニ財政

ヘシ元來政府ノ事業ニ付テハ其管理監督ヲ爲スモノハ皆一定ノ俸給ヲ受ケテ使役セラル、モノ即チ其事業ノ盛衰ハ敢テ自己ノ利害ニ痛切ナラサル官吏ナルカ故ニ唯勞ヲ厭ヒ煩ヲ嫌ヒ一ニ逸ヲ主トシテ彼ノ難キニ當リテ拮据倦マス一意進歩改良ニ眷々タルカ如キハ官業ニ於テ殆ト見ルヲ得ヘカラサル事トス況シテ特占營業タル固ト他ニ競争ノ虞ナキカ故多クハ從來ノ慣行ニ安ンシ復タ公衆ノ嗜好ニ投シテ良好ノ貨物ヲ出サントスル等ノ事ナキハ勿論凡テ進取ノ氣象ニ乏シク又且ツ經濟上少カラサルノ不利ヲ有スルモノナリ故ニ今日諸國ニ於テ特占營業ノ行ハル、所以ハ別ニ公正ノ理由アリテ然ルニアラス。即チ唯財政上ノ一點ニ於テ然ルノミ之ヲ詳言スレハ或ル種ノ營業ヲ政府ノ特占トシテ民間ニ同一ノ企業競争ヲ禁スルコトハ之ヲ民業ニ委子置キ其生産物ヨリ消費稅ヲ徵收スルヨリ遙カニ國庫ニ巨大ノ収

上ノ理由  
ニ基因ス

入ヲ得ヘシト云ヘル財政上ノ爲メニ存スルモノナリ斯ノ如ク政府ニ於テ民間ニ同一ノ企業ヲ禁シ競争ヲ止メ以テ貨物ノ製造若クハ販賣ノ特權ヲ有スルホハ夫ノ民間ノ生産ヲ監査スルカ如ク課稅物件ニ脱漏ノ虞ナク其他監督ニ検査ニ毫モ煩累ヲ來タサス弊害ヲ醸サスシテ随テ巨大ナル収入ヲ得ヘキハ固ヨリ疑ヲ容レサルナリ是ヲ以テ課稅上自ラ人民營業ノ自由ニ檢束ヲ加ヘ若クハ其進歩ヲ妨害阻止スルカ如キ弊害ニ比シ寧ロ二三ノ貨物ヲ擇ンテ之カ製造販賣ノ特占權ヲ政府ニ有セシムルコト却テ利益アルノ場合亦鮮カラス而シテ製造及ヒ販賣共ニ政府ニ於テ其特占權ヲ有スル場合ハ猶佛國政府ノ煙草業ニ於ケルカ如キ則チ是レナリ但シ均シク政府ノ特占ニシテ唯リ製造ニノミ特占權ヲ有シ販賣權ヲ有セサルモノアリ又販賣權ノミヲ有シテ製造權ヲ有セサル場合アリ是レ猶佛國政府ニ於ケル摺付木業ノ獨リ

製造權ヲ有シテ販賣權ヲ有セサルカ如ク之ニ反シテ該國ノ鹽業ハ販賣權ヲ有スレド製造權ヲ有セサルカ如シ之ヲ要スルニ一般ノ通則トシテ特占營業ハ其官業ナルト民業ナルトヲ問ハス均シク經濟ノ原理ニ背戻スルヤ固ヨリ論ヲ俟タス然レド之ヲ以テ租稅徵收ノ一便法トシ又一般通則ノ例外トシテ特ニ許スヘキモノハ必ス左ノ數要件ヲ具備シタル場合ニ限ル

- 第一 二三固有ノ地方ニ於テノミ天然ニ巨額ヲ生産スヘキ貨物ナルカ若クハ其生産ニ複雑繁多ノ方法ヲ用ヒスシテ其製造及ヒ販賣ヲ更ニ少數ノ場所ニ限局シ得ヘキ時
- 第二 非常ニ巨大ノ収入ヲ國家ニ納ム可キ望存スル時即チ佛國ノ煙艸特占業ノ如キハ此點ニ於テ最モ勝レルモノトス同特占業ノ純收入ハ三〇〇〇〇〇〇〇法ノ巨額ニ達セリ他ノ諸國中通常消費

特占業ト  
爲スニ適  
スル物品  
ノ要件

稅徵收法ニ據リテ未タ此ノ如キ巨額ノ収入ヲ煙艸稅ヨリ得タルモノアルヲ見ス故ニ此三〇〇〇〇〇〇〇法ノ巨額ヲ他ノ方法ニ依リテ收入セント欲スルハ勢ヒ生産ニ於ケル自由進歩ヲ傷害シ人民ヲシテ煩雜ナル規則ニ從ハシメ且ツ嚴ニ監査檢束等ヲ施行セサルヘカラス而レド尙恐ラクハ此巨額ヲ納ル、ニ難ラン是レ佛國政府カ財政上特占業ヲ棄却スル能ハサル所以ニシテ又他ノ歐洲諸國ニ於テ之ニ模倣セント欲スル所以ナリ

併シ特占權ノ不利ト弊害トハ固ト免カレ難キモノナルカ故ニ宜シク之レカ漸減漸盡ノ計ヲ施シ其民間ニ滋蔓シテ事業ノ領域ヲ蠶食スルナカラント要スヘシ然ルニ佛蘭西ノ如キハ普佛戰爭後愈益特占業ヲシテ諸種ノ事業ニ及ホサシメントヲ欲シ從來既設ノ煙艸及ヒ火藥業ニ加フルニ新ニ摺附木ノ特占業ヲ始メ尙且ツダイナマイトノ特占

特占業ハ  
宜シク制  
限スヘキ  
モノナリ

ヲ爲セント試ミルニ至レリ斯ノ如ク次ヲ逐ヒテ許多ノ肝要ナル營業  
ヲ政府ノ特占ニ歸セシムルハ各種營業ノ改良進步ヲ障礙シ且其弊  
害ヲ醸出スル蓋シ底止スル所ナキニ至ルヘシ故ニ特占業ヲ起サント  
セハ必ス巨大ノ収入アルヘキ二三ノ業ニ限ラサルヘカラス今日既設  
ノ特占業ニシテ尤モ著名ナルハ佛國ノ煙草業ニシテ之ニ次クモノハ  
食鹽富園等ノ特占是レナリ

第二百二十四節 不良ナル特占法 凡ソ特占事業中尤モ

不良ニシテ殊ニ近者人民ノ憤懣ヲ買ヒシ者ハ則チ政府自ラ特占業ヲ  
爲サスシテ之ヲ格段ナル會社ニ與ヘ以テ貨物ノ製造ヲ請負ハシムル  
ノ法是レナリ彼ノ佛國ニ於ケル摺附木業ノ如キ即チ此一例證ナリス  
ノ如キハ政府カ直接ニ特占業ヲ營爲スルヨリ其弊害一層多キモノト  
ス何トナレハ公衆カ拂フ租稅ヲ以テ特ニ一會社ノ利益ヲ増加スルモ

會社ニ特  
占權ヲ附  
與スルハ  
不良ニシ  
テ且ツ弊  
害アリ

ノナリト考フルカ故ニ民心ノ激昂ヲ増シ感情ヲ害スルノ度政府ニ對  
スルヨリ一層強烈ナルモノナレハナリ且夫レ租稅ノ重キニ從ヒ奸詐  
益甚シク行ハルハ是レ事物ニ於テ免カレ難キノ常觀タレハ政府ハ  
勢ヒ其格段ナル會社ニ許スニ此密賣ヲ搜索調査スルノ權ヲ以テセサ  
ルヘカラス然ルルハ私立會社ハ既ニ特占權ノ附與ヲ以テスラ尙人民  
ノ怨望ヲ招クナルニ又其自由ヲ害スルカ如キ斯ル公權ヲ分與セラル  
ハニ至ル豈ニ人民ノ感觸ヲ害セサラント欲スルモ得ンヤボリユ一氏  
ハ佛國ノ摺附木稅法ノ設置ヲ評シテ近世ノ財政史上愚舉ノ尤モ甚シ  
キモノニ列スヘント云ヘリ煙草ノ特占權ヲ會社ニ附與シ而シテ政府  
自ラ特占業ヲ營爲セタルヨリ却テ多額ノ收入ヲ得タルノ例ハ僅カニ  
之ヲ伊太利ニ見レバ斯ル例ハ決シテ倣フニ足ラサルナリ

第二百二十五節 富園ノ特占權 富園其他之ニ類スル博奕

富園ノ特  
占權

其德義上  
ニ生スル  
結果弊害

ノ特占權ノ如キ尙現今開明諸國ニ往々存スレバ(例へハ伊太利ノ富講  
ノ如キ)世人舉テ之ヲ非難セサルハ莫シ而シテ特リ伊太利其他二三ノ  
國ニ於テ尙之ヲ撤去スルニ忍ヒサル所以ハ蓋シ財政上ヨリ觀察シテ  
其收入額ノ最モ巨大ナルカ故ナリ實ニ富講ノ如キハ單ニ貪慾者ノ無  
智及ヒ投機心ニ基ケルモノニシテ其結果タル徒ニ人民ヲシテ實業以  
外ノ岐路ニ奔馳セシメ僥倖心ヲ助長シ真正ノ貯蓄心ヲ亡失セシメ其  
極一世ヲ舉ケテ懶惰者流ノ巢窟トシ又敗家子弟ノ淵藪タラシムルカ  
如キ誨邪導惡ノ階梯タルモノナリ故ニ斯ノ如キ租稅ハ財政上如何ナ  
ル利益アリトスルモ租稅ハ須ラク社會ノ不德義ヲ是認シ若クハ之ヲ  
獎勵スルモノタラサラントテ要スト云ヘル彼ノ公正ノ大原則ニ背反  
スルモノナレハ須ラク之ヲ全廢セサルヘカラス若夫レ此稅法ヨリ生  
スル德義ノ腐敗ヲ顧ミサルトキハ國家ハ博奕ノ如キ憎ムヘク卑ムヘ

其地ノ消  
費稅徵收  
方法

キ情慾ヲ抑制スル能ハサルノミナラス財政上ノ目的ヲ以テ國家ニ収  
入ヲ計ル一手段トシテ反テ此不德義ヲ獎勵セサルヘカラスカ如キ  
場合ニ至ルヘシ故ニ若シ富國ノ特占法ヲ存シナカラ一方ニ於テ政府  
カ法律ヲ以テ博奕等ヲ罰スルハ是レ猶政府收入ノ本源ヲ減スルニ異  
ナラサルモノニシテ到底矛盾ノ行爲タルヲ免カレス左レハ富講ヨリ  
生スル收入ヲ以テ財政上一大財源トナスコト尙ホ二三ノ國ニ行ハル  
ト雖モ早晚全廢漸滅ニ歸セサルヘカラスヤ明ケシ

第二百二十六節 重要ナル内地消費稅 内地消費稅ノ重

モナル徵收方法ハ上來舉ケシ四種ニ過キサレバ尙實際各國ニ行ハル  
、内地消費稅ノ徵收方法ニ至リテハ實ニ夥多ニシテ而モ紛糾錯雜ヲ  
懸ムルカ故ニ今一々概括シテ之ヲ論センハ固ヨリ能ハサル所ナリ而  
ノ其他ノ徵收法ニハ或ハ賣上高ニ據リ或ハ印紙稅ヲ以テシ或ハ消費

品ノ運搬ニ課シ又ハ一地方ノ出入ニ際シ其境堺ニ於テ入市税ヲ課スル等頗ル錯雜ヲ極メリ内地消費税ノ得失ヲ研究スルニ當リテハ常ニ之ヲ以テ關稅即チ外國ヨリ輸入スル消費品ノ租稅ト相聯貫シタル問題ト爲サ、ルヘカラス隨テ内地消費税ノ各種ハ決シテ直稅ニ於ケルカ如ク之ヲ獨立トシテ研究スルコト能ハサルモノトス故ニ又各種ノ消費税ニ就イテ觀察ヲ下サ、レハ直チニ全體ヨリ概論スルコト能ハス殊ニ消費税ハ國毎ニ其種類ヲ異ニシ又其課稅セラル、消費品ノ數ニ大差違存スルカ故ニ一々各國ニ行ハル、各種ノ消費税ヲ研究センコト到底能ハサル所ナリ因リテ余輩ハ次章ニ於テ僅カニ各種重要ノ消費税ノミニ就イテ論セントス

### 第十一章 重要ナル内地消費税

#### 第一項 必需品ノ消費税

#### 第二百二十七節 食鹽税及醬油税

鹽ハ人生ノ必需品ニシテ之ニ消費税ヲ課スルコトハ現今諸國ニ行ハレ又古來ヨリ行ヒシ例ハ往々諸國ニ見ル所ナリ本邦ニ於テハ鹽ニ課税ナケレト同様に看做スヘキ必需品ノ醬油ニ課税アリ是レ外國ノ鹽税ト比スヘキモノトス抑食鹽ノ課税ニ反對スル重モナル論據ハ

第一 食鹽ハ人生ノ最必需品ナレハ之ニ課税スルハ即チ必要ノ消費ニ課税スルモノニシテ人民殊ニ下民ノ生計ヲ困難ナラシムト云フコト

鹽ノ課税ハ有害ナル理由

第一、下民ノ生計ヲ困難ナラシム

第二、鹽ノ消費ハ  
却テ貧民  
ニ多キコト

第三、鹽ハ  
諸種ノ工  
業ニ於ケ  
ル粗生品  
タルコト

鹽稅ノ  
得失

鹽稅ノ利  
便ナル點

第二 食鹽ノ消費ハ貧富ノ差ニ依リテ消費高ヲ異ニセス否寧口貧民ハ多量ニ食鹽ヲ消費スルモノナレハ(例へハ多量ニ鹽魚ヲ用ヒ或ハ家族多キカ故)其租稅ハ却テ貧民ニ重ク富民ニ輕シト云フコト左レハ鹽稅ハ分頭稅ナリト云ヘル攻撃甚ク勢力チ有スルモノ、如シ然レハ該稅ハ分頭稅ナルノ故ヲ以テ一概ニ嫌惡スヘキモノニアラサルノミカ若シ直稅ノ如キモノニシテ毫モ下民ニ負擔ナキ片ハ鹽ノ如キ必要品ニ課稅シ幾分カ下民ヲシテ納稅セシメンカ爲メ分頭稅ヲ普及セシムルモ可ナリ併シ概シテ必要品ノ課稅ハ下民ノ生計ヲ困難ナラシムルカ故ニ亦宜シク注意スヘキ事トス

第三 鹽ハ工業若クハ農業ニ多ク使用セラル、モノナレハ若シ之ニ課稅セハ鹽ノ使用ヲ妨ケ即チ農業工業ノ粗生品ニ課稅スルモノニシテ其發達ヲ妨クル少カラスト云フコト此ノ如キハ製造用ニ供

スル鹽ニ免稅セハ以テ其弊ノ幾部ヲ輕減スルヲ得ヘシ例ヘハ一八六二年佛國ニ於テ曹達製造用ニ供スル鹽稅ヲ免除シタルカ如キ是レナリ

以上ハ鹽稅ニ反對スル三箇ノ要領ニシテ中ニ就キ第一及第二ノ如キハ均シク本邦ノ鹽稅ニ適用スルヲ得ヘシ殊ニ本邦ノ鹽油ハ製造品ナレハ其營業者ニ煩累ヲ加ヘ自由ヲ檢束シ且ツ煩則ニ服從セシムルノ點ニ於テハ却テ鹽稅ニ過クルノ害チ有スルモノト云フヘシ抑鹽稅ノ利益ハ唯財政上ノ一點ニ在ルミニシテ元來鹽ハ必要品ナレハ其消費最モ普通ニ且ツ稅率ノ増加ニ因リテ其消費高ヲ減縮スルモノニアラサレハ頗ル多額ノ收入ヲ得ヘキモノトス次ニ鹽稅ノ徵收ハ定ニ容易ナルモノナリ何トナレハ鹽ハ格段ナル海岸歟若クハ鹽坑ニ於テノミ生産スルモノニシテ何處チ問ハス生産スルモノニアラサレハ其生

諸國ノ鹽  
稅及ヒ其  
廢止

産一地方ニ偏集シ從テ監査ヲ行ヒ易ク又稅率少シク重キニ過クルモ  
敢テ通稅ノ虞ナキカ故ニ財政上一大便利ヲ備フルモノト云ハサルヲ  
得ス蓋シ歐洲諸國ニ於テモ皆之ヲ行ヒシカト獨リ諸國ニ率先シ  
テ鹽稅ヲ廢止シタルハ英國トス該國ニ於テハ一八二五年以後全ク之  
ヲ廢止セリ白耳義及ヒ日耳曼ニ於テハ近年漸ク之ヲ廢止シ又伊太利  
澳地利ノ如キ今尙ホ之ヲ行ヒ現ニ巨額ノ收入ヲ得伊太利ニ在リテハ  
一八七六年ニ七八〇〇、〇〇〇法ヲ收入シ澳地利匈牙利ニ於テハ八  
〇〇〇、〇〇〇法ヲ收入セリ而シテ其收入ノ方法ハ兩國共ニ政府ノ特  
占法ニ據ルカ故ニ其收入高ヨリ粗生品ノ原價一二〇〇、〇〇〇法乃  
至一五〇〇、〇〇〇法ヲ扣除セサレハ精確ノ收入ヲ見ル能ハス佛國  
ノ鹽稅ハ往昔之ヲカベルト稱シ其課稅法頗ル重ク且ツ不平均ニシテ  
方今ニ迄ルモ尙ホ該稅ノ記憶ヲ存シ從テ之レヲ嫌惡スルノ情尙ホ民

伊佛國  
專ノ鹽稅

間ニ遺存ス何トナレハ佛國舊時ノ鹽稅即チカベルハ政府ニ於テ非常  
ニ綿密ノ稅法ヲ布キ加フルニ其實行嚴重ニシテ人毎ニ鹽ノ分量ヲ定  
メ之レヲ購求スルノ義務ヲ負ハシメ且ツ稅率甚タ重カリシカ故ニ其  
慘苦ノ記憶今尙ホ遺忘スヘカラサルモノアレハナリ併シ當世期ノ初  
メヨリ佛國ニ行フ所ノ鹽稅ハ其稅率輕微ニ又購客ヲシテ必ス或ル定  
量ヲ購入セシムルカ如キ義務ヲ負ハシメサルカ故ニ其弊害モ又敢テ  
昔日ノ如ク甚シカラス以上陳述セル如ク鹽稅ハ諸國共ニ均シク存セ  
シモノニシテ且ツ其收入巨大ナルノ利便ヲ有スルレトモ固ト必需品  
ニ課稅スルモノナルカ故ニ課稅上宜シク之レヲ避クルヲ以テ良策ト  
ス

### 第二項 嗜好品ノ消費稅

#### 第二百二十八節 飲料稅及ヒ其收入

飲料品ノ種類頗ル

飲料品ノ種類頗ル

飲料稅ノ  
種類ハ各



國同一ナ  
ラサレモ  
概シテ其  
収入巨大  
ナリ

佛國ノ飲  
料税收入

普國同上

英國全上

多シト雖モ各國民各其嗜好ヲ異ニスルカ故ニ一概ニ之ヲ論スルコト  
能ハス抑嗜好品ニ係ル消費税中飲料品ニ課シテ得タル収入ハ各國共  
ニ重要ノ地位ヲ占メ而モ歐洲開明諸國ニ在リテハ概テ飲料税ハ歲計  
上巨大ナル部分ヲ占メリ佛國飲料税ノ収入ハ一八八七年度ニ於テ酒  
類税四三七〇〇〇〇〇法蘭葡萄酒ノ輸入税ヲ加算シテナリ之ニ珈琲  
ノ輸入税一八八五年度ノ一〇七〇〇〇〇〇法ヲ合算スルハ實ニ  
巨大ノ額トナル普國ノ酒税ハ概テ獨逸帝國ノ國庫ニ收納セラル、モ  
ノニシテ一八八六年度ノ収入額四七三〇〇〇〇〇馬克ト之ニ普國ニ  
収留スル額即チ一〇〇二、八〇〇〇馬克トヲ合算シタル者即チ普國飲  
料税ノ収入トス英國飲料税ノ収入ハ尙ホ之レヨリ遙カニ巨額ニシテ  
其一八八七年度ニ於ケルモノハ

蒸酒税 二三九六、四〇〇〇〇磅(海關稅ノ收入ヲモ合算ス)

ラム酒及葡萄酒税 三〇八、五〇〇〇

茶税 四六一、三〇〇〇

珈琲税 一八七、〇〇〇

合計三一八四、九〇〇〇磅トス此額ハ同年度ニ於ケル收稅總額ノ四割  
二分一厘ニシテ殆ト租稅全收入ノ半ニ達スルモノトス又魯國ノ如キ  
モ飲料税ノ収入ハ關稅ノ收入ヲ除キ二億ルーブル(大約一、六〇〇〇、〇  
〇〇圓)ナリト云フ本邦ニ於ケル飲料税ハ單リ酒造税ノ一科目ノミ  
ナレモ其收入現今ニ於テハ殆ト一四〇〇、〇〇〇圓ニ達セリ實ニ本  
邦ノ間稅中獨リ收入ノ見ルヘキモノ此酒造税ヲ措イテ他ニ一モ存ス  
ルコトナシ左レハ飲料税ハ各國ニ於テ收入ノ最モ重要ナル部分ヲ占  
ムルモノナリト云フモ蓋シ懸言ニアラサルヘシ

第二百二十九節 飲料税ノ種類及ヒ各種飲料税ノ收入

本邦同上

ハ國民ニ因リテ異ナルコト 飲料ハ其性質上ヨリ分チテ二種トスルヲ得ヘシ曰ク

飲料ノ二種

國民ノ嗜好ニ由リ各國共通ニ普通其飲料ヲ異ニス

第一 アルコール性飲料

第二 アルコール性ヲ含有セサル飲料

第一種中重モナルモノハ蒸酒類、酒精類、麥酒、葡萄酒及ヒ本邦ノ酒類等トス第二種中重モナルモノハ珈琲、茶、チョコレート等トス是等各種ノ飲料品中ニ就キ國民ノ性質慣習國ノ寒暖氣候ノ差異等ニ因リテ各國一般其嗜好ヲ異ニス乃チ佛國人ハ葡萄酒、林檎酒ヲ以テ必要ノ飲料トシ日耳曼人ハ麥酒ヲ嗜ミテ之ヲ必要ノ飲料トスルコト猶本邦ノ茶ニ於ケルカ如ク英國人ハ麥酒蒸酒ヲ用ヒ且ツ熱シタル飲料即チ茶、珈琲ノヲ用フルヲ常トス本邦ハ茶ヲ以テ必要ノ飲料トシ加フルニ日本酒ノ消費モ亦頗ル大ナリ斯ノ如ク飲料ノ嗜好ニ差異存スルカ故ニ其性質

種類ニ由リテ生産ノ狀況ヲ異ニシ又隨テ消費ノ分量ヲモ異ニス是ヲ以テ各國飲料ノ消費ニ課稅セントセハ各其法ヲ異ニスルハ勿論能ク國民嗜好ノ在ル所ヲ察シ又其生産地ノ内外ニ由リテ外國ニ於ケル輸出入ノ關係ヲ考ヘ專ラ國情ニ從テ以テ稅法ヲ設ケサレハ大ナル誤謬ヲ生スルニ至ルヘシボリユー氏ハ嘗テ飲料稅ノ收入ニ就キ英佛兩國ヲ比較シテ曰ク

「概シテ飲料稅ハ北國ハ南國ニ於ケルヨリ其收入多ク且ツ徵收容易ナルヲ常トス就中英國ノ收入ノ佛國ヨリ大ナルカ如キハ許多ノ理由アリテ存ス加之ナラニ英國ノ飲料稅ハ佛國ニ比スレハ其民ヲ惱マシメ又民ニ嫌厭セラル、コト少シ其他理由一ニシテ足ラス 第一北國ノ人民ハ南國ノ人民ニ比スレハ持重ノ氣ニ乏シク即チ諸國ニ於テ最モ重稅ヲ課スル蒸酒ヲ濫用スルコト甚シ 第二北國ノ

飲料稅ノ收入ニ就キ英佛兩國ノ差異

人民特ニ英國人民ハ外國產ノ飲料ニハ茶ヲ用セ内國產ノ飲料ニハ麥酒ヲ用フルノ量甚タ多キコト是レナリ 第三北國ニ於テハ葡萄酒ノ如キ簡單ニ生産シ得ヘキ飲料ヲ生セス 第四英國ハ農工業共ニ規模宏大ナル經營盛ンニ行ハレ即チ麥酒釀造所蒸酒蒸溜所ノ如キ其數僅少ニシテ而モ其構造大ナルヲ以テ租稅ヲ徵收スルノ便利少カラス然ルニ佛國ハ全ク之ニ反シ其生産最モ盛大ナル葡萄酒ノ釀造者ノ如キモ其數無慮數十万人ニシテ是等ハ皆政府ニ於テ最モ嚴密ニ課稅スル所ノ酒精ヲ製造シ得ヘキ者タリ加フルニ葡萄酒ハ其價格數種ニシテ其間ニ甚シキ等差アリ即チ甲種類ハ乙種類ニ對シ殆ト百倍ノ價格ヲ有スルモノアリ而シテ政府ハ敢テ之ヲ區別スルノ勞ヲ執ラス又之ヲ區別スル能ハサルヲ以テ皆同一ノ租稅ヲ課ス是レ即チ佛國飲料稅ノ殊ニ負擔ニ堪ヘ難ク且ツ嫌惡セラル、所

以ニシテ又無慮數十万人ノ生産者ヲ驅テ既ニ其物品價格ニ一ト百トノ大差アルニモ拘ハラズ悉ク一品一率ノ稅制ニ遵テ諸ノ規則及ヒ嚴酷ナル法律ノ究問ニ服從セシムルカ故ニ其負擔富民ニ輕ク貧民ニ重ク常ニ偏重偏輕ノ患ヒアリテ民心ノ之ニ適セサル亦宜ナリト謂フヘシ云々」ト

又ホリユ一氏ハ佛國飲料稅殊ニ必要ノ飲料ナル葡萄酒、林檎酒、麥酒等ノ課稅ヲ廢センコトヲ主張セリ是ニ由リテ之ヲ觀ルモ消費稅收入ノ大小及ヒ之ヲ賦課スル方法ノ如キハ國民嗜好ノ相違ニ由リテ大ニ異ナラサルヲ得サルカ故ニ到底畫一ノ原則ヲ以テ消費稅ヲ論スルコト能ハサルモノナリ

**第一百三十節 本邦ノ飲料稅** 本邦ノ飲料稅ハ現今唯一ノ酒造稅アルノミ而シテ其收入ハ關稅中重要ナル部分ヲ占ムルモノ

本邦ノ酒造稅

タルコトハ既ニ前節ニ述ヘタルカ如シ蓋シ其徵收法ハ營業免許税法ト造石高税法トノ二種ニ依リテ之ヲ酒類營業人ヨリ徵收スルモノトス而シテ本邦ノ酒類ハ外國ノ酒類ト全ク其性質ヲ異ニセルヲ以テ更ニ外國產製造品ノ競争ナキカ故ニ自ラ課税ニ適シ且ツ甚タ便宜ヲ有スレバ若シ萬一本邦人ノ嗜好ニシテ外國人ノ嗜好ト同シク又其消費スル酒類ノ性質ニシテ同一ナルハ實ニ尠カラサル不便利ヲ存スルナラン何トナレハ完全ナル課税權條約面ニ依テ制限セラレ未タ我ニ存セサルカ故ニ外國產ノ輸入酒類ニ對シ内國ノ租税ト同一ノ海關稅ヲ課スルコト難ク隨テ外國品ノ競争ニ敗ヲ取リ遂ニ全勝ヲ得ラルカ如キ不利ヲ生スルニ至ルヘケレハナリ然ルニ幸本邦人ノ嗜好ハ全ク外國人ト其趣キヲ異ニシ從テ其酒類ノ性質モ亦大ニ異ナルカ故ニ更ニ輸入品ノ競争ナク安然内國ノ酒類ニ課税シ以テ巨額ノ收入ヲ

徵收スルヲ得ルハ實ニ消費税中得難キ税源ナリト云ハサルヲ得ス加之ナラズ茲ニ賦税上又一大便利ト云フヘキハ即チ日本酒ノ價格常ニ西洋酒ノ價格ヨリ低ク從テ代用品ノ多ク用ヒラレサルコト是レナリ併シ若シ税率ニシテ一朝高キニ至ラハ條子ニシテ消費品ノ代用物現ハルハ道理上免カルヘカラサル事ニシテ既ニ本邦ニ於テモ日本酒ニ代用スルニ西洋酒ヲ以テスルコト近時日一日ヨリ多ク殊ニ本邦人ノ嗜好漸次西洋酒ヲ嗜ムノ傾向ヲ呈スルカ故ニ將來財政上ヨリ憂フヘキハ西洋酒輸入ノ増加ト西洋酒ヲ内地ニ製造スル高益增多ナランコト及ヒ完全ナル關稅權未タ吾手ニ存セサルトニ由リテ日本酒ニ課セシ租税ノ收入高忽チ減少スルニ至ランコト是レナリ然リト雖モ條約改正成リ關稅權ニシテ我ニ回復スルニ至ラハ則チ外國輸入酒類ニ課スルニ補償稅ヲ以テシ之ト同時ニ本邦製ノ西洋酒ニモ亦均シク課

税スルヲ得ヘシ是故ニ條約改正上我カ稅權ノ恢復ハ須ラク一日モ之レヲ忽諸ニ附スヘカラサルモノニシテ且ツ其最大要務タルコトハ吾人ノ夢寐ニタモ遺忘スヘカラサルモノナリ抑モ本邦ノ酒造稅ハ一大良稅ナルカ故ニ今后益之レヲ擴張シ得ヘキ租稅トシ又豫メ今日ニ保存セサルヘカラサルモノタルコト等ハ蓋シ贅言ヲ費サスシテ明カナラン

(備考)明治二十年度ノ調査ニ據レハ本邦酒類釀造所ノ數ハ一、五四五三營業人ノ數ハ一、五四一一二人ナリ故ニ營業者ノ數數十万ノ多數ニ分レタル消費品ニ製造稅ヲ課スルヨリハ較容易ニシテ且其營業ヲ妨碍スルコト少キモノトス本邦ニ於テハ酒稅ノ外飲料稅ハ一モ存セサレハ茶ハ普通必要ノ飲料品ナレハ試ニ之ニ課稅スルハ其收入必スヤ多カラシ然レハ斯クセハ必要品ニ課稅スルノ譏ヲ免ル

本邦ノ茶ニ課稅スヘキヤ

、能ハサルハ勿論茶ハ本邦ノ特產物ニシテ而モ海外輸出品中重要ノ位地ヲ占ムルモノナルカ故ニ之ニ課稅セハ則チ海外輸出品ニ對シ租稅ノ拂戻ヲ爲サ、ルヘカラサルノ煩累ヲ來タサン是ヲ以テ國費多端ニ國帑ノ缺乏甚シキニアラスンハ宜シク避クヘキノ課稅トス

第二百三十一節 砂糖稅及菓子稅 砂糖ハ消費稅ヲ課スル

ニ最モ適當ナル物品ト謂フヘシ蓋シ其理由ハ

第一 人生最必要ノ物品ニアラスシテ其消費稅ハ幾分カ被稅者ノ實力ニ應スルモノナルカ故ニ復々鹽稅ノ如ク貧富均一ニ課稅セラル、ノ害ナキコト

第二 然ルニ今日ニ在リテハ一種ノ嗜好ニ由リテ其消費高愈巨大トナリ又且ツ消費ノ増加迅速ナルコト加フルニ

砂糖ハ消費稅ヲ課スルニ適當スル理由アリ

第三 生産ノ方法ハ最モ課税ニ容易ナル狀況ヲ有スル等是レナリ  
 特ニ歐洲諸國ニ在リテハ砂糖ハ近年ニ迄ルマテ内地産ニアラスシテ  
 悉ク海外ノ輸入品タリシコト此レ課税上一ノ大便利ナリキ而シテ砂  
 糖ノ人生必需品ニアラサルコトハ當ニ疑フヘカラサルモノタルモ現  
 今一般人民ノ嗜好ニ據ルルハ又幾分カ要用ナル消費品ト云フヘキ傾  
 向ヲ呈スルニ至レリボリユー氏ハ左ノ如ク言ヘリ

『實ニ今ヲ去ル三百五十年前ニ在リテハ砂糖ハ猶今日ノ機那ニ於ケ  
 ル如ク一ノ藥品ニシテ藥種店ニ於テノミ賣買セシモノナリ砂糖蔗  
 ハ原ト印度ノ産ニシテ創メテサラセン人之ヲシ、リニ移植シ然  
 ル後アンダルーシーニ移セリ蓋シ之ヲ亞米利加ニ移植シタルハ西  
 班牙人ニシテ該地ニ於テハ耕植速ニ發達セリ歐洲大陸ニ於テ甜菜  
 砂糖ノ製造ヲ爲スニ至リシハ實ニ第十九世ニ在リ』ト

砂糖ハ古  
 代ニ在リ  
 ナハ必要  
 ナラシ  
 コト

左レハ砂糖ハ古代ニ在リテハ一ノ藥品ノ如ク罕レニ使用セラレ而シ  
 テ其消費ハ近來増加シタリシコト知ルヘシ然レモ現今ノ有様ヲ以テ  
 考フレハ砂糖ト雖モ幾分カ要用ナル消費品タル傾向ヲ呈シ特ニ茶珈  
 琲等ヲ必要ノ飲料トシ之ニ砂糖ヲ加味スルノ習慣存スル英國ノ如キ  
 所ニ於テハ決シテ贅澤品ト云フヘカラサルノミナラス普通ニ必要ナ  
 ル嗜好品トスヘキモノナルカ故ニ之カ課税モ亦宜シク輕微タルヘキ  
 ハ勿論ナリ抑前陳シタル如ク砂糖税ハ消費税中ノ良税ニシテ殊ニ該  
 税ハ財政上収入額ノ巨大ナルコトニ於テハ最モ著キ利便ヲ有スルモ  
 ノナリ佛國一八八七年度ニ於ケル砂糖税ノ収入ハ一、六八〇、〇〇〇  
 ○法ニシテ普國ハ帝國々庫ヘ収納スル分ト普國ニ收留スル分トヲ合  
 セ製糖税ノ収入二六〇、六六〇、〇〇〇馬克ナリキ以テ砂糖税ノ巨大ナル  
 収入ヲ納ル、ニ足ル良税ナルコト見ルヘシ且ツヤ前陳シタル如ク砂

佛普英ニ  
 於ケル砂  
 糖税ノ収  
 入

糖ノ生産ハ一處ニ聚合スヘキモノニシテ固ト偽造奸造等難キモノナ  
レハ從テ課稅容易ニシテ煩累ナキヤ知ルヘキナリ英國ハ一八七四年  
終ニ之ヲ廢止シタリ而レテ該國砂糖稅ノ收入額最大ナリシ時即チ一  
八六二年度ニ於テハ一、六〇〇、〇〇〇法ナリキ以テ該稅收入ノ輕  
々看邁スヘカラサルコト顯然タリ本邦ニ於テハ砂糖ニ課稅ナシ然レ  
テ上戸既ニ酒稅アリ下戸豈ニ砂糖稅ナクシテ可ナランヤ此ニ於テ之  
ヲ償補スルニ菓子稅ヲ以テス菓子稅ハ元來既成品ノ課稅ナレハ粗生  
品ノ課稅ニ比スレハ道理上害少キモノナレテ決シテ否ラサルナリ本  
邦ノ菓子稅ハ不便不利極メテ多シ而シテ其缺點ハ一ハ製造稅ヲ課ス  
ルニ菓子ノ賣上金高ニ比例セシメタルコト是レナリ此ハ曾テ前章ニ  
述ヘタル如ク賣上高ニ比例スルノ課稅ハ決シテ營業者ノ利潤ニ比例  
セシムル所以ニアラス加之ナラス毎ニ營業者ノ秘事ニ涉リテ帳簿等

菓子稅ノ  
不便不利

ノ檢査ヲ爲シ且ツ官民直接ニ屢會合セサルヘカラサルノ不便アリ況  
ンヤ又菓子營業者ハ其數甚タ夥シク所々ニ散在スルカ故ニ政府ニ於  
テ監督檢査ヲ施スニ當リテモ非常ノ煩勞ヲ要シ隨テ數多ノ各營業者  
モ亦一々此監督檢定ヲ受ケ且ツ凡テ稅則ヲ遵守セサルヘカラサルニ  
於テヲヤ爰ニ明治二十年度ノ調査ニ據レハ本邦ニ於ケル菓子營業者  
員ハ製造者六、二五一三人卸賣七、六一六人小賣一〇、八八八七人合セテ  
一七、九〇一六人ナリ之ヲ煙草營業者同年度ノ調査ニ據ルニ製造人  
五、三九六仲買人二、九三二小賣人二、七七二〇合セテ三、六〇四八及同年  
度ニ於ケル酒類釀造營業者或ハ醬油製造營業者一、一五二九人ニ  
比スル片ハ其間非常ノ相違アルカ故ニ其人民ニ煩累ヲ蒙ムラスノ程  
度ニ至リテモ菓子稅ハ煙草稅醬油稅酒造稅等ニ超ユルコト萬々ナリ  
故ニ斯ノ如ク生産ノ狀況多數ノ小營業者ニ分レ且ツ數十萬ヶ所ニ散

菓子税ニ  
代フルニ  
砂糖税ヲ  
以テスル  
可否

在セル貨物ニハ宜シク課税ヲ避クヘキモノトス況ンヤ其賦課法ハ賣上金高ニ比例セシムルノ税法タルニ於テヲヤ人民ノ之ヲ厭フ蓋シ所以ナキニアラサルナリ(且ツ菓子税ニ於テハ法律上菓子ト稱スルモノト菓子ニアラサルモノトヲ區別スルニ非常ノ煩雜困難存スルアリ)余輩ハ出來得ヘクンハ寧ロ菓子税ヲ廢シテ之ニ代フルニ砂糖税ヲ以テスルノ得策タルヲ信スルナリ然レモ現今ノ狀況ニ於テ砂糖税ノ起シ難キ所以ハ即チ外國産砂糖ノ輸入近來愈盛ニシテ力競争ヲ受クル所ノ内國産砂糖ニ今又課税スルルハ到底立行キ難キ恐レアルコト是レナリ是ニ由リテ見ルモ一日モ早ク條約ヲ改正シ稅權ヲ回復シ凡テ内地ノ法律ヲ以テ外國産ノ輸入品ニ消費稅ヲ課スルノ道ヲ開クハ實ニ目下ノ急務ト言ハサルヘカラサルナリ

第二百三十二節 煙草稅 煙艸ハ人類一種ノ嗜好ニ由リテ其

消費頗ル廣濶ナレモ固ト人類ノ必需品ニアラス良シ人生ニ大ナル害毒ヲ流サスト雖モ多少健康ニ害アルコトハ近來衛生上ヨリ非難スルニ因リテ明カナリ唯之ヲ辯護スルモノハ煙草ハ細民カ勞動中之ヲ用ヒテ心神ヲ休メ勞苦ヲ慰スルノ効アルカ故ニ決シテ無益ノ消費ニラスト云フニ止ルノミ畢竟其消費タル人類一種ノ嗜好ニ原クモノニシテ固ト決シテ有用ノ消費物ニアラサルヤ知ルヘギナリ併シ政府ノ之ニ課税スルハ決シテ衛生上若クハ道德上ノ考ヲ以テ衛生ニ害アリ道德ニ益ナシ故ニ之ニ課税スヘシト云フノ主意ニ本ケルモノニアフサルナリ斯ノ如キ主意ヲ以テ課税スヘカラサルコトハ余輩業既ニ其非ヲ辯シタリ(凡テ制禁ヲ以テ目的トシ之ニ課税スルルハ其目的ニシテ達シ得ラルレハ即チ財政上毫モ益ナキ租稅ヲ存スルニ至ルモノナリ)又煙草ノ消費ハ必要ナラサルカ故ニ縱令其價格騰貴スルモ其消費



煙草ハ課  
税スルニ  
最適ノモ  
ノタルト

煙草稅徵  
收法

第一、佛  
蘭西法  
第二、英  
吉利法

ヲ減スルト否トハ消費者ノ隨意ナリトテ之カ課税ヲ保護セントスル  
 カ如キハ毫モ理由ト爲スニ足ラス之ヲ要スルニ煙草稅ハ人生ノ必要  
 品ニ課スルモノニアラス即チ唯一種ノ嗜好ニ依リテ其消費一般ニ廣  
 ク幾分カ稅率ヲ高ムルモ甚シク減少スルモノニアラサルカ故ニ單一  
 財政上ノ目的ヲ以テ之レニ課税シタルモノナリ而シテ政府カ巨大ナ  
 ル收入ヲ得ントスルニハ消費稅中最モ良稅ト稱スヘシ其徵收法ハ(第  
 一)甲佛蘭西埃地利ニ於ケルカ如ク政府ノ特占法ニ依ル(第二)乙伊太利  
 ニ於ケルカ如ク煙草特占權ヲ或ル會社ニ授與シテ請負事業ト爲サシ  
 ムルカ(第三)英國ニ於ケルカ如ク内地ニ煙草ノ耕作ヲ嚴禁シテ特ニ關  
 稅ヲ重課スルノ方法ヲ以テスル是レナリ此二方法ニ據ルトキハ煙草  
 稅ノ收入ハ最モ多額ナルヲ得ヘシ現ニ佛國政府ニ於テハ煙草特占業  
 ニ依リテ三三二〇〇〇〇〇法ノ收入ヲ得タリ而シテ此内ヨリ製造

第三、普  
魯士法

本國ノ徵  
收法

費六〇〇〇〇〇〇法ヲ扣除スルモ尙ホ煙草稅純收入二七〇〇〇〇〇  
 〇〇〇法ヲ得一八八七年度ニ於テハ總收入三、七五〇〇〇〇〇〇法ヲ  
 得タリ英國ハ關稅ニ依リテ煙草輸入稅ノ收入頗ル巨額ヲ得ルヲ見ル  
 然ルニ尙ホ他ニ一ノ徵收法アリ即チ普國ニ於ケルカ如ク煙草耕植地  
 ノ廣狹ニ從ヒ若クハ収獲ノ重量ニ應シテ土地ニ地租ヲ課スルノ法是  
 ナリ此方法ハ其收入最モ少キモノトス日耳曼帝國ハ其最良ノ年度即  
 チ一八七六年度ト雖モ其純收入僅カニ一七八五、二〇〇〇法ヲ得タル  
 ニ過キス然ルニ其内過半ハ外國輸入ノ煙草ニ課セシ關稅ノ收入ニシ  
 テ内國煙草ニ課シテ得タル稅ハ僅々一八四、二〇〇〇法ニ過キサリシ  
 ト此方法ノ不利ナル以テ知ルヘシ故ニ日耳曼帝國前宰相ビスマルク  
 カ曾テ日耳曼ニ草煙特占法ヲ施サント欲セシカ如キ亦敢テ異ムニ足  
 ラス本邦ノ煙草稅徵收法ハ煙草營業者ヲ分チテ煙草製造人、煙草轉買

第十七章 重要ナル内國消費稅

七百八十七

人及ヒ煙草小賣人トシ以テ各營業地稅ヲ課ス加テタルニ煙草ノ實價ニ比例シテ印紙ヲ貼用ナルコトヲ命シ一般ニ印紙稅ニ依リテ徵收スルノ法トス而シテ煙草稅ヨリ生スル收入ハ現今一四九二〇〇〇圓ナリ(明治二十二年度豫算額)之ヲ(同年度ノ豫算ニ就イテ)菓子稅ノ收入額五八三〇〇〇圓ニ比スルハ殆ト三倍ノ額ニシテ其收入稍醬油稅ニ超エ即チ本部ニ於ケル内地消費稅中全ク酒造稅ニ次タモノトス是ヲ以テ本部ノ煙草稅ノ如キハ内地消費稅中重要ノ地位ヲ占メリ若夫レ關稅權ノ回復ヲ待テ外國產輸入ノ煙草ニ少クモ内地煙草生産者カ補償ヲ得ヘキ程度ヲ以テ消費稅ヲ課シテ關稅ヨリモ收入ヲ得ルニ至ラハ煙草稅ノ如キハ將來多望ノ消費稅トナラン

### 第二百三十三節

#### 消費稅結論

余輩ハ各國ニ行ハル、消費稅ノ重要ナル種類ニ就テ既ニ已ニ觀察シタリ夫國家開明ノ度愈進歩

本邦ニ於テハ宜シ

將來間稅ノ發達ヲ計ルヘキコト

スルニ從テ政務ノ多端ナルト政費ノ益増加スルトハ蓋シ數ノ免カレサル所トス而シテ間稅ハ社會ノ進歩ト國富ノ増進トニ伴フテ實ニ互額ノ收入ヲ納ル、モノナルカ故ニ余輩嘗テ前ニ論シタル如ク現今本邦ニ於ケル租稅ハ直稅ノ一方ニ偏重ニシテ間稅ハ却テ偏輕ナリ故ニ本邦ノ稅制上主トシテ取ルヘキ方針ハ將來間稅ヲ十分發達セシメ其將來増加スヘキ政費ハ盡ク之ニ賴ラシムヘキモノトスル是レナリ而レ此之カ收入ノ増加ヲ計ラントセハ豫メ種々ノ注意ナカルヘカラス即チ

第一 間稅ノ收入多カラシコトヲ希望スレハトテ濫リニ其收入儘少ナル消費稅ヲ並起シ若クハ之ヲ存スルカ如キハ却テ弊アルモ益ナキモノナリ故ニ余輩ハ政費ノ許ス限リハ菓子稅賣藥稅ノ如キ消費稅ハ寧ロ之カ廢棄ヲ望ムモノナリ而シテ將來選擇スヘキ消費稅

間稅ノ收入多カラシムル法

ハ其消費高シ廣大ニシテ且ツ人生ニ必要ナクハ一般ノ嗜好品ヲ撰ンテ以テ課税スルコト肝要ナリ

第二 消費税ノ収入ヲシテ多カラシメントセハ全ク外國産輸入品ノ競争ナキ物品若クハ到底之ハ競争ナシ難キ本邦ノ特産物ニシテ其消費尤モ廣大ナル者ヲ擇ミ(其輸出ヲ妨ケサル限リ)之ニ課税シ且ツ其消費ヲ減縮セサル限リハ其税率ヲ高ウスルニ在リ否ラサレハ

第三 一日モ早ク條約ノ改正ヲ行ヒ關稅權ヲ我ニ復シテ内地消費品ニ課税スルト同時ニ之ト競争スル所ノ外國産輸入品ニ少クトモ内地消費税ニ相當スル償補税ヲ課シ以テ内地消費税及ヒ海關稅ノ兩收入ヲ併セテ間稅ノ収入ヲ多カラシムルニ在リ

第二百三十四節 消費税々率輕重ノ効果

前節ニ外國産輸入品ノ競争ナキ場合ニハ消費税ノ税率ヲ高メテ収入ノ増加ヲ計ル

最高ノ税率ヲ以テ最モ大ノ收入ヲ得ルノ途ニアラ

税率高キニ過クル片ハ収入減損スヘキ理由

第一、逋稅增加スルコト

第二、消費減スル

〜キコトヲ說キシカ爰ニ税率ノ増加ニ就キテ注意スヘキ要點アリ抑モ消費税ノ税率ハ最高率ナルカ故ニ最大ノ収入ヲ生スヘキモノニアラス又税率ヲ最低ニ下ストモ之カ最大ノ収入ヲ獲得スヘキニアラス而シテ最大収入額ヲ生スヘキ税率ノ程度ニ至リテハ經驗ト研究ニ依リテ之ヲ定ムルノ外アラサルナリ併シ何故ニ最高ノ税率ハ最大ノ租稅收入額ヲ生セサルト云フニ單ニ左ノ三箇ノ理由ニ因レリ

第一 税率高キニ過クル片ハ密賣密造密輸入等盛行シテ被稅物ノ逋稅增加スルニ因ル

第二 税率高キニ過クル片ハ物品ノ消費減スルカ故ナリ此ハ著キ事實ニシテ攪ノ如キ人生ニ必要缺クヘカラサル消費品ニ在リテモ税率高キ片ハ幾分カ消費ノ減少ヲ見ルモノナリ況ンヤ他ノ嗜好品ヲヤ

第三、代用品發明

第三 稅率高キニ過クルルハ課稅消費品ニ代用スヘキ物品發明セラル、コト此レ亦避クヘカラサル結果ニシテ煙草ニ重稅ヲ課セラレ隨テ之ニ代ハルヘキ代用品發賣セラレシ例ハ現ニ我邦ニ於テセ見ル所ナリ

消費稅重キニ過クルノ害

且ツ消費稅重課ノ弊害ハ必ス消費物ノ價格騰貴シテ下民ノ生計ヲ困難ナラシメ又密造密賣逋稅等惡風ヲ惹起シ道徳上少カラサル害毒ヲ流シ又ハ課稅サレシ消費物品ノ品位ヲ下シ或ハ有害ナル毒物ヲ混交シテ不正品ヲ販賣スル等ハ往々免レサルコトトス此事ニ關シ一八七八年日耳曼ノ國會ニ於テ煙草稅ヲ討議スルニ當リ副議長デスタウエンボルグ氏公衆ニ演舌シテ曰ク

不正品ヲ生産スルニ至ルノ例

『吾人吸煙者ハ能ク煙草ヲ喫スルコトヲ知ルト雖モ吾人ノ喫スル所ノモノハ果シテ何物タルヤヲ知ル者鮮シ方今煙草ノ代用品ヲ使用スルコト旺ンニシテ吾人ノ用フル刻煙草卷煙草ニ混和スル所ノモノハ上甜菜ノ葉ヨリ下ハ櫻ノ葉ニ至ルマテ植物ト云フ植物ハ殆ト混和セサルモノ莫シ今其名稱ヲ解説シ列舉セントセハ殆ト一篇ノ植物書ヲ編制スルニ尙ホ餘リアルヘシ然ル所以ノモノハ蓋シ煙草ニ重稅ヲ課スルニ因ル云々』

特占法ハ善ク此弊ヲ除クコトヲ得

然ルニ政府ノ特占營業法ニ據リテ消費稅ヲ徵取スルルハ此一弊害タル不正品ヲ生産スルコトハ全然除却シ去リテ公衆ノ衛生ヲ保護スルヲ得ヘシ之ヲ要スルニ斯ノ如キ弊害ハ各種ノ租稅ニ必ス附着スル所ノモノナレバ特ニ消費稅ニ重率ヲ課スルニ當リテ免カレサルノ弊トス加フルニ財政上ヨリ云フモ前陳シタルカ如ク重稅必スシモ收入ノ巨額ヲ生セサルモノニシテ若シ一定ノ程度ヲ除エテ稅率高キニ過クルルハ其收入反テ減スルノ作用アリ故ニ消費稅ノ賦課及ヒ其稅率ノ

第十一章 重要ナル内地消費稅

程度如何ハ宜シク財政家ノ經驗ト研究ト明察トヲ以テ慎重ノ上ニモ  
尙ホ慎重ヲ與ヘ十分之ニ警戒注意ヲ加フヘキモノトス

### 第十三章 使用物税及驕奢税

#### 第二百三十五節 使用物税ノ性質

使用物税トハ消費者ノ使  
用スル消費物件ニ對シ直接ニ徴収スルモノニシテ即チ被税者ノ消費  
ニ課税シ其支出ニ賦税スルモノナリ蓋シ其本來ノ性質ハ毫モ消費税  
ニ異ナラサルモノトス但タ使用物税ニ在リテハ使用物品ノ繼續期水  
ク其消費永時ニ渉ルカ故ニ直接ニ物品ニ就イテ消費者ニ課税スルナ  
得ヘキノミ故ニ又其徴収法ヨリ云ヘハ猶直税ト等シク一定期毎ニ帳  
簿ニ就イテ直チニ消費者即チ負税者ヨリ徴収シ以テ租税負擔ヲ負ハ  
シムルモノナリ而レモ其使用物ノ課税ハ固ト間接ニ使用者ノ消費支  
出ヲ計量スル標準トシ且ツ其消費ハ所得歳入ニ比例スルモノナリト

使用物税  
ハ其徴収  
方法ヨリ  
云ハ直  
税ナリ

其本來性  
質ヨリ云  
ハ消費  
税ナリ

又往々多數無學ノ人民ハ之ヲ賞賛シテ止マサレモ只恨ムラクハ課税ノ原則ニ合當セサルヲ奈何セン今之ヲ財政上ヨリ見ルニ二ツノ缺點アリ

第一 驕奢ノ消費ヲ爲スヘキ富民ノ數ハ國民中極メテ少數ナレハ之ニ課税スルモ其収入ハ決シテ巨額ナル能ハス

第二 驕奢税ハ課税上脱漏シ易ク又徴収上甚タ困難ナリ例ヘハ金銀ノ器具懷中時計指環寶玉其他骨董類書畫類等ハ各人皆之ヲ秘藏スルモノニシテ容易ニ其所有ノ品數等ヲ探知シ得ヘカラサルモノトス故ニ強ヒテ之ヲ探求セントセハ勢人民ノ倉庫ニ入り手箱若クハ篋筒等ノ調査ヲ爲サ、ルヘカラス此ノ如キハ實ニ人民ノ容忍シ能ハサル所ナリ然ラハ則チ申告法ヲ以テ之ニ課税センカ申告法亦決シテ其實ヲ得ルモノニアラサルナリ故ニ申告ヲシテ實ヲ得セシ

メ被税物ノ蔽匿ヲシテ少カラシメンニハ勢輕税ヲ課セサルヘカラス然ルニ輕税ヲ課セハ決シテ見ルヘキノ収入ヲ國庫ニ納ル、コト能ハス是ヲ以テ驕奢物税ハ到底良税ト稱スルヲ得サルモノナリ此レ獨リ驕奢物ノミ然ルモノナランヤ流行ニ依リテ一時消費甚タ廣大ナル物品ト雖モ之ニ課税スルハ尤モ不得策トス何トナレハ流行物ノ課税ハ漸次流行ノ衰頽ト共ニ収入ヲ減縮シ果ハ収入ノ全額ヲモ擧ケテ亡失スルニ至ルヘケレハナリ例ヘハ英國ノ髮粉税徽章税ノ如キ年々流行ノ衰頽ト共ニ其収入ハ殆ト皆無ニ歸セリ蓋シ英國ノ徽章税ハ之ヲ以テ富ノ外標トシテ之ニ課税シタルナリ本邦ノ如キ封建時代ノ遺風トシテ徽章ノ流行尙未タ止マス即チ衣服ニ器具ニ之ヲ施サ、ル物殆トナシ然レモ未タ之ニ課税セントスルカ如キ愚者ナキハ良ニ幸ナリト云フヘシ然レモ或ハ恐ル苟モ歐洲ニ其例

使用物税  
一名驕奢  
税

ハ推測ヲ以テ課税スルモノナレハ其性質亦酷ク消費税ニ肖タリ是ヲ以テ該税ハ納税者ノ資力ノ間接ノ現象即チ消費ニ課スル所ノ租税ナレハ之ヲ間税ト稱スルヲ得ヘク又其消費税タルノ點ヨリ論スルモ之ヲ間税ト稱スルニ毫モ妨ケナキモノトス而シテ使用物税ハ首ニ驕奢ニ屬スル物品ヲ撰ンテ課税スルカ故ニ此種ノ物件ニ對スル租税若クハ富者ノ使用ニ係ル僕婢ノ如キ物件ナラサル者ノ數ヲ以テ使用主ノ富又ハ驕奢ノ度ヲ示ス標準トシ之ニ課スル僕婢税ノ如キハ人呼ンテ驕奢税ト曰フ故ニ使用物税ハ一名驕奢税ト云フモ亦敢テ妨ケナキモノナリ

第二百三十六節

課税スヘキ使用物

人類ノ使用スル物

件ハ其數夥多ニシテ斗量車載尙且ツ竭スヘカラサルモノナレハ一々之ニ課税センハ到底爲シ能ハサル所ナリ故ニ或ル種ノ物件ヲ撰擇シ

課税スヘ  
使キ用物  
ノ具有ス  
ヘキ二要  
件

テ之ニ課税セサルヘカラス而シテ其課税スヘキ物件ハ性質上容易ニ隱匿シ能ハサルノ物件ヲ以テスルコト第一ノ要件トス又第二ノ要件ハ其使用永續シ其消費永時ニ涉リテ而モ容易ニ其所有ヲ檢知シ得ヘキモノタラサルヘカラサルコト是レナリ蓋シ消費速カナル飲食物衣服等ニハ使用物税即チ直接徴収法ヲ施スコト能ハサルモノナリ

第二百三十七節

驕奢税ノ缺點

驕奢ニ賦課スル租税ハ元

ト決シテ利益アルモノニアラス故ニ財政上之ニ課スルノ必要切迫スルニアラスンハ宜シク之ヲ避ケヘキモノトス驕奢税ノ利ヲ説ク者ハ曰ク驕奢ハ社會ノ惡風俗ナレハ宜シク驕奢物ニ課税シテ之ヲ矯正スヘシ又驕奢税ハ社會ノ道德上ヨリ節儉質素ノ美風ヲ獎勵スルモノナリト併シ斯ノ如キ理由ハ課税上決シテ成立タサルモノトス抑驕奢ニ課税シテ奢侈ノ風ヲ禁シ質素ヲ獎勵スト云ヘハ頗ル俗耳ニ入り易ク

又往々多數無學ノ人民ハ之ヲ賞賛シテ止マサレモ只恨ムラクハ課税ノ原則ニ合當セサルヲ奈何セン今之ヲ財政上ヨリ見ルニ二ツノ缺點アリ

第一 驕奢ノ消費ヲ爲スヘキ富民ノ數ハ國民中極メテ少數ナレハ之ニ課税スルモ其収入ハ決シテ巨額ナル能ハス

第二 驕奢税ハ課税上脱漏シ易ク又徵收上甚タ困難ナリ例ヘハ金銀ノ器具懷中時計指環寶玉其他骨董類書畫類等ハ各人皆之ヲ秘藏スルモノニシテ容易ニ其所有ノ品數等ヲ探知シ得ヘカラサルモノトス故ニ強ヒテ之ヲ探求セントセハ勢人民ノ倉庫ニ入り手箱若クハ箆笥等ノ調査ヲ爲サ、ルヘカラス此ノ如キハ實ニ人民ノ容忍シ能ハサル所ナリ然ラハ則チ申告法ヲ以テ之ニ課税センカ申告法亦決シテ其實ヲ得ルモノニアラサルナリ故ニ申告ヲシテ實ヲ得セシ

メ被税物ノ蔽匿ヲシテ少カラシメンニハ勢輕税ヲ課セサルヘカラス然ルニ輕税ヲ課セハ決シテ見ルヘキノ収入ヲ國庫ニ納ル、コト能ハス是ヲ以テ驕奢物税ハ到底良税ト稱スルヲ得サルモノナリ此レ獨リ驕奢物ノミ然ルモノナランヤ流行ニ依リテ一時消費甚タ廣大ナル物品ト雖モ之ニ課税スルハ尤モ不得策トス何トナレハ流行物ノ課税ハ漸次流行ノ衰頽ト共ニ収入ヲ減縮シ果ハ収入ノ全額ヲモ擧ケテ亡失スルニ至ルヘケレハナリ例ヘハ英國ノ髮粉税徽章税ノ如キ年々流行ノ衰頽ト共ニ其収入ハ殆ト皆無ニ歸セリ蓋シ英國ノ徽章税ハ之ヲ以テ富ノ外標トシテ之ニ課税シタルナリ本邦ノ如キ封建時代ノ遺風トシテ徽章ノ流行尙未タ止マス即チ衣服ニ器具ニ之ヲ施サ、ル物殆トナシ然レモ未タ之ニ課税セントスルカ如キ愚者ナキハ良ニ幸ナリト云フヘシ然レモ或ハ恐ル苟モ歐洲ニ其例



アリト聞ケハ物ノ醜美善惡ヲ問ハスシテ忽チ其價ニ倣フノ今日未  
タ必スシモ此ノ如キ愚者ナシト保センヤ實ニ此徽章稅ノ如キハ歐  
洲財政史上ノ一暴例タリ

### 第二百三十八節 重要ナル使用物稅及驕奢稅 使用物

稅及驕奢稅ハ之ヲ一般ニ論スル片ハ其利益ナキコト上來既ニ論陳シ  
タルカ如シ然レ片中ニ就キ弊害少クシテ較巨額ノ收入ヲ納ムヘキ課  
稅物數種アリ其重要ナルモノヲ舉グレハ即チ犬稅、玉突臺稅、遊戲骨牌  
稅、馬稅、車稅、家僕稅、家婢稅等是レナリ此他遊獵免許稅ノ如キ亦之ニ屬  
ス玉突臺稅、遊戲骨牌稅ノ如キハ吾人敢テ之ヲ贊成スル能ハスト雖モ  
犬稅、遊獵稅ノ如キハ警察上ニ多少ノ關係ヲ有シ又政府ノ取締ヲ要ス  
ルモノナレハ之ニ免許稅ヲ課スルヲ至當トス又車馬ノ如キモ只人體  
運搬用ニ充ツルモノハ無論所有者ノ富裕ノ度ヲ標示スルモノナレハ

犬稅  
遊獵稅

車稅  
馬稅

家僕稅  
家婢稅

之ニ課稅スルヲ至當トス且ツ其課稅物件ハ隱蔽スルニ難ク檢定スル  
ニ容易ナレハ車馬稅ハ良稅ト云フヲ得ヘシ併シ其收入ハ決シテ巨額  
ナルモノニアラス故ニ宜シク直稅中ノ補助トシテ存スヘキナリ又家  
僕ヲ使用スルカ如キハ固ヨリ富裕タルノ證據ナレハ之ニ課稅スルモ  
可ナリ但タ家婢ノ如キハ之ヲ使用スレハトテ必スシモ富裕ト云フヘ  
キモノニアラス蓋シ家族中老體病者若クハ幼兒多キカ爲メ左マテ生  
計裕カナラサルモ往々止ムヲ得スシテ使傭スルモノアリ故ニ其課稅  
モ家僕稅ノ如ク當ヲ得タルモノニアラス本邦ニ於ケル此種ノ驕奢稅  
三種アリ

- 第一 船稅中遊船稅
- 第二 車稅中自用馬車稅及人力車稅
- 第三 銃獵免許稅中ノ遊獵免許稅

本邦驕奢  
稅ノ三種

營業用馬車人力車ニ課セル租稅ハ或ハ營業稅ト看做スヲ得ヘク又  
該稅ヲ乘車人ニ轉嫁スルモノト見ハ猶ホ間接ニ乘車人ニ課稅シタ  
ル騷者稅ト見ルヲ得ヘシ

### 第十三章 關稅

#### 第二百三十九節 關稅ノ性質

關稅トハ各種ノ貨物カ國境  
ヲ通過スルニ當リテ課スル所ノ租稅ナリ而シテ該稅ハ之ヲ貨物ノ物  
價ニ加ヘ更ニ消費者ニ歸セシムルモノニシテ畢竟其性質タル一種ノ  
消費稅ニ過キス但タ國境出入ノ際ニ當リテ物品ニ課稅スルノ別アル  
ノミ故ニ此課稅法ノ異ナレルヨリ之ヲ内地消費稅ト區別シテ關稅ト  
曰フ

#### 第二百四十節 關稅ノ種類

關稅ハ一國ニ輸入シ又ハ其  
國ヨリ輸出シ或ハ其國ヲ經過スル貨物ニ課スル所ノ租稅ナレハ關稅  
タル名稱ニ屬スル種類亦少カラス之ヲ細別セハ左ノ三種ニ歸ス

國境ニ於  
テ課スル  
所ノ關稅  
ハ消費稅  
ナリ

關稅ノ三  
種

輸出税

通過税

輸入税

第一 輸出税

第二 通過税

第三 輸入税

第二百四十一節 輸出税

輸出税ハ内地ノ物品ヲ外國ニ輸出シ之カ販路ヲ求ムルニ當リ課スル所ノ租税ニシテ國ニ由リ或ハ課セス或ハ二三ノ物品ニ限り之ヲ課スルモノアリ而レモ其收入ハ到底巨額ヲ得ヘキ必要ノモノニアラス抑輸出税ハ其主義並ニ實際ヨリスルモ決シテ之ヲ課スルモノニアラサルノミナラス之ヲ課スルハ益ナクシテ却テ害アルモノトス害トハ何ソヤ即チ内國産業ノ發達進歩ヲ妨ケ物産ノ輸出ヲ阻止スルコト是ナリ故ニ輸出税ハ現今ニ在リテハ各國共ニ寧ろ漸々廢止ノ狀勢ヲ示スモ決シテ擴張漸盛ノ期ヲ示スモノニアラス但シ輸出税ヲ課スルモ敢テ非常ノ不利ナキ場合ハ貨物ノ生

輸出税ハ有害無益ナルコト

産カ左ノ二條件ヲ具備スル時ニ限ル

輸出税ヲ課スルニ可ナル場  
第一、一  
合、一  
國ノ特産  
物ナル時

第一 輸出税ヲ課スル所ノ物産ハ其輸出地ノ特産物ニシテ特ニ天利ヲ有シ他ノ外國ニ於テ一切生産スルコト能ハサルカ若クハ之ヲ生産スルモ天利迥カニ之ニ及ハスシテ到底競争シ能ハサル時即チブラジルノ珈琲、ペリユーノグワノ及硝酸塩、印度ノ阿片ニ於ケルカ如キモノハ多少輸出税ヲ課スルモ國産ノ輸出ヲ妨ケスシテ尙ホ國庫ニ巨額ノ收入ヲ得テルヘシ併シ縱令此ノ如ク非常ノ天利ヲ有スルモノト雖モ其課税ニシテ重キニ過クル片ハ爭テ他ニ競争ナキヲ保セラルヘキ必スヤ埃及ノグワノホリウヤノ硝酸塩等トペリユー産ノモノト競争スルニ至ラン

第二 輸出税ヲ課スル所ノ物産ニシテ代用品ヲ生スルノ虞ナキ時即チ此ニ輸出税ヲ課シテ其物産ノ價格ヲ騰貴セシムル片ハ必ス

第二、代用品ノ生代  
スル恐

第十三章 關稅

之ニ代用スヘキ物品ヲ發明シ若クハ他ヨリ求メテ之ヲ使用スルニ至ルハ通常免カルヘカラサル事トス例ヘハベリユ一政府カ若シグワノ硝酸塩等ニ過重ノ稅ヲ課スルハ其價格ハ必定騰貴スヘキヲ以テ歐洲ノ農夫ハ他ノ天然肥料人造肥料ヲ使用シグワノ硝酸塩等ノ消費ハ全ク減スルニ至ルヘシ故ニ輸出稅ヲ課スルコトハ全ク代用品ヲ生スルノ虞ナキ時ニ非レハ爲シ能ハサルモノトス

以上二條件ヲ具備シタル場合ニ限り輸出稅ヲ課スルハ可ナリト雖モ先ハ宜シク避クヘキ課稅トス否希クハ之ヲ全廢スルヲ以テ更ニ可トスルモノナリ況ンヤ内地ノ特產物ニアラサル物品ニ輸出稅ヲ課スルカ如キニ至リテハ殆ト其何故タルヲ解スルニ苦ムモノアルニ於テヤ

通過稅ノ  
不利

**第二百四十二節 通過稅** 通過稅ハ甲國ヨリ乙國ニ運搬スル貨物カ其接壤セル丙國境ヲ通過スルニ當リテ丙國ニ於テ之ニ課スル

所ノ租稅ナリ然ルニ此稅ノ如キモ亦決シテ利益アルモノニアラス抑、外國品カ一國ヲ通過スルコトハ其國土ニ取リテ決シテ不利ト云フヘキモノニアラス何トナレハ第一外國品ノ通過ニ方リテ内國人民ハ之カ通過ノ運搬等ヲ管理スルハ直接ニ運搬營業者ニ利益ヲ與ヘ且ツ勞力者ニ賃銀ヲ得セシムルノミナラス外國物品ノ通過盛ナル時ハ其商況ヲ詳悉シ物品ノ相場ヲ知リ以テ外品ヲ低廉ニ購フヲ得ヘク且ツ其商況愈繁昌ニ商業益發達シ從テ賣買上大ナル便利ヲ增加スルヲ得ヘシ故ニ昔時ニ在リテコソ歐洲各國皆經過稅ヲ課シ時トシテハ其稅率重クシテ殆ト外品ノ經過ヲ禁スルカ如クナリシナレ現今ハ漸次之ヲ廢止スル姿ニシテ復タ舊時ノ政策ヲ採ルモノナシ

**第二百四十三節 輸入稅賦課ノ目的** 是レヨリ進ンテ論スヘキハ輸入稅トス抑關稅ハ古ヨリ諸國ニ行ハレシ租稅ニシテ殊ニ

輸入稅賦  
課ノ目的

外國產ノ輸入品ニ課税スルカ如キハ最モ盛ンニ行ハレタリキ而シテ之ヲ課スルニ又種々ノ目的アリ即チ此課税ヲ以テ内地ニ於テ外商ニ與フル保護ノ代價ナリト爲スモノアリ然レモ現今行ハ、ル輸入税ノ目的ハ大概子左ノ三箇ニ出ナス

保護税

第一 保護税

國餉税

第二 國餉税

償補税

第三 償補税

第一ハ内地ノ産業ヲ保護スル爲メニ第二ハ單ニ國家ニ收入ヲ納ル、爲メニス

第一ノ保護税ハ内地ノ工商業ニシテ外國ノ工商業ト競争スル能ハサル時即チ内地ノ殖産業ヲ保護スルノ目的ヲ以テ輸入品ニ課スルモノヲ云フ第二ノ國餉税ハ單ニ財政上ノ目的ヲ以テ内地ニ於テ消費税ヲ課スルト同一ノ主意ニ由リ其輸入品ニシテ内地ニ生産セス且ツ其消費ニシテ廣大ナルモノニ限リ之ニ課税シテ以テ巨額ノ收入ヲ國庫ニ

第三内國生産者ノ損害ヲ償補スル爲メニス

納ル、ノ目的ヲ以テスルモノヲ云フ第三ノ償補税トハ即チ内國產ノ物品ハ既ニ内地消費税若クハ(内國產製造品ニシテ其粗生品外國ノ輸入物ナル片ハ)輸入税トシテ種々ノ租税ヲ負擔スルカ故ニ之ト直接ニ競争スヘキ同質類似ノ外國品ニシテ租税ヲ免カル、時ハ大ニ内地生産者ヲ苦シメ反テ外國生産者ニ恩惠ヲ與フルカ如キモノナレハ内國產物品ノ負擔ニ相當スル租税額ヲ輸入ノ際外國產ノ物品ニ課シ以テ償補チ内國生産者ニ與フルモノ是レナリ

第二百四十四節 保護貿易及自由貿易 保護税ハ保護貿易主義ノ盛ンニ唱ラレシ頃課セラレシモノニシテ現今或ル國ニ於テハ其一部分ヲ存置セリ而レモ自由貿易主義ノ實行ニ依リテ之ヲ撤去セシ者亦鮮カラス自由貿易論者ハ曰ク外國ニ於ケル貨物ノ生産ニシテ若シ内國產貨物ニ優リテ天然ノ特利ヲ有スル場合ニハ宜シク物品

自由貿易

ノ供給ヲ外國ニ仰クヘシ而シテ内地ニ於テハ則チ内地ニ適スル天然  
 特利ノ物産ヲノミ生産シテ之ヲ輸出スヘシ然ルモハ土地ノ適不適ニ  
 應シテ各地方及ヒ萬國共ニ各其天利ノ長所優所ヲ十分利用シテ以テ  
 有無相通シ分業ノ理ニ基キ四海一家ノ如ク經濟上ノ利益ヲ享受スル  
 ヲ得ン然ルヲ殊更外國特利ノ物産ヲ防キ其競争ヲ害ケ以テ内國消費  
 者ヲシテ既ニ天然ノ不利ニ坐セル内國產ノ物品ヲ敢テ高價ニ買ハシ  
 ムルカ如キハ抑内地ノ消費者即チ一般公衆ヲシテ甚シキ不利ニ陷レ  
 シムルモノナリト然ルニ保護貿易ヲ主張スル者ハ曰ク抑國家ノ繁榮  
 富強ハ殖産興業ヲ振起セシムルニ在リ故ニ外國ノ侮慢ヲ來ササラン  
 ト欲セハ須ラク各種ノ生産業ヲ自國ニ起シテ以テ自國ノ需要ハ自國  
 ノ物産ヲ以テ供給セサルヘカサラス然ルニ天然ノ特利ヲ有セサル產  
 業ニシテ既ニ外國品ノ輸入アリ斯ノ如クンハ何ヲ以テ自國ノ産業ヲ

保護貿易

兩主義ノ得失

發達進捗セシムヘキヤ實ニ發達進捗セシムヘカラサルノミナラス之  
 ヲ拋棄シテ顧ミスンハ内地ノ殖産興業ハ盡ク萎靡衰頽ニ歸センノミ  
 而シテ之ヲ防クノ法ハ宜シク保護稅ヲ課シテ外國品ノ輸入ヲ防遏ス  
 ルニ在リト之ヲ要スルニ兩說ノ得失ノ如キ之ヲ一般普通ノ原理トシ  
 テハ自由貿易主義正當ナレト保護貿易トテ豈ニ必スシモ利益ナシト  
 センヤ例ヘハ一國未タ幼稚ニシテ殖産興業尙ホ十分發達セサルニ先  
 チ早ク既ニ發達セル外國ノ激烈ナル競争ヲ受クル等ノ事アラハ蓋シ  
 先ツ外國品ニ課稅シテ以テ我カ内地ノ殖産興業ヲ保護スルノ外策ナ  
 カルヘシ即チ斯ル特別ノ場合ニ限リテハ保護策ト雖モ亦頗ル當ヲ得  
 タリト謂フヘシ要スルニ茲ニ保護自由兩主義ノ爭論ヲ叙述詳論シテ  
 更ニ兩制ノ得失ヲ比照セントセハ一篇ノ論文得テ能ク盡ス所ニアラ  
 ス必スヤ篇ヲ重テ章ヲ逐フモ尙ホ竭サ、ル所アラン因リテ此ニハ單

ニ兩主義ノ在ル所ヲ叙スルニ止メ先ツ財政上ヨリ觀察ヲ下シ保護稅  
カ惹起セシ困難ニ就キ聊カ論陳ヲ試ミ而シテ經濟上ニ於ケル觀察ノ  
如キハ茲ニ之ヲ省略セン

### 第二百四十五節 保護稅ノ不便不利及輸入稅ハ宜シク

國餉稅若クハ償補稅ノ目的ヲ以テ課スヘキコト 英佛  
其他歐洲諸國ニ於テモ當初其本國農民ノ利益ヲ計リ敢テ重率ヲ以テ  
外國產ノ麥ニ輸入稅ヲ課シ殆ト之カ輸入ヲ禁止シタリ然ルニ爾後漸  
次人口滋蔓シ土地不足ヲ告クルニ至リ麥價益騰貴シ且ツ凶饉等ニ際  
シ内國人民ハ殆ト饑餓ニ瀕セントセリ此ニ於テ麥ニ於ケル保護稅ノ  
不利ナルヲ感シ竟ニ麥價ヲ低廉ナラシムルノ必要ヨリ英國ノ如キハ  
首トシテ保護ヲ撤出シ之ニ代フルニ自由貿易主義ヲ以スルニ至レリ  
此レ實ニ不便ノ必要ニ迫ラレテ生シタル結果トス次ニ歐洲ニ於テ不

農產品ノ  
保護稅ハ  
甚シキ不  
便ヲ生シ  
タルコト

工業ノ保  
護

其不便

便ヲ感シタルハ即チ工業的ノ保護例ヘハ羊毛、生糸、絲綿、真鍮、鐵等ノ如  
キ專ラ製造品ノ材料トスヘキ粗生品ニ保護稅ヲ課セシ爲メ言フヘカ  
ラサル不便ヲ釀成シタルト是レナリ何トナレハ當時是等ノ粗生品ニ  
課稅アリシカ故ニ外國ヨリ輸入セル粗生品不廉トナリ爲メニ其材料  
ヲ以テ製造セシ物品ヲ再ヒ外國ニ輸出セントスルモ物價不爲メニ不  
廉トナルヨリ遂ニ外國ノ生産者ト利ヲ競フヲ能ハサルニ至リタリ此  
ニ於テ凡テ工業ノ粗生品ニハ寧ロ保護稅ノナカラントテ欲シ其苦情  
ヲ唱フルニ至リシハ製造家ヲ以テ矯矢トス而シテ此不便ヲ除去センカ  
爲メ輸入セル粗生品ヲ以テ製造シタル物品ヲ更ニ輸出スルニ當リ拂  
戻ト稱ヘテ其物品ノ生産ニ供用シタル粗生品ノ多少ヲ計リ乃チ其粗  
生品ノ輸入ニ方リテ之ニ課セシ稅額ヲ更ニ稅關ニ於テ拂戻ス方法ヲ  
創設シタリ然レハ爾後幾ハクナラスシテ政府人民共ニ不便ヲ感スル

其不便ヲ  
輕減スル  
法

第一、拂  
戻法

ニ至リ(拂戻ノ法タル其拂戻ス際ニ方リテ拂戻スヘキ税額不正確ニシテ且ツ到底正平ナルコト能ハサルノ不利アリ加之ナラス製造家ハ既ニ輸入税賦課ノ爲メ粗生品ノ價格非常ニ騰貴セシヲ以テ爲メニ其資本ヲ要セシコト亦寡少ナラス而シテ設令製造品ヲ輸出スル時ニ於テ再ヒ其拂戻ヲ受クルニモセヨ一旦其増加セル資本額ニ對スル金利ハ當ニ何レノ処ヨリ補償スヘキヤ此レ全ク製造家ノ損失ニ歸スルモノナルカ故ニ拂戻ノ法モ左マテ効驗ヲ奏セザリキ)又此拂戻法ノ不便ヲ避ケンカ爲メ更ニ暫時輸入免許ノ方法ヲ施設シタリ此法ハ綿糸木綿鐵其他ノ金屬等ノ粗生品ヲ以テ一定時期ノ後チ物品ヲ製造シ更ニ之ヲ輸出セント欲スルモノニハ一時粗生品ノ輸入税ヲ免除スルノ法トス而シテ若シ其期限内ニ製造品ヲ輸出セサル時ハ始メテ成規ノ租税ヲ拂ハシムルコトトセリ之ヲ拂戻法ニ比スレハ製造家チシテ租税ノ

第二、暫時輸入免許法

爲メニ其利子ヲ失ハシムルカ如キコトナク以テ幾分ノ便利ヲ與ヘタリシニハ相違ナキモ未タ以テ保護税ノ不便ヲ刈除スルニ足ラサザリキ斯ノ如クニシテ其粗生品及ヒ半成品ニ課セラレシ保護税モ分業ノ度益進ミ即チ一物ノ製造事業ト雖モ尙ホ數種數人ノ手ニ分カル、ニ造ンテ其不便愈甚シクナリ半成品ヲ造ル者ハ粗生品ノ保護税ヲ嫌ヒ完成品ヲ製造セントスルモノハ半成品ノ保護税ヲ嫌フカ如ク漸次分業法複雑トナリ工業亦數多ノ段階ニ岐ル、ニ從テ工業品ニ課スル保護税ノ如キモ遂ニ一般人民ノ嫌惡スル所トナリ竟ニ之ヲ廢止スルノ風潮ヲ來タセリボリユー氏ハ此事ニ關シテ左ノ如ク言ヘリ

「凡ソ百科ノ工業進歩發達スルニ從ヒ漸次其業種ヲ増加シ分業益行ハレテ保護税ノ不便愈甚シク竟ニ各自相牴牾凌轢スルノ勢ヲ現セリ實ニ内國羊毛生産者ヲ保護スレハ羊毛糸ヲ製シテ輸出スルモノ

保護税ノ工業上ニ生スル不便



、困難ヲ増シ羊毛糸製造者ヲ保護スレハ毛織物ヲ製シテ輸出スルモノヲ困マシメ毛織物製造者ヲ保護スレハ衣服ヲ製シテ輸出スル者ヲ困シムル等ノ奇觀ヲ呈セリ但シ拂戻若クハ暫時輸入免許ノ法ヲ以テセハ幾分カ前條ノ不便ヲ減殺スルヲ得又或ル場合ニ於テハ全ク其目的ヲ達スルナラント雖モ通例其成功少キノミナラス此等ノ方法ハ却テ大ニ煩雜ヲ生スルカ故ニ保護稅ハ決シテ外國貿易ト相兩立スヘキモノニアラス何トナレハ生産ノ度進捗スルニ從テ高等ノ製造ニ從事スル者ハ益保護稅ノ不便ヲ覺ユルヲ以テナリ是由リテ之ヲ觀レハ下等ノ製造業ヲ保護スルハ之ニ次ク一層高等ナル營業ヲ害スルヤ復タ疑ヲ容レサルナリ云々ト』

以上ノ言ニ據ルモ保護稅ノ不便ハ實ニ多クナリ而シテ尙ホ之ヨリ甚シキ不利ハ即チ若シ内國產品ニシテ全ク租稅ヲ免カル、カ若クハ其

租稅外國產品ヨリ輕微ニ且ツ之レト同様同質ノ物品外國ヨリ輸入スル時ニ當リテ之レニ保護稅ヲ重課スルトキハ其輸入品ノ價格ニ騰貴ヲ見ルハ固ヨリ必至ノ結果ナレト同時ニ其課稅ナキ内國產品モ亦均シク價格ノ騰貴ヲ見ルニ至ルヘシ左レハ保護稅ヲ課スルハ物品ノ消費者ハ内國產品ヲ消費スルト外國產品ヲ消費スルト否トチ問ハス等シク高貴ナル價格ヲ拂ハサルヘカラス是故ニ内國生産者ハ保護稅ノ爲メニ特別恩惠ヲ蒙リ消費者ハ租稅ヲ政府ニ納メスシテ却テ其一半ヲ内地ニ於ケル消費物生産者ニ拂フモノトナルヘシ何トナレハ政府ハ單ニ保護稅ヲ輸入品ニ課シ以テ租稅ヲ徵スルニ止ルカ故内地生産者ハ保護稅ノ恩惠ニ依リテ利益ヲ得而シテ消費者ハ政府ニ納ムル租稅ヨリモ實際數倍ノ租稅ヲ保護ノ爲メニ拂フモノナレハナリ是レ政府カ不當ノ處置ニ憑リ甲ヨリ取リテ之ヲ乙ニ與フルカ如キ尤

輸入税ハ  
國餉若クハ  
補償税ノ  
目的ヲ以  
テセハ可  
ナリ

モ不公平ノ甚シキモノト言ハサルヘカラスボリユー氏曰ク佛國政府ハ曾テ石炭ニ輸入税ヲ課シ以テ得タル収入ハ一三〇〇〇〇〇〇法乃至一三〇〇〇〇〇〇法ナリキ而シテ其粗税ハ獨リ輸入石炭ノ價格ヲ騰貴セシメタルノミナラス又内國產ノ石炭モ其保護ヲ受ケテ價格ヲ騰貴シ爲メニ佛國石炭ノ消費者ハ實際三倍ノ價ヲ拂ヘリ保護税ノ害豈ニ又甚シカラスヤ云々ト之ニ依リテ見レハ輸入税ハ元ト保護税ノ目的ヲ以テ課スヘキモノニアラス即チ關稅ハ外國貿易ノ發達セル開明國諸國ニ在リテ毎ニ巨額ノ収入ヲ納ル、モノナレハ宜シク之ヲ國餉税トシ單ニ財政上ノ目的ヲ以テ課スルチ至當トス又關稅ハ外國產ノ輸入品ニ關スル消費税ナレハ若シ既ニ内地ニ消費税存シ而シテ之ト同一ノ消費品輸入スル片ハ尙ホ同様ニ課税スルチ至當トス又既ニ輸入税ヲ負フ所ノ外國產粗生品ヲ供用シテ以テ製造セル物品ニハ若

補償税ノ  
程度標準  
ヲ視ルコ  
ト難シ

シ之ト同一ノ製造物外國ヨリ輸入スル片ハ則チ又之ト同額ノ償補税ヲ課セサルヘカラス以上二箇ノ場合ノ如キハ外國生産者ヲ惠ミ却テ内國生産者ニ不利ヲ與フル等ノ結果ヲ生セザランカ爲メノ必要ヨリ出タルモノニシテ斯ノ如キ消費税補償ノ目的ヲ以テ輸入税ヲ課スルコトハ蓋シ亦止ムヲ得サルモノトス併シ外國ノ製造品ニ償補税ヲ課セント欲スルモ其適度ヲ得ルコト良ニ容易ナラス或ハ之ヲ輕キニ失シテ外國ノ製造家ヲ補助シ或ハ之ヲ重キニ失シテ内國ノ製造家ヲ保護スルカ如キ結果ヲ生スルコトナキニアラス實ニ償補税ハ其賦課尤モ困難ナリトス元來粗生品ノ課税ハ宜シク之ヲ避クヘキモノナリ特ニ内國ノ製造ニ供用スル粗生品タル外國產輸入品ノ如キハ尤モ然リトス而ルヲ況ンヤ保護税ヲヤ又況ンヤ之レニ重税ヲ課スルカ如キヤ

粗生品ニ  
輸入税ヲ  
課スルハ  
不可ナリ

關稅ノ稅  
率ニ二種  
アリ

### 第二百四十六節 關稅ノ稅率 關稅課ノ方法ヲ觀察スル

ニ方リテ先ツ其稅率ニ二種アルコトヲ承認シ置カサルヘカラス蓋シ  
關稅ハ元ト外國トノ關係ニ依リテ生スル租稅ナレハ其稅率モ又隨テ  
内地稅ニ異ナレル所アレハナリ

一般稅率  
及條約稅  
率

- 第一 一般稅率
- 第二 條約稅率

一般稅率トハ内地ノ法律ヲ以テ定メタル稅率ニシテ即チ特別ノ通商  
條約ヲ結締セサル所ノ諸外國ヨリ輸入スル物品ニ輸入稅ヲ徵課スル  
爲メ一般ニ適用スル稅率トス之ニ反シテ第二ノ條約稅率ハ定期若ク  
ハ不定期ニ外國ト結締シタル貿易條約ヲ以テ定メタル稅率ニシテ内  
地ノ法律ノミヲ以テ隨意ニ變更増減スルコト能ハサルモノトス本邦  
ノ海關稅ノ如キ即チ條約稅率ニシテ而モ其稅率輕微ナルカ故ニ本邦

關稅ノ賦  
課法ニ二  
種アルト

ニ於テハ或ル貨物ニ保護稅ヲ課セントシ若クハ國餉稅又ハ償補稅ヲ  
課セントスルモ條約稅率ノ爲メニ束縛セラレ單ニ海關稅制ヲシテ完  
備セシムルコト能ハサルノミナラス内地消費稅ヲサヘ改良スルコト  
能ハサルノ事情アリテ存ス勝ケテ嘆スヘキカナ

### 第二百四十七節 從價稅及從量稅 輸入稅ノ稅率ハ以上

ノ如ク制定セラルレト尙ホ之ニ賦課スルノ法ニツアリ第一從價稅即  
チアドヴァローレムト稱シ凡テ貨物ノ價格ニ比例シテ之ニ課スルノ法  
トス其價格ハ輸入商チシテ先ツ之ヲ稅關ニ申告セシメ稅關ニ於テ之  
ヲ確信シ敢テ異義ヲ有セサル片ハ直チニ申告價ニ據リテ課稅ス若シ  
又稅關ト商人トノ間ニ紛議ヲ生シタル片ハ更ニ評價人チシテ其當否  
ヲ鑑定セシメ時トシテハ稅關ニ於テ其貨物ヲ買上クル等ノトアリ則  
チ種々煩雜ノ成規ヲ履ミシ上始メテ評價ニ比例シテ課稅スルモノト

第一、從  
價稅及其  
得失

ス從價稅ヲ賞揚スル者ハ從價稅ハ貨物ノ價格ノ多寡ニ比例セシムル  
 カ故ニ平等ニシテ正確ナリト言ヘル是レ決シテ利益アル法ニアラス  
 蓋シ從價稅ノ不利ハ輸入商ノ申告ニ信ヲ置キ難キト又稅關吏カ其申  
 告ニ満足セサルハ稅關ト商人トノ間ニ紛議ヲ生シ易キト鑑定評價等  
 ニ煩雜ナル規則ヲ履マシメ從テ敏捷活潑ナル物品ノ取引ヲ妨ケ而モ  
 尙ホ正確ナル價格ヲ知了シ難キ等ニ在リ第二ハ從量稅即チスペシフ  
 一クト稱スルモノニシテ物品ノ個數、輕重、大小、長短等ニ據リテ定額稅  
 チ課スルモノトス此方法ニ據ルハ貨物ノ價格ト精密ノ比例ヲ得ル  
 ハ難ケレド其賦課簡易ニシテ徵收シ易ク稅關ト商人トノ間ニ爭論ト詐  
 欺ノ申告等生スルコト少ク從テ煩累ノ手續ヲ省ク等ノ點ニ於テハ適  
 カニ從價稅ニ優レルモノナリ併シ從量稅ハ商品ノ價格ニ大變動ヲ生  
 シタル場合ニハ其定メタル稅額ト物價トノ比例ヲ變スルコト太甚シ

第二、從  
量稅及其  
得失

ク遂ニ其間ニ偏輕偏重ノ不均ヲ生シ究竟其當ヲ得サルニ至ル又從量  
 稅ヲ以テ其品質價格等ニ數多ノ等差アル精巧ノ工業品美術品等ニ適  
 用スルハハ不公平ヲ生スルノ弊アリ即チ其容積大ニシテ價格少キモ  
 ノニ重キ傾向ヲ生スルカ故ニ專ラ富民ノ使用ニ供スル價格ノ高貴ナ  
 ル物品ニ輕ク而シテ一般人民ノ廣ク使用スル粗大ノ物品ニ重キ不便  
 ヲ生スルモノトス併シ此從量稅ノ二個ノ不便ノ如キハ之レヲ除クニ  
 難カラス但シ全ク之ヲ剪除スル能ハサルモ多少之ヲ輕減スルヲ得ヘ  
 シ乃チ第一ノ不便ヲ減セント欲セハ物價大ニ高低ヲ生シ定額租稅ノ  
 割合權衡ヲ失フ時物價ノ定ルチ埃チテ時々從量稅ヲ改正セハ可ナリ  
 第二ノ不便ヲ輕クセント欲セハ宜シク畫一ナル從量稅ヲ行ハスシテ  
 其品位ヲ辨知シ易ク且ツ品質ノ等差少キ物品ニシテ容積ノ大ナルモ  
 ノニ之レヲ施シ且ツ同物品ヲ更ニ二三級ニ區別シテ以テ之レニ課

從量稅ノ  
不便ヲ輕  
減スル方  
法

税スヘシ斯ノ如クセハ以テ從量税ノ第二ノ不便ヲ省クニ庶幾カラシ  
カ

### 第二百四十八節 關稅ノ收入及其收入高ノ異ナル原因

關稅ノ收入中輸出税經過税ノ收入ハ極メテ僅少ナリ之ニ反シテ輸入  
税ヨリ生スル關稅ノ收入ハ歐洲等開明ノ諸國ニ於テハ尤モ巨大ナル  
收額ニ達セリ本邦ニ於ケル關稅ノ收入ハ二十二年度ノ豫算額ニ據ル  
ニ四〇〇、〇〇〇圓ヲ超ユルコト寔ニ僅少ナリキ此ノ如ク本邦關稅  
ノ收入ハ未タ財源ノ重要部ヲ占ムルニ至ラス又其占ムルコト能ハサ  
ル所以ハ畢竟内地ノ法律ノミヲ以テハ稅率ノ漲弛變更等自在ナラサ  
ルニ坐スルノミ然レモ單ニ之レノミヲ以テハ未タ關稅收入ノ乏シキ  
原因ト爲スコト能ハス抑關稅收入ノ多少ニ影響ヲ及ホス原因ハ四箇  
アリトス試ニ左ニ列舉セン

關稅ノ收入ハ歐洲諸國ニ於テハ巨大ナルコト

本邦關稅收入ノ乏キ所以

關稅收入ノ巨大ナル原因

第一、輸入物ノ分量多キコト

第二、内地ニ生産セラル物品ニ重キ稅率ヲ課スルコト

關稅ニ巨額ノ收入ヲ納メントセハ須ラダ左ノ原因存セサルヘカラス

第一 輸入貨物ノ數量多額ナルコト 只ニ輸入貨物ノ數量巨多ナルノミナラス其輸入税ヲ課スル所ノ物品ノ輸入分量更ニ多カラシキ要ス但此點ニ於テハ單ニ財政上ノ便宜即チ國庫ノ收入ヲ多カラシムル點ヨリ輸入物ノ多額ナルヲ希望スルノミニシテ輸入品中如何ナル貨物ヲモ論セス夥多ノ物品ヲ擇ンテ妄リニ課稅スヘキモノニアラス此ニハ關稅收入ノ巨額ニ達スル所以ノ原因ヲ指示スルニ止ルノミ

第二 内地ニ生産シカタキ輸入消費物品ニ重キ稅率ヲ以テスルコト 抑輸入税ヲ課スヘキ物品ニ二種アリ一ハ内地ニ生産セサルモノ若クハ内地ニ生産スルモ極メテ不適不利ナル貨物第二内地ニ於テモ同様生産シ得ヘキ貨物歐洲諸國ニ於テ第一種ノ物品ト稱スルモ

ノハ氣候ヲ異ニスル土地ノ産品即チ珊瑚椰子茶往時ニ於ケル砂糖  
 ノ如キ熱帶地方植民地ノ物品ヲ指稱ス第二類ニ屬スルモノハ羊毛  
 苧麻麥酒葡萄酒ノ如キ農産品石炭鐵一切ノ礦物又織物ノ如キ工業  
 品ヲ云フ若シ外國ヨリ輸入スル消費品ニシテ均シク内地ニ生産ス  
 ルモノニハ税率ヲ重クスルヲ得ス蓋シ之ヲ重クセハ輸入品ト等シ  
 ク内國品ノ價格ヲモ騰貴セシメ消費者ヲシテ政府ノ收入額ヨリ實  
 際遙カニ高キ租稅ヲ拂ハシムルニ至ルカ故ナリ併シ外國産ノ消費  
 品ニシテ悉ク其供給ヲ外國ニ仰クモノハ其税率ヲシテ最高點ニ達  
 セシムルモ尙其收入ハ税率ノ漲弛ニ比例ノ増減スルヲ得ヘシ故ニ  
 關稅收入ヲシテ多カラシメンニハ此ノ如キ輸入品ニ出來得ヘキ最  
 高ノ税率ヲ課スルニ在リ但税率ニシテ一定ノ程度ヲ超ユル片ハ猶  
 内地消費稅ニ於ケルト一般其消費高減少シ從テ輸入ヲ減シ關稅收

第三、内  
 國民カ風  
 土氣候ノ  
 異ナレル  
 產物ヲ廣  
 ク消費シ  
 洽ク嗜好  
 スルコト

入高ハ税率ノ増加ト反比例ヲ爲スニ至ルモノナレハ税率ノ程度一  
 就イテハ宜シク研究ヲ重キ尙之ヲ經驗ニ徵スヘキモノトス

第三 内國民カ洽ク風土氣候ノ異ナレル地方ノ物産ヲ嗜好スル  
 コト 或ル國ニ於テ關稅收入ノ非常ニ巨額ナル所以ハ全ク其國民  
 ノ廣ク需要シ洽ク嗜好スル所ノ消費甚々廣大ナル某ノ物品内地ノ  
 風土氣候ニ適セス即チ之ヲ生産スル能ハサル場合アルニ因ル然ル  
 ニ自國ノ氣候風土ニシテ其物品ノ生産ニ適スレハ他ノ輸入ヲ仰カ  
 サルモ之カ需要ニ應スルヲ得ヘク從テ關稅ノ收入減少スルニ至ル  
 ヘシ試ニ英佛ノ關稅ヲ比較センニ英國ハ其需要スル所ノ砂糖ヲ一  
 切外國ニ仰キ佛國ハ之ニ反シテ自國ニ於テ其需要高ノ三分ノ二ヲ  
 生産ス此レ佛國ノ地味氣候英國ニ比スレハ砂糖甜菜ヲ生産スルニ  
 適セルカ故ニシテ今假リニ英佛兩國共ニ砂糖輸入ノ課稅額相均シ

英國砂糖ノ關稅ハ佛國ヨリ多キ理由

キモノトシ又兩國人民カ砂糖ヲ消費スル高相同シトスレモ砂糖輸入稅ノ收入額ハ英國ニ多クシテ佛國ニ少カルヘキハ勿論ナリ何トナレハ英國ハ其消費スル所ノ一切ノ粗製砂糖ヲ外國ニ仰キ佛國ハ其消費スル大部分ヲ内地ニ於テ生産スルヲ以テ其收入ヲ内地ノ間稅ニ得ヘキモ英國ノ如ク輸入稅ニ於テ多額ノ收入ヲ得ヘカラサレハナリ故ニ本邦ニ於テ姑ラク内地ノ法律ヲ以テ稅率ノ改正ヲ自在ニ爲シ得ヘキモノトスルモ風土氣候ノ異ナル產物即チ内地ニ於テ生産シ能ハサル物品ヲ本邦人民カ廣ク消費シ又浴ク之ヲ嗜好スルニ非レハ彼ノ關稅收入ノ巨大ナル英國ノ如キ地位ニ至ルコト能ハサルモノナリ左レハ關稅收入ノ多少ハ偏ニ人民ノ習俗嗜好ニ因由スルコト明カナリ爰ニ又英佛二國ヲ比較セシニ佛國ニ於ケル重モナル飲料ハ悉ク自國ニ産スル所ノ葡萄酒ナレバ英國ニ於テ用フル

國民ノ習俗嗜好ニ依リ關稅ノ收入ニ差異アリ

英佛二國飲料品ニ於ケル關稅收入ノ反對景況

重モナル飲料ハ外國産ノ茶ナリトス而シテ砂糖ヲ茶ニ加味シテ飲用スルカ故ニ砂糖ノ消費從テ大ナルヘキハ勿論殊ニ其砂糖ハ概チ外國ノ供給ヲ仰クモノナレハ今兩國國民飲料ノ消費高均一ニシテ又之ヨリ収ムル租稅額同一ナリトスルモ佛國ハ内地消費稅ニ於テ巨大ナル收入ヲ得英國ハ關稅ノ收入ニ於テ巨額ヲ納ムルノ道理ニ歸スヘシ是ニ由リテ之ヲ觀ルモ國民ノ習俗嗜好カ外國産ノ消費品ヲ嗜ムト嗜マサルト内國産ノ消費品ヲ用フルノ多少如何ハ即チ關稅收入ノ多寡ニ影響ヲ及ボス原因ナリト知ルヘキナリ本邦人ノ嗜好ハ多ク外國産ノ消費品ニ適セス但シ珈琲西洋酒等ノ消費ハ現ニ擴張ノ勢ヲ示シツ、アルモ其消費尙ホ未タ僅少ノ額トス故ニ本邦輸入品ノ重モナルモノハ製造品工業品其他石油砂糖等ニ過キス是ヲ以テ英國ノ如ク夥多ノ飲料品ヲ殖民地ヨリ盛ニ輸入スル國柄ニ比

シテ本邦關稅收入ノ今日ニ乏シキハ復タ何ソ異ムニ足ラン(姑ラク  
稅率變更ノ困難ニ由リテ生スル缺乏ハ論セサルコトトシ單ニ本邦  
海關稅ノ收入ヲ以テ卒然之ヲ英國等ノ關稅收入ニ比シテ其缺乏ヲ  
訴フル論者ニ一言注意ヲ促スノミ)

第四 關稅收入ノ多少ハ租稅制度ノ行政上其方針ノ異ナレルニ基  
クコト 抑各國共ニ其稅制ヲ一ニセサルカ故ニ或ル一國ニ於テハ  
他ノ稅目ヲ以テ徵收セル消費稅ヲ他ノ一國ニ於テハ關稅ヲ以テ徵  
收スルカ如キ制度上ノ差異アリ故ニ後者ノ如キ國柄ニ於テ關稅收  
入ノ多カルヘキハ勿論トス爰ニ再ヒ例ヲ英佛二國ニ取ランニ英國  
ニ於テ煙草ノ輸入ニ課スル關稅收入額ハ頗ル巨多ナレト佛國ニ於  
テハ煙草ノ課稅ヲ政府ノ特占營業法ニ據ラシメ專ラ其收入ヲ内地  
ノ消費稅ニ索ムルカ故ニ佛國ニ於ケル煙草ノ關稅ハ爲メニ其收入

第四、稅  
制上ノ差  
異ニ由リ  
テ關稅收  
入ニ差異  
ヲ生ス

極メテ僅少ナリ之ニ反シテ英國ニ於テハ租稅制度上行政ノ方針ヲ  
異ニシ即チ内地ニ於テ一切烟艸ノ耕植ヲ嚴禁シ盡ク之ヲ外國ニ仰  
クノ制度ナレハ煙草稅ハ輸入稅ヲ以テ悉ク稅關ニ於テ徵收スルモ  
ノトス故ニ英國ノ煙草ニ於ケル關稅收入ノ多キハ敢テ怪ムニ足ラ  
サルナリ是ヲ以テ見ルモ制度ノ差異ニ由リテ關稅收入ニ多少ノ差  
異ヲ生スルコト明カナリ

以上列舉シタル四原因ハ直チニ關稅收入ノ多寡ニ影響ヲ及ボスモノ  
ナルカ故ニ徒ニ皮想ノ觀察ヲ下シテ以テ關稅收入ノ多寡ヲ論スルカ  
如キハ實ニ誤謬ノ極ト謂フヘシ抑モ關稅ノ收入タルヤ專ラ國ノ位置  
國情、氣候、風土、國民ノ性質嗜好、習俗及ヒ政治ノ差異等ニ依リテ其間ニ  
相違ヲ生スルモノナレハ之ヲ輕々ニ論斷シ去ルヘキモノニアラサル  
ハ固ヨリ、後節ニ於テ陳述スルカ如ク元ト弊害少カラサルモノナレハ

關稅賦課  
ノ注意



## 佛國ノ關稅收入

之カ課税ニ當リテ須ラク課税スヘキ消費品ヲ少ウシ加フルニ其消費品ハ氣候風土ノ差違ニ由リテ内國ニ生産シ難ク且ツ一般國民ノ嗜好ニ依リテ消費需要並ニ巨大ナル物品ヲ撰擇セサルヘカラス蓋シ歐洲開明諸國ニ於テ巨額ノ收入ヲ納ル、關稅ハ多クハ殖民地ノ生産品ニ課セシモノニシテ佛國ニ於テ一八五〇年保護制度ノ盛ナリシ頃其殖民地ノ物産ニ課セシ輸入税ノ收入ハ砂糖輸入税ヲ合セテ一四三三、〇〇〇圓同年度ニ於テ内地ニ均シク生産スル所ノ農產品ニ課セシ輸入税ハ六四八、〇〇〇圓製造品ノ輸入税ハ一四一、〇〇〇圓ナリシヲ以テ見レハ後ノ二種ノ租税ヲ合スルモ尙ホ殖民地物産ニ於ケル輸入税收入高ノ三分ノ二ニ過キス一八七三年度ニ於テ佛國輸入税ハ四三六〇、〇〇〇圓ナリシカ其内三三一六、〇〇〇圓即チ輸入税總額ノ四分ノ三強ハ僅カニ六種ノ物品ニ課シタル輸入税ナリキ所謂其六

## 英國關稅ノ收入

品トハ即チ珈琲、殖民地産ノ砂糖、外國産ノ砂糖、油、石油、石炭及木炭、椰子ニシテ之ヲ總稱シテ殖民地物産ト曰フ又英國ノ關稅法ハ往年ニ在リテハ頗ル煩雜緻密ニ涉リシカト漸次之ニ改良ヲ加ヘ不長ノ關稅ハ悉ク之ヲ廢棄若クハ減少シ現今ニ於テハ其輸入税ヲ課スル所ノ重要ナル消費物品ハ僅カニ六種ニ過キス尙ホ此他ニ微々タルモノ十二種ノリト雖モ海關稅ノ巨大ナル收入額ハ此十二種ニアラスシテ專ラ六種ノ輸入税アルニ因ル一八七六年度ニ於テ英國關稅ノ收入高ハ九九四〇、〇〇〇圓ナリキ而シテ其重モナル輸入税ハ茶稅、珈琲稅、火酒稅、葡萄酒稅、煙草稅ノ五種ニ過キス而シテ尙ホ九六〇、〇〇〇圓ノ巨大ナル收入ヲ得タリ是レニ由リテ之ヲ觀レハ關稅ハ其保護ノ目的又ハ償補稅ノ目的ヲ以テスルニ非サルヨリハ宜シク僅々數種ノ輸入品ニテシテ而モ消費廣大ニ且ツ其供給ヲ專ラ外國ニ仰ク所ノ物産ニノミ課

税スヘキハ蓋シ又タ疑チ容ルヘカラサルノ事トス

關稅ノ不利弊害

### 第二百四十九節 關稅ノ有スル不利弊害

關稅ハ凡テ消

費品ノ物價ヲ騰貴シテ一般消費者ヲ困弊セシメ又其課稅セラレシ輸入粗生品ヲ生産用ニ供スル所ノ製造家及工業家ヲ困弊セシムル等夫

ノ内地消費稅ニ附着セル缺點ヲ有スルカ故ニ尙ホ左ノ諸不利ヲ有ス

第一 關稅ハ他ノ諸稅ニ比シテ割合ニ多額ノ徵收費ヲ要スルコト

此ハ既ニ租稅汎論ニ陳述シタルヲ以テ此ニ畧ス

第二 關稅ハ徵收上夥多ノ吏員ヲ要スルカ故ニ數千ノ壯年者ヲシテ不生産的事業ニ從事セシメ經濟上不利ヲ醸スコト

第三 關稅ノ徵收ハ邊境ニ關稅ヲ設ケル必要アルカ故ニ邊境區畫ノ交通ヲ妨ケ大ニ人民ノ自由ヲ束縛牽制スルコト但シ陸地ニ邊境ヲ有スル國ハ之ヲ島國ニ比スレハ其牽制束縛ノ度一層甚シ之ニ反

シテ島國ハ關稅徵收上稍便利ヲ有ス

第四 關稅徵收ノ爲メ稅關ヲ建設スルルハ貨物ノ輸入ヲシテ專ラ某地方若クハ某ノ開港場ニ限ルカ故ニ貨物ノ運輸ハ人爲ニ由リテ妨礙セラレ即チ往々迂路ヲ經過シ爲メニ時間ヲ徒費スルノミナラス運搬上少カラサル勞費ヲ要ス

以上ニ於ケル不利弊害ヲ除去セントセハ先ツ稅關ト納稅者間ノ便利ヲ謀リ凡テノ煩則手續ヲ簡易ニシ單ニ收入ヲ得ルコト即チ財政上ノ目的ヲ以テ漸次之カ改良ヲ施爲スルニ在リ現今ノ關稅法上稍改良ヲ經タル重モナル點ヲ擧クレハ即チ輸出入品預リ倉庫ヲ設ケ輸入品ヲ帳簿ニ登記シタル上之ヲ倉庫ニ預リ置キ更ニ内地ノ消費ニ供セン爲メ倉庫ヨリ引出ス時迄關稅ノ徵收猶豫ヲ爲スカ如キノ類是レナリ斯ノ如ク徵收方法ニ改良ヲ施シ之ト同時ニ課稅スヘキ輸入品ノ種類ヲ

減シ又税率ヲ輕減シテ夫ノ徵収ノ苛キヨリ生スル密輸入密賣買等道  
德上諸種ノ弊害ヲ杜絶シテ以テ一意改良ニ汲々タラハ庶クハ關稅ノ  
弊害ヲ輕減シ以テ世上ノ非難ヲ免ル、ニ足ラン

第十四章 轉徙稅

第二百五十節 轉徙稅ノ性質

轉徙稅トハ財產所有權ノ移  
轉ニ課スルモノニシテ此場合ヨリ論セハ直接ニ財產ニ課スルモノニ  
ラアスシテ其財產ヲ移轉スル行爲ニ課スルモノナリ故ニ財產稅ト自  
ラ違ヒテ財產ノ第二段ノ現象即チ富ノ間接ノ徵表ニ課スルモノナレ  
ハ之ヲ間稅ト稱シ各國行政上亦之ヲ間稅ノ部類ニ列ス而レハ政府カ  
該稅ヲ負擔セシメントスル希望ヨリ言フハ直接ニ財產ノ轉徙ニ關  
係スル者ニ負擔セシメントスルモノナレハ寧ロ直稅ト云フヲ以テ至  
當トス然レハ又之ヲ其徵収時期及ヒ徵収額等ノ確定セサル點ヨリ見  
レハ之ヲ間稅ト言ハサルヲ得サルモノトス余輩ハ嘗テ直稅間稅ノ區

轉徙稅ハ  
財產所有  
權ノ轉移  
アル場合  
ニ其行爲  
ニ課スル  
モノナリ

財產轉徒ノ種類

轉徒稅ノ種類、無報償ナル

別ハ唯立法者ノ目的如何ヲ標準トスヘキモノナリト論シタルカ故ニ  
 余輩ノ區別法ニ據ルルハ無論之ヲ直稅中ニ置クヘキモノナレ其性  
 質他ノ直稅ト大ニ異ナレルヲ以テ余輩ハ之ヲ通常ノ直稅ト分チ便チ  
 第三種トシテ之ヲ直間兩稅以外ニ措キ而シテ以テ之ヲ論陳スヘシ抑  
 轉徒稅ハ不動產並ニ生産力ヲ有スル動產所有權ノ轉徒ニ課スルモノ  
 ニシテ即チ其轉徒タル生存者間ニ於ケルト死亡者ニ於ケル場合トヲ  
 問ハス又報償アル契約ニ依レルモノ即チ賣買ニ由レル轉徒ト無報償  
 轉徒ノ場合即チ贈與ニ由レルト否トヲ問ハス凡テ財產ノ轉徒ニ課ス  
 ルモノ之ヲ轉徒稅ト云フ又單ニ財產所有權ノ移轉ニ課稅スルノミナ  
 ラス時トシテハ財產特ニ不動產ノ使用權ノ移轉(即チ土地ノ定期貸附  
 等ノ如キ場合)ニ課稅スルコトアリ轉徒稅ノ種類ハ分チテ二種トス

第一 無報償ナル財產ノ轉徒ニ課スル租稅即チ遺傳及贈與ノ場合

轉徒ニ課スル者

第二、報償アル轉徒ニ課スル者

財產ノ轉徒ニ課稅

ニ課スル租稅トス故ニ此第一種ノ區分ヲ又分チテ遺傳稅或ハ遺產  
 稅ト及ヒ贈與稅ノ二種トスルヲ得ヘシ

第二 報償アル財產ノ轉徒ニ課スル租稅即チ賣買交換定期貸附等  
 ニ課スルモノトス

財產ノ轉徒ニ課スル租稅ハ之ヲ徵收スルニ登記料徵收ノ方法ヲ以  
 テシ或ハ印紙稅法ニ據ルカ故ニ一般ニ之ヲ登記稅若クハ印紙稅ト  
 稱シ其中ニ包含スル所ノ種類亦甚タ多シ或ハ純然タル手數料ノ如  
 キモノヲモ其中ニ包含セシメ或ハ終ニ之ヲ手數料ト混合スルニ至  
 ル但シ他ノ租稅ヨリモ幾分カ手數料ニ類似セル所ナキニアラサル  
 モ純然タル手數料トハ全ク之ヲ區別セサルヘカラス而シテ其區別  
 ニ至リテハ後章手數料ノ篇ニ於テ詳述スヘシ

第二百五十一節

財產ノ轉徒ニ課稅スル理由 財產ノ

政府カ所  
有權ヲ確  
認スル代  
價ナリ

轉徒ニ課税スル理由ハ之ヲ理論上ヨリ論スルモノト實際上ヨリ論スルモノトアリ而シテ理論上其理由トスル所ハ即チ社會一切ノ取引ヲ保證シ正者ヲ保護シ不正者ヲ處罰シ法律ヲ發布シ法律ヲ強行スル等ハ渾テ政府ノ任務ニ在リ故ニ先祖ノ財産ヲ子孫ニ傳へ或ハ甲財産家ノ所有財産ヲ乙資本家ニ賣買讓與スルニ當リテモ其生スヘキ百般ノ紛議ヲシテ少カラシメ各人ノ得タル所有權ヲ更ニ平和安固ニ保護スル者ハ亦實ニ政府ノ保證警察裁判等ノ力ニ依ルモノト又各種契約等ノ履行セラルハ偏ニ政府ノ力法律ノ保護ニ在ルカ故ニ政府ハ斯ノ如キ取引ノ行ハルニ方リ之ヲ確認スルノ職務ニ對シ手續料ヲ徵収スルハ猶保險會社カ保險料ヲ納ムルニ等シキモノナリト云フニ在リ併シ此議論タル轉徒税ヲ以テ純乎タル手数料ト看做スモノニシテ決シテ之ヲ正當ノ論議ト爲スコト能ハス然レモ轉徒税ヲ課スルニ就

轉徒税ヲ  
課スル實  
際上ノ利  
益

収入巨大  
ナリ

徴収簡易  
ナリ

キテハ多少以上ノ如キ理由アリテ存スルモノナリ次ニ轉徒税ヲ課スル實際ノ理由トスル所ハ蓋シ争フヘカラサルモノトス

第一 開明諸國ニ在リテ轉徒税ハ其收入往々巨額ニ達スルカ故ニ若シ國家ノ需要費額頗ニ増加シ之ニ應スル直税及間税等既ニ極點ニ達シ復ヒ之ニ課税シ能ハサル場合ニ際シテハ止ムヲ得ス此轉徒税ヲ以テ國費ノ需要ニ應セサルヘカラス是ヲ以テ轉徒税ヲ課スルハ單ニ財政上ノ便宜存スト云フノ理由ニ倚ル

第二 轉徒税ハ以上ノ便宜ヲ存スル上ニ尙徴収甚タ簡易ニ從テ其費用寡ク且ツ其課税重キニ過キササル片ハ被税者ヲ害スルコト甚シカラス即チ良税タル性質ヲ具フルカ故ニ實際上必要止ムヲ得サル片ハ之ヲ課スルハ財政上利益アリト云フコト是レナリ

第二百五十二節

無報償ナル財産ノ轉徒ニ課スル税

贈與税ハ  
稍重課  
スルモ可  
ナリ

無報償ノ財産轉徙ニ課スル税ハ之ヲ分チテ二種トナス第一ハ存命中ニ於ケル随意移轉ニ課スルモノニシテ即チ贈與税トス第二ハ必要移轉即チ死亡ノ場合ニ課スルモノ即チ遺傳税若クハ遺產税是ナリ抑、財産ハ贈與ニ課スル租税ハ之ヲ其贈與ヲ受クル者ヨリ徴収スルハ素ト意タニ財産ヲ享受スルモノナルカ故ニ稍之ニ重課スルモ敢テ被稅者ノ不平ヲ起サスシテ徴収スルヲ得ヘシ然ルニ必要移轉即チ死亡者相續ノ場合ニ依リテ財産ヲ受クル者ニ課税スルハ種々ノ攻撃ヲ免レサルモノトス何トナレハ血統相續ノ場合ニ於ケル財産ノ移轉ハ蓋シ相續者ニ於テ豫メ其財産ノ吾ニ歸スヘキコトヲ期シタルモノニシテ且ツ死亡ニ由リテ財産ヲ相續スルニ際シテハ當主死亡ノ不幸等ノ爲メ其財産ニ減損アルモ決メ増加ナク反テ一家困難ノ地位ニ陥ル際ナレハ此際之ニ課税スルハ決シテ其當ヲ得タルモノト云フヘカラサ

遺傳税ノ  
得失

レハナリ且ツ其税率一般ニ高ク又納税期極メテ短縮ニシテ一時ニ之ヲ徴収スルカ故ニ相續者ノ困難實ニ少ナカラス殊ニ相續者ハ家長死亡ノ際ニハ一家生計ノ使ヲ缺キ加之ナラス葬祭等其尖費實ニ鮮カラサルモノトス故ニ遺產税ハ概シテ相續者カ其遺傳セラレタル財産中ヨリ支拂ヒ其獲得セル財産即チ將來ノ資本ノ幾分ヲ減少シ終ニ之ヲ償フコト能ハサラシムルノ結果ヲ生スルモノナリ又之ヲ各國ノ實例ニ徴スルモ遺產税ハ相續者カ其遺產ノ一部ヲ賣却シ若クハ負債ヲ起シテ以テ納税スルヲ常トスルカ故ニ該税ハ資本ヨリ出テ即チ資本ヲ減殺スルノ租税ニシテ決シテ之ヲ良好ノ租税ナリト云フコト能ハリル所以ナリ然ルニ遺傳贈與ノ租税ヲ主張スルモノハ曰ク實ニ該税ハ收入巨大ナルモノニシテ現今國費多端ノ政府ニ於テハ決シテ之ヲ廢スルコト能ハス當ニ之ヲ廢スル能ハサルノミナラス若シ之ヲ廢スル

トセハ將々何ノ方法ヲ以テ之ヲ缺額ヲ補スヘキヤ此レ該稅ヲ起スノ  
此ム可カラサル所以ナリト然レモ該稅ヲ起サントセハ豫メ其弊竇ヲ  
杜絶スルノ防備ナクシテ可ナランヤ故ニ左ノ注意ヲ以テ之ヲ賦課セ  
ハ庶幾クハ其害ヲ除キ且ツ其利ヲ獲得スルニ足ランカ

### 第二百五十三節 遺傳稅及贈與稅賦課ノ注意

第一直系血統相續間ノ贈與遺傳ハ宜シク輕稅ヲ課スヘキコト 抑遺  
傳稅及ヒ贈與稅ハ夙ニ歐洲諸國ニ於テ施行セラル、モノナレモ其財  
產ヲ最近ノ血族ニ遺傳スル場合ニ際シテハ之レヲ免除シ課稅セサル  
處亦鮮カラス夫レ經濟ノ點ヨリ觀察スルモ人カ其死期ニ臨ンテ其意  
ニ從ヒ嗣子若クハ親戚ニ其財產ヲ遺讓スルコトハ便チ貯蓄ヲ獎勵シ  
資本ヲ増加シ更ニ生産ヲ策勵スル所以ノ方トス左レハ最近ノ血族ヲ  
シテ其遺產ヲ相續セシムル時ニ際シテハ宜シク其課稅ヲ輕クシ以テ

遺傳稅及  
贈與稅ヲ  
賦課スル  
ニ付テハ  
注意ヲ最  
第一ノ血  
族ニ輕課  
スヘキコ  
ト

佛英普三  
國ノ遺產  
稅率

其遺產即チ資本ヲ減殺セサランコトヲ努ムヘシ然レモ前陳述セル如  
ク政府ハ實ニ死者ノ遺意ヲ履行セシムル所ノ保護者即チ換言セハ死  
者ノ遺產ヲ安全ニ後嗣ニ傳フヘキコトヲ確證スル所ノ保證人ナレハ  
之レカ保證料トシ相當ノ輕率ヲ以テ幾許カ租稅ヲ課スルハ決シテ批  
難スヘキコトニアラサルナリ是ヲ以テ各國共ニ相續者血統ノ遠近如  
何ニ由リテ之カ課稅ノ稅率ヲ異ニスルヲ常トス佛國ノ現行法ニ據レ  
ハ相續者ト死者トニ於ケル血統ノ遠近ニ應シテ課稅ニ輕重アリ例  
ハ正統ノ相續者ニ對シテハ其相續スヘキ財產價格ノ百分ノ一分二厘  
トシ兄弟、姉妹、叔父、叔母、從兄弟ノ間ニ於テハ同七分八厘、伯叔母、  
孫、再從兄弟、再從姉妹等ノ間ニ於テハ同八分四厘血統ノ最モ遠キ相續  
者ニ對シテハ同一割一分トセリ英國ノ制モ亦死者ト相續者トニ於ケ  
ル血統ノ遠近ニ由リ其遺產價格ノ百分ノ一乃至一割ヲ課スルモノト

シ普國ハ英佛ト齊シク相續者血統ノ遠近如何ニ由リテ遺產價格ノ一分乃至一割ヲ課スルコトトセリ

相續者血統ノ遠近依リテ税率ヲ異ニスル理由

(備考) 血統ノ遠近ニ由リテ累進税率ヲ行フニ就キボリユ一氏ハ左ノ如ク言ヘリ曰ク若シ遺傳稅ヲシテ保證料タル性質ヲ失ハサラシメントセハ死者ト相續者ノ關係如何ヲ問ハス皆悉ク壽一ニ課稅スルニ如クハ莫シ然ルニ該稅ハ渾テ一樣ニ出スシテ其間ニ階級ヲ分チ死者ト相續者トニ於ケル血統ノ遠近ニ由リテ税率ヲ増進スルモノトス即チ兄弟姉妹ノ受クル所ノ財產ニ課スル税率ハ子孫カ受クル所ノモノヨリ重ク又血胤ノ更ニ一層遠キ者若クハ親族ニアラサル者カ受クル所ノモノハ尙ホ税率ヲ重クスルノ制ナリ然ルニ遺傳相續ノ理論ニ據レハ決シテ累進税率ヲ行フヘキ理由アルニアラス(中略)然レ凡ソ租稅上法律ヲ施行スルニ方リテ哲學若クハ社會上

ノ理論ニ適合スルモノ幾ント希レナリ時ニ或ハ其主義理論ニ應スルコトアリト雖モ之ヲ實行スルニ至リテハ往々收入ノ多少徵収ノ難易等ニ左右セラレ竟ニ其主義ヲ托クルコト多シ而シテ遺傳稅ノ法律ニ於テ支族若クハ他人カ受クル所ノ遺產ニ課スルコト其子孫ノ受クルモノヨリ重キ所以ハ蓋シ遠系ノ相續者ニ課稅スルコトハ近系ノ相續者ニ課稅スルヨリ容易ナルヲ以テナリ殊ニ支族若クハ單ニ知友ノ故ヲ以テ他人ノ遺產ヲ受ケタル者ノ如キハ偶然希望外ノ財產ヲ所有スルニ至リシモノナルカ故ニ縱令其大部分ヲ舉ケテ租稅ト爲スモ亦敢テ意ニ介セサルノ情ナキニアラス然ルニ之ニ反シテ父ノ遺產ヲ受クル所ノ嗣子ノ如キニ至リテハ其心情既ニ政府ノ収斂ヲ厭ヒ之ヲ正理ニ訴ヘントスルノ傾向頗ル盛ナルヲ以テ前者ト均シキ重稅ヲ課スルカ如キハ甚タ難シトスル所ナリ云々ト

第十四章 轉徙稅



第二、少額ノ遺産ニハ宜シク免稅スヘキコト

第二 遺傳財産額極メテ僅少ニシテ相續者其負擔ニ堪ヘサル場合ニ當リテハ宜シク之ヲ免除スヘキコト 歐洲諸國ニ於テハ最近血族ノ相續ニシテ其財産額極メテ僅少ナルモノニハ課稅ヲ免除スルコトアリ即チ伊太利、白耳義、和蘭等ノ如キハ遺產價額二〇〇圓ニ滿タサル者ハ悉ク課稅ヲ免除スル者トス

第三、甲、稅率ヲ輕課スヘキコト

第三 賦課法ニ注意ヲ加ヘ宜シク遺產稅ヲ直チニ遺產ヨリ徵收セス且ツ相續者ノ獲得セル財産ヲ減少セサル様務ムヘキコト 之ヲ爲スノニアリ曰ク  
第一 稅率ヲ極メテ輕減スルコト 遺產稅ノ害ハ特ニ稅率重キ時ニ於テ生スルモノナレハ其稅額ニシテ甚タ重ク即チ殆ト遺產ヨリ生スル二三年間ノ収益ヲ一時ニ徵收セントスルカ如キコトアラハ遺產受領者ハ終ニ之ヲ其所得ヨリ拂フニ堪ヘスシテ乃チ遺產ノ

部ヲ賣却シ若クハ之ヲ抵當トシテ負債ヲ起シ以テ納稅スルニ至ルモノトス加之ナラス稅率重キニ失セハ終ニ資本ノ一部ヲ減少シテ永遠之ヲ回復若クハ補償スル能ハサルニ至ラシムルモノナリ然ルニ稅額僅少ナルルハ決シテ以上ノ如キ虞ナキモノトスボリユー氏ハ之カ標準ヲ與ヘテ曰ク遺傳稅ノ稅率ハ他人間ノ相續ニ於ケル如ク死者ト其縁故最モ遠キ者ニ財産ヲ遺傳スル場合ト雖モ決シテ遺產ヨリ生スル一ケ年ノ歲入額ヲ超過セシムヘカラス即チ其遺傳稅ノ稅率ハ縱令最高時ト雖モ五分ヨリ超過セシムヘカラス即チ五分ヲ以テ該稅ノ最高度トセハ必ス二三年ノ歲入ヲ以テ之ヲ補償スルヲ得ヘキカ故ニ稅率重カラスシテ公平ナルヘク又斯ノ如クセハ以テ租稅ノ程度ヲ定ムルヲ得テ彼ノ被稅者ヲシテ資本ノ過半ヲ擧ケテ沒收セシムルカ如キ哀ムヘキ結果ヲ阻止スルニ至ルヘント

第三、乙、  
支拂期限  
ヲ寛ニス  
ヘキコト

第二 宜シク支拂期ニ猶豫ヲ與ヘ且ツ之ヲ寛ニスヘキコト 遺傳  
税ノ弊害ハ實ニ其支拂期限短促ニシテ一時ニ巨額ヲ徴収スルノ基  
因ニ本ケルモノニシテ即チ之レアルカ爲メ遂ニ資本ノ一部ヲ減少  
スルニ至ルモノナリ故ニ若シ一時ニ之ヲ徴収セスシテ支拂期限ヲ  
寛ニシ之ニ猶豫ヲ與ヘ例ヘハ二年若クハ三年間ニ徐々ニ之ヲ徴収  
スルコトトセハ蓋シ其租税ハ遺産ヨリ生スル歳入ヲ以テ支拂フヲ  
得ヘク又相續者ハ初年間其受領セル遺産ノ利子ノ一部分若クハ其  
全額ヲ貯蓄シテ以テ之ヲ支拂ヒ力メテ元資ヲ減少セザランコトヲ  
注意スヘシ斯ノ如クセハ遺産税ト雖モ始メテ租税ノ一大要義即チ  
宜シク國民ノ歳入ヨリ徴収スヘク決シテ之ヲ資本ヨリ徴収セザラ  
ンコトヲ要スト云ヘル原則ニ適合スルヲ得ヘキナリ

第四、遺  
産ヨリ債

第四 相續者ノ受領シタル財産額ニ比例セシムルニ方リテ宜シク其

債ヲ扣除  
スヘキコト

負債ヲ扣除シテ其純粹ノ遺産ニ課税スヘキコト

第五、法  
定相續ノ  
場合ニハ  
稍、重課  
スヘキコ  
ト  
ボリユー  
氏ノ説

第五 遺傳税ノ税額ヲ定ムルニ當リテ宜シク遺囑相續ト法定相續ト  
ノ場合ヲ區別シ法定相續ノ場合ニ於テハ遺囑相續ノ場合ニ於ケルヨ  
リモ較、重率ヲ以テ課税スヘキコト 其理由ト反對ニ於ケル批難トハ  
爰ニボリユー氏ノ言ニ據レハ下ノ如シ曰ク税率ハ宜シク遺言ノ有無  
ニ由リ區分スヘシ則チ遺言ナキモノハ之ヲ重クスルヲ可トス何トナ  
レハ法律ニ依リテ遺産ヲ傳フルコトハ遺言ニ由リテ死者ノ意ヲ表ス  
ルカ如ク明ナラサレハナリ然ルニ此ノ如キ區分ト雖モ尙ホ批難ヲ免  
カレサルモノアリ何トナレハ死者ハ其遺言ナキ時ニ於テ遺産ヲ相續  
スヘキ法律ヲ知レルヲ以テ若シ我意ニ反セサルトキハ殊更遺言ヲ爲  
サ、ルコトアルヘシト推定スルヲ得ヘケレハナリ云々ト

第六 相續者年齢ニ由リテ遺産税ノ税率ヲ斟酌スヘキコト 英國ニ

第六、相  
續者年齢

第十四章 轉徒税

由リテ税  
率斟酌ス  
ヘキコト

遺産税ヲ課スルニ一種ノ法アリ而シテ少シク之ヲ修正セハ最モ適當  
ノモノト爲スヲ得ヘシ英國相續ノ或ル場合ニ於テハ租税ヲ定メ被税  
物ヲ檢スルニ財産ヲ相續シテ之ヲ所有スヘキ年月ノ長短即チ相續者  
ノ年齢ニ由リテ生存ノ長短ヲ計リ租税ヲ輕減スルモノトス遺産税ヲ  
賦課スルニ方リテ右ノ事情ヲ酌量スルハ正平ニシテ且ツ有益ナル  
ヲ得ヘシ何トナレハ相續者高齡ニシテ餘年ナク又其財産ニ再ヒ課税  
セラル、コトアルヘキノ場合ニ於テ之ニ重税ヲ課スルハ頗ル公平ヲ  
缺クノ措置ナレハナリ例ヘハ相續者ノ年齢六十歳ナレハ通常税額ノ  
三分ノ二ヲ拂ハシメ七十歳ナレハ半額、八十歳ナレハ三分ノ一ヲ拂ハ  
シムルカ如キ是レナリ此レ蓋シ僅々數年間ニ於テ屬同一ノ財産ニ課  
スルニ遺產税ヲ以テスルハ遂ニ其財産ヲ舉ケテ亡失スルノ患ヒア  
ルニ因ル以上ノ如キハ寔ニ良法トスヘシ

英國遺傳  
税ノ不公  
不

第七 不動産ト動産トヲ區別シテ税率ニ等差ヲ設クヘキヤ否、遺傳  
税ヲ課スルニ方リテ動産ト不動産トチ區別シテ更ニ不動産ニ輕課ス  
ル所アリ然レモ余輩ハ不動産ニ輕課スヘキ理由アリテ存スルヲ見サ  
ルナリ蓋シ英國ノ遺傳税タルヤ實ニ不公平ヲ極ムルモノニシテ且ツ  
之ヲ徵収スルニ登記料ノ徵収方ニ據ラスシテ印紙税法ニ據リ之レニ  
三種ノ租税ヲ併課シ若クハ其一或ハ數種ヲ課スルモノトス所謂三種  
トハ證據税プロバードデューチース、委任狀税アドミニストレーションレ  
タース遺產税レゲジューチース等是レナリ一八五三年ニ至ルマ  
テハ不動産ニ於ケル相續者ニハ此等ノ租税ヲ課セサリシカ一八五三  
年クラッドストーン氏頗ル遺傳税ニ改正ヲ加ヘ遺產税ノ區域ヲ擴張シ  
以テ普ク一般ニ及ホサシムルノ方針ヲ執ルニ及ンテ不動産相續者ニ  
モ課税スル事トナレリ併シ英國遺產税ノ如キハ尙ホ其權衡ヲ得タル

不動產ノ  
相續ニ輕  
課スルハ  
公正ナル  
理由ナシ

者ト言フヘカラス即チ其動産ニ課スル者ハ不動産ニ課スル者ヨリ重  
ク少額ノ相續ニ課スルヲ反テ巨額ノ相續ニ課スルヨリモ重キカ如キ  
不公平アル是レナリ實ニ不動産ノ相續ニ課税ヲ免シ若クハ之ニ輕課  
スルカ如キハ余輩其理由ヲ發見スルニ苦ムナリ以上ノ如キハ則チ  
單ニ國會政治ノ一弊害ニ原因セルモノト云フモ蓋シ經言ニアラサル  
ヘシホリユ一氏ハ此事ニ就キ言テ曰ク「一八五三年ニ至ルマテ不動産  
ノ相續ニ課税セサリシ所以ハ大ニ余輩ヲ感動セシメタルモノアリ是  
レ民治國ニ於テ時トシテ政治上ニ利己主義ヲ發生スルノ一例證ト云  
フヘシ一七九六年ニピット氏カ遺產稅ヲ改良セシヤ法律案ヲ分チテ  
二トシ一ヲ動産ニ課スルモノトシ一ヲ不動産ニ課スルモノトセリ其  
動産ニ課スルモノハ異議ナク決定セリト雖モ其不動産ニ課スルモノ  
ハ異議百出シテ政府ハ終ニ其案ヲ廢棄セリ實ニ此時ニ當リ國會議員

ノ多クハ皆地主ナリシヲ以テ此ノ如キ結果ヲ生シタルモノナリ云々

### 第二百五十四節 遺傳稅及贈與稅ノ收入

遺傳稅ノ  
收入  
英佛普ノ  
例

稅ハ其收入巨額ナルカ爲メ今尙ホ廢棄スルニ至ラスシテ歐洲開明諸  
國ニ存續ス試ニ英佛普ノ三國ニ就イテ見ルニ佛國ハ一八七四年度ニ  
於テ遺傳稅及贈與稅ノ收入合セテ一、二八七六、〇〇〇法、一八八六年  
度ニ於テハ遺產稅ノミニテ其收入二、〇〇〇、〇〇〇法ニ達セリ英  
國ハ一八七六年度ニ於テ遺傳稅ノ收入一、四七〇、〇〇〇法、一八八  
七年度ニ於テ二、〇六〇、二〇〇法ニシテ同年度ノ租稅收入總計一  
割〇分八厘ニ當ル而シテ一八八六年度ニ於ケル普國ノ遺產稅ハ一四  
五二、〇〇〇法ニ當ル蓋シ該稅ノ如キハ實ニ收入巨大ニシテ且ツ自  
然ノ增加力ヲ有スルモノト云フヘシ

第二百五十五節 報償アル財産ノ轉徙ニ課スル税

財産ノ轉徙約定ヲ若クハ之ヲ助ケルカ如キ保護ヲ與フルカ故ニ賣買税ヲ課スルハ至當ナリ

此ハ不動産若クハ動産ノ賣買及ヒ不動産ノ貸貸等ニ課スル租税ニシテ之ヲ重課セサルホハ良ニ至當ノ課税トス抑、財産ノ賣買貸借ニ方リテ政府ハ其財産ノ掠奪等ニ遇フコトヲ保護シ或ハ締約人ノ契約ヲ助ケテ之ヲ鞏固ニシ且ツ之ヲ簿冊ニ登録シテ約條書ヲ保存シ若クハ年月ヲ正確ニスル等凡テ財産所有權ノ何人ニ存在シ又如何ナル性質ノ契約ニ由リテ所有權カ何人ニ移リシヤヲ明ニスルヲ以テ斯ル賣買貸借ニ際シテ之ニ相當ノ租税ヲ課スルハ寔ニ至當ノ事トス而シテ該税ヲ以テ直ニ政府カ保護ヲ與フルカ爲メ盡ス所ノ費用ニ比例セシムル片ハ則チ純乎タル手数料トナル若シ又其税額ニシテ眞ノ手数料ニ超過スル片ハ猶賣買貸借ノ如キ報償アル財産ノ轉移ニ課シ若クハ財産貸借ノ約定ニ課スル所ノ租税タルヲ得ヘシ併シ賣買税ノ如キハ宜シ

賣買取引ニ重税ヲ課スルノ害

々輕課スヘキノ性質ナルカ故ニ若シ其税率過度ナルトキハ必ス非難攻撃ヲ免カレサルモノトス現ニ佛國ニ於テハ不動産ノ賣買ニ課スル所ノ税率甚タ高ク種々ノ租税手数料等合シテ締約人ノ負擔ニ歸スルカ故ニ其負擔通例賣買價格ノ一割ニ達スルコト多シト云フ此ノ如キハ畢竟其稅苛酷ニシテ殆ト不動産賣價ノ一大部分ヲ沒收スルモノナレハ更ニ三四年間財産ノ収入ヲ貯蓄スルニアラサレハ其賣買税トシテ納メシ金額ヲ辨償スルコト能ハサルニ至ルヘシ此レ苛酷ニアラスシテ何ソヤ實ニ賣買税重キニ失スル片ハ單ニ不動産ノ賣買ヲ妨クルノミナラス併セテ經濟上ノ損害ヲモ醸生スルモノナリ是ヲ以テ賣買稅負擔ノ歸スル所ハ必ス賣手ニ在リト斷言スルモノアリ其說ニ據レハ賣者ノ賣ルニ切迫ナルコト買者ノ切迫ナルヨリ更ニ甚シキカ故ニ政府ノ税額ヲ負擔スル者ハ常ニ賣者ニ在リテ殊ニ其税額ニ相當スル

財産ノ價格ヲ減少スルモノナリト云フニ在リ然レモ此說タル臆測ニ過キナルモノニシテ究竟賣買税ノ負擔ハ賣買者雙方共ニ損害ヲ被ムリ即チ一般ニ取引財産ノ價格ヲ減少スルニ至ルモノトス左レハ賣買税ノ存スル以上ハ賣買毎ニ其税額ニ相當スル損失ヲ負ハサルヘカラス果シテ然ラハ其自由ナル賣買取引ニ障礙ヲ與ヘ財産ノ自在ナル移轉ヲ妨ケ終ニ經濟上ニ損害ヲ及ホスヤ必セリ何トナレハ不動産賣買ノ如キハ多クハ其財産ヲ利用スルコト能ハサル者若クハ之ヲ利用スルコト少キ者ヨリ最モ多ク之ヲ利用セントスル者ニ移轉スルモノナレハ經濟上賣買ノ盛ンナルハ即チ不動産特ニ土地改良等行ハレ易キ利益アルモノナレハナリ然ルニ此賣買ニ重税アリテ毎ニ其自由ヲ妨クルハ最モ有効ニ土地ヲ使用セントスル者ノ手ニ渡ルコト自在ナラス從テ經濟上少カラサル損失ヲ招クハ固ヨリ論ヲ俟タス且ツヤ賣

賣買税ノ  
不公正

買税ハ元ト其轉徒スル資本全額ヲ基礎トシテ之レニ課税スルモノナルカ故ニ其賣買ニ由リテ得タル報酬幾許ナルヤ否ヤハ固ヨリ一切問フ所ニ非ス即チ爰ニ甲乙同價格ノ財産アリテ甲ハ十年ニ一タヒ移轉シ乙ハ其間十タヒ移轉スルモ固ヨリ此等ノ度数如何ニ關セス其都度之レニ課税スルモノナレハ其公平主義ニ適セサルヤ知ルヘシ加之ナラス其課税ニシテ重キハ詐欺ノ證書ヲ作りテ賣買價格ヲ隱蔽シ或ハ秘密ニ賣買取引ヲ爲スカ如キ惡結果ヲ生スルニ至ルハ亦止ムヲ得サルノ事トス故ニ賣買税ヲ課スルニ方リテ務メテ税率ヲ輕クシ納税手續ノ煩雜ヲ避ケ以テ財産ノ移轉ニ不便ト困難トヲ蒙ラシムルカ如キコトナカラシメ徴収法ヲ簡易ニシ納税者ニ加フル刑罰ヲ寬大ニシ且ツ故意ノ犯則ト無爲又ハ無智ノ過失トニ於ケル間ニ正當ノ區分ヲ爲スカ如キ注意ヲ以テセハ該税ハ固ト収入巨大ニシテ而モ其収入ハ

商業ノ繁榮實取引ノ頻繁ナルニ從テ自然ノ増加力ヲ有スルモノナ  
レハ庶幾ハ國費必要ノ時アルニ當リテ之レヲ起スコトヲ得ヘク又  
既ニ該稅ヲ存置セル國ニ於テハ之レヲ保存スルモ敢テ不可ナカルヘ  
シ

### 第二百五十六節 印紙稅法及登記稅法 凡ソ財產ノ轉徙

ニ課スル租稅ハ政府カ財產所有權ノ異動ヲ確定シ正當者ヲ保護スル  
ノ所爲ニ對シテ徵收スル所ノ手数料タル性質ニ出ルモノニシテ一ハ  
單ニ財政上其收入ヲ得ルノ目的ニ出ルモノナリ而シテ之カ徵收法ハ  
登記稅及ヒ印紙稅ノ二法中概テ其一ニ據ルモノトス但シ其之ヲ課ス  
ル目的如何ニ於テハ純乎タル手数料モ亦租稅トナルヲ得ヘシ即チ其  
徵收スル所ノ稅額少ク單ニ政府ハ財產ノ轉徙ヲ確認シ財產所有權ノ  
安固ヲ保護スル費用ニノミ相當セシムルヲ以テ程度トスル間ハ則チ

財產轉徙  
稅徵收方  
法

印紙稅法  
ニ據リテ  
徵收スル  
其性質  
質租稅ニ  
近ク登記  
稅法ニ據  
ルハ寧ロ  
手数料ニ  
近シ

手数料ナレバ若シ其目的ニシテ偏ニ國家ノ收入ヲ計ルニ在リテ徵收  
額多キ片ハ是レ則チ財產ノ轉徙ニ課スル所ノ租稅トナルヘシ而シテ  
收方法ノ異ナルヨリ登記稅法ニ據レハ其性質手数料ニ近ク之ニ反シ  
テ印紙稅法ニ據レハ其性質寧ロ租稅ニ近似スルモノナリ本邦ニ於テ  
モ亦財產ノ受授即チ賣買及ヒ契約ノ證書ニ課スルニ租稅ヲ以テセザ  
ルニアラス准之ヲ徵收スルニ印紙稅法ヲ以テスルカ故ニ財產轉徙稅  
ト云ハスシテ之ヲ証券印紙稅トハ稱フルナリ然ルニ賣買取引若クハ  
他ノ約定上手數料ヲ徵スル點ニ至リテハ兩者共ニ一ニ出テ其間ニ差  
異アラサレバ印紙稅ニ在リテハ政府ハ其納稅者ニ對シ直接ニ且ツ陽  
ニ盡ス所アルカ故ニ本邦ニ於ケル証券印紙稅ノ如キモ尙ホ之レヲ租  
稅ノ中ニ置クヲ得ヘシ之ニ反レテ登記稅ハ其性質前者ト差同一ナル  
モ其被稅者ニ對シ政府カ盡ス所ノ職務ハ前者ニ比シ一層直接ニ且ツ

政府カ盡  
ス手數ノ  
費用ヲ償  
フテ以テ  
程度トス  
ルハ手  
數料トナ  
リ入ヲ  
得ルノ目  
的ヲ以テ  
スルハ  
租稅トナ  
ル

即時ニシテ又最モ明々白々タル所爲ナレハ大ニ手數料ノ性質ヲ帶  
ルモノトス左レハ此差異ニ由リテ財產ノ移轉即チ賣買取引及ヒ約定  
ニ課スル所ノ租稅ハ手數料トモナリ又租稅トモナルモノナリ併シ財  
政學上ヨリ區別スルノ要點ハ則チ政府カ單ニ其目的ノ爲メニ要スル  
保護ノ費用ノミヲ以テ稅額ノ標準ト爲スカ若クハ偏ニ政府ニ收入ヲ  
納ル、ノ目的ヲ以テ稅額ヲ定ムルモノナルカノ二點ニ在リトス抑、印  
紙稅ト登記稅ト相異ナルノ點ハ登記稅ニ在リテハ精密ニ取引約定ノ  
金額ニ比例シ得ヘキモ印紙稅ハ精密ニ比例スルコト稀レニシテ大抵  
ハ比例セサルヲ以テ常トスルニ在リ即チ印紙稅ハ其金額ノ多寡ニ拘  
ハラス都テ同一ノ稅額ヲ納ムル所ノ定額稅アリ或ハ其金額ノ多寡ニ  
由リテ階級ヲ分チ各階級毎ニ稅率ヲ異ニスル所ノモノアリ例ヘハ本  
邦ノ証券印紙稅ニ於テ金壹圓以上二十圓未滿ノ金錢借用證文ニ就イ

証券印稅  
徵收ノ三  
方法

第一、官  
吏ノ証印  
ヲ施ス法

第二、証  
券紙ヲ用

テ一錢ノ印紙ヲ貼用セシメ二十圓以上五十圓未滿ノモノニハ二錢ノ  
印紙ヲ貼用セシメ五十圓以上百圓未滿ノモノニハ四錢ノ印紙ヲ貼用  
セシムルカ如キ階級比例ノ方法ニ據ルコト是レナリ故ニ此ノ如キ方  
法ニテハ決シテ精密ニ賣買取引約定等ノ金額ニ比例スルモノナリト  
云フコト能ハス然ルニ登記稅ハ精密ニ此等ノ金額ニ比例セシムルヲ  
得ヘシ此レニ徵收方法ノ因リテ相異ヲ生スル所トス併シ証印若クハ  
印紙ヲ用ヒテ以テ租稅ヲ徵收スルノ方法ハ又之ヲ賣買稅約定稅其他  
ノ租稅等ニ用ヒテ大ニ利便トス抑、証印若クハ印紙ニ依リテ徵收スル  
方法ニ左ノ三種アリ

第一、官吏カ人民ヨリ提出スル所ノ證書ニ証印ヲ捺シ若クハ印紙  
ヲ貼付スルニ依リテ徵收スル法

第二、國家ハ特ニ其任命シタル官吏ヲシテ其製成ニ係ル証印用紙

第十四章 轉徙稅



ヲ利賣セシメ而シテ其法律ニ規定シタル証書ヲ調製スルハ必ス此用紙ヲ用ヒシムルノ法

第三 國家ハ各種ノ印紙ヲ製造シ之ヲ販賣シテ以テ証印用紙ヲ用ヒサルヒサル証書ニハ必ス貼附セシムルノ法

斯ノ如クニシテ以テ官吏ノ證印ナキモノ若クハ證印用紙ヲ用ヒサルモノ又ハ印紙ヲ貼付セサル証書ハ裁判所ニ於テ事實ヲ證明スルノ効力ナキモノトシ又良シ之ヲシテ證據タル効力ヲ有セシムルモ斯ノ如キ證書ヲ提出シタルハ稅額ノ二倍三倍五倍時トシテハ之ニ十倍ノ罰金ヲ課スルトセハ其危險ニ陷ランヲ恐レテ敢テ逋稅スルコトナク從テ租稅ヲ拂フニ至ルヘシ但シ英國ニ於ケルカ如ク印紙ヲ貼用セサル證書ハ一切證據タル効用ヲ有セサルモノトスルハ其逋稅ヲ防クノ點ニ於テハ頗ル實効アラント雖モ抑苛酷ナリ峻法ナリト云フノ

非難ニ至リテハ決メ之ヲ免カレサルモノトス何トナレハ此ノ如キハ徵罰ト犯罪ト元ト其平衡ヲ失スレハナリ蓋シ凡テ證書ニ印紙ヲ貼用セサル時ハ締約者雙方共ニ其犯罪者タルハ勿論タリ然ルニ特ニ其證書ニ印紙ヲ貼用セサルモノハ裁判上事實ヲ證明スルノ効力ナキモノトスルハ則チ犯罪締約者ノ一人ヲ利シ而シテ一人ヲ罰スルニ證書面ノ全額ヲ沒收スルニ等シキ所爲ヲ以テスルモノナレハ政府ハ暗ニ不正ノ民ヲ富マシ又間接ニ詐欺取財ヲ獎勵スルカ如キ結果ヲ生スルニ至ルヘシ故ニ之ヲ以テ全然無効ト爲スカ如キハ頗ル苛酷ニ涉ルノ所爲ト云フヘシ是ヲ以テ證印ナキモノ若クハ印紙ヲ貼用セサル證書ト雖モ宜シク裁判上證據物ト爲スコトヲ許シ唯逋稅アリシ場合ニ限り之ニ課スルニ其稅額ニ數倍シタル罰金ヲ以テスルハ想フニ其印紙稅ニシテ非常ニ重カラサル以上ハ締約者ハ決シテ其危險ヲ冒シテ之カ

證券印紙  
法ノ三大  
利便

印紙税ハ  
近世ノ發  
明ニシテ  
實ニ和蘭

人ノ創始  
ニ係ル

逋税ヲ企ル等ノ事ナカルヘク又證券印税ヲシテ頗ル有益ナル租税ノ  
 徴収法ト爲サシムルヲ得ヘシ實ニ此方法ニ據ルルハ第一各人ヲシテ  
 自ラ進ンテ租税ヲ上納セシメ而シテ政府專ラ其任ニ當ルヲ要セサル  
 ノ利便アリ第二政府ヲシテ一個人ノ私事ニ立入ルコトナカラシメ又  
 各人ヲシテ秘密ヲ保持セシムルノ利便アリ第三證券印紙税法ニ據ル  
 中ハ其徴収容易ニシテ費用亦極メテ少シ以上擧ケシ三種ノ法式中第  
 一ノ法式ヲ除キ他ノ二種ノ如キハ實ニ租税ヲ徴収スルニ収税吏ト人  
 民ト直接ノ關係ヲ生スルコトナクシテ自ラ人民ヲシテ納税セシムル  
 モノナルカ故ニ良ニ利便極レリト云フヘシ抑印紙税徴収法ノ起原ハ  
 之ヲ登記税ニ比スレハ遙カニ後代ノ發明ニ係ルモノトス或ハ曰ク印  
 紙税ノ創設ハ歐洲ニ於テハヂユスチニヤアン帝ノ時ニ在リト然レハ  
 未タ之ヲ證スルニ足ルヘキ一ノ證憑アルヲ見ス世上普通ノ説ニ據レ

ハ印紙税ハ一六二四年和蘭人ノ發明スル所ニシテ當時和蘭政府ハ収  
 入多クシテ人民ヲ苦シメサル所ノ税法ヲ發明シタルモノアランニハ  
 當ニ賞典ヲ與フヘシト令シ此懸賞科題ニ應シテ同國人ノ發明シタル  
 モノ即チ是レナリト實ニ印紙税ハ稀有ノ効能利便ヲ有スルモノニシ  
 テ此發明ノ如ク速ニ世ノ喝采ヲ博シ又諸國ニ傳播シタルモノハ蓋シ  
 他ニ比類ナカルヘシ

第十五章 地方稅

第二百五十七節 地方財政ノ重要ナルコト 世人ハ概チ  
 國家ノ財政ニノミ重キヲ置キ地方財政ノ如キハ往々之ヲ等閑ニ附シ  
 去ルノ風アレト現今ニ迫ンテハ決シテ之ヲ輕視スルコト能ハサルノ  
 勢ヲ馴致シタリ抑、地方稅トハ縣郡及ヒ市町村ノ如キ行政區劃若クハ  
 自治體カ擔任スル事務ノ經費ニ充テンカ爲メ殊ニ中央政府ヨリ割與  
 セル稅權ノ範圍内ニ於テ賦課徵收スル所ノ租稅ヲ云フ而シテ之ヲ支出  
 スルノ目的ハ一ハ以テ地方分權ノ理由ニ原キ特ニ地方ニ負ハシメシ  
 國家全體ノ事務ニ關スル費用ニ充テ一ハ以テ地方ニ固有ナル純粹ノ  
 事務ニ要スル經費ニ充ツルモノトス但シ國稅地方稅共ニ皆國民ノ負

地方稅ノ  
定義

近時地方  
費ハ國費  
ト共ニ増  
加スルヲ

地方財政  
ノ重要ナル  
コト

擔ニ歸スヘキ道理ニ至リテハ固ト其揆ヲ一ニスルカ故ニ各國民ノ租  
 稅負擔ヲ論スルニ方リテハ勢亦國稅ト地方稅トヲ合セテ觀察セサル  
 ヘカラス況ンヤ現今ノ有様ニテハ地方稅ノ增加ハ國費ノ増加ニ比シ  
 一層迅速ナルノ狀勢アルニ於テヲヤ是故ニ財政學ヲ論スルニ方リテ  
 地方財政ノ事ヲ度外視スルカ如キハ蓋シ誤謬ノ極ト言ハサルヘカラ  
 ス現今歐洲各國ニ於ケル地方ノ歲計タルヤ動モスレハ中央政府歲計  
 ノ三分ノ一ヲ占メ或ハ時ニ其半額ニ達スルコトアリ是ヲ以テ各國民  
 民ハ皆ニ重キ國稅ヲ負擔スルノミナラス尙ホ之ニ三分ノ一若クハ半  
 額ニ達スル地方稅ヲ負擔セサルヘカラス豈ニ重カラスヤ又地方自治  
 旺ンニ政權ノ分掌亦益夥多ナルニ從テ地方自治躰ニ於ケル經濟研究  
 ノ如キモ愈忽ニスヘカラサルニ至レリ故ニ地方財政學ハ宜シク之ヲ  
 國家財政學ト區別シテ以テ別論スルヲ至當トス何トナレハ地方財政

學ノ原則ハ或ル點ニ於テ較一般財政學ノ原則ト異ナル所アレハナリ  
故ニ余輩ハ爰ニ地方稅ヲ論スルニ方リ勤メテ簡略ニ唯其綱領ヲ述フ  
ルヲ以テ足レリトスヘシ若夫レ詳細ノ論明ノ如キハ別問題トシテ之  
ヲ他日ニ讓ラン

地方  
政府  
收入  
ノ  
種類

### 第二百五十八節 地方政府收入ノ種類

種類ハ中央政府ノ收入ト均シク縣郡若クハ町村ニ屬スル基本財産ノ  
收入中央政府ノ補助金及ヒ地方稅收入ヨリ成立ツモノトス加之ナラ  
ス臨時收入ニハ地方自治體ニ屬スル基本財産ノ賣却代價及ヒ府縣債  
市債町村債ノ如キ地方債ノ收入等アリ故ニ地方財政ヲ別論トスル  
當リテハ亦渾テ是等諸種ノ收入ヲモ論究セサルヘカラサルモノナレ  
ル茲ニ租稅論ヲ終ルニ當リテ之カ附屬トシテ論究スルニ過キサルカ  
故ニ唯地方稅ノ大體ニ就イテ觀察スルヲ以テ足レリトスヘシ

地方  
稅  
徵  
收  
ノ  
法

### 第二百五十九節 獨立稅及附加稅ノ得失 地方稅ヲ賦課

スルニ方リ地方政府ト地方議會トノ協同ニ依リテ決定セル獨立ノ租  
稅ヲ徵收スル法ト既ニ國稅ニ存スル或種ノ租稅ニ附加シテ徵收スル  
方法トノ二種アリ勿論地方自治體ニ附スル所ノ徵稅權及其他ノ財政  
權ト雖モ須ラク中央政府ニ於テ之ヲ制限セサルヘカラサルノ必要ア  
ルヤ明カナリ是ヲ以テ現今歐洲諸國ニ於テモ或ハ被稅ノ物件ヲ定メ  
テ地方ノ課稅權ヲ制限シ或ハ徵稅權ニ種々ノ制限ヲ加フル等渾テ中  
央政府ハ之カ樞軸ヲ握リテ以テ專ラ地方ノ財政ヲ統轄スルモノ、如  
シ是レ蓋シ中央政府ハ元來全國ヲ統御スルモノニシテ又遍ク全國一  
般ノ形情ニ通シ事ヲ視ル公平不偏ニシテ而モ能ク全局ノ利害ヲ洞察  
シ且ツ頗ル先見ノ明ニ富メルカ故ナリ之ニ反シテ地方政府ハ各地一  
局部ノ利益ニノミ偏倚シ即チ各地方ノ繁榮ヲ計リ好ンテ事業ヲ擴張

中央  
政府  
カ  
地方  
ノ  
財政  
權  
ヲ  
制限  
スル  
ノ  
理由

シ爲メニ浪費ヲ招キテ徵稅其度ニ過クル等ノ憂ナシトセス故ニ又其影響ハ國民全體ニ延及シ竟ニ課稅ノ負擔ニ堪フルヲ能ハサラシメ尙甚シキニ至リテハ地方稅ノ苛重ナルカ爲メニ國稅ノ負擔ヲモ果スコト能ハサラシムルニ至ル此レ各國共ニ中央政府ニ於テ主トシテ地方政府ノ財政權ヲ統御控制セサルヘカサザル所以トス現ニ英佛二國ニ於テ地方政府ノ公債募集權ヲ制限シ極メテ其支拂期限ヲ短縮ニシ決シテ永遠ノ公債證書ヲ發行セシメサルカ如キハ即チ此必要アル爲メナリ此ノ如ク自治ノ政權ヲ地方團體ニ附與スル國柄ニ於テモ尙ホ地方政府ノ課稅權ヲ制限スト雖モ然レモ又各國各其法律ノ範圍内ニ於テ地方限リ獨立ノ租稅ヲ課スルヲ許ス所ナキニアラス即チ英國ノ如キ地方ノ直稅ハ全ク國家ノ直稅ト其關係ヲ異ニシ郡稅、邑稅、救貧稅等專ラ地方政府ニ於ケル特設ノ租稅ハ中央政府ノ設置ニ係ル地租若ク

英米ノ獨立稅法

獨立稅ハ地方自治ノ主義ニ能ク適合スルモノナリ

佛國ハ附加稅法ヲ採ル

ハ家屋稅ト更ニ連絡スル所ナク地方ノ官吏之ヲ徵收スルカ故ニ會計検査院モ亦敢テ此等地方稅ニ検査ヲ及ボササルカ如キ是レナリ又北米合衆國ニ於テモ英國ト等シク中央政府ノ財務官吏ヲシテ敢テ地方ノ財務ニ與ラシメズ即チ獨立稅ヲ以テ地方稅ヲ徵收セシムルモノトス之ヲ要スルニ以上英米ニ於ケル二法ノ如キハ最モ自治ノ主義ニ適シ又能ク自治權ヲ重ンスルモノニシテ斯ノ如クンハ以テ大ニ地方自治ノ勢力ヲ發達セシメ又且ツ十分自治ノ權力ヲ得ルニ足ラン之ニ反シテ佛國ノ制ハ地方ノ租稅ハ其四大直稅即チ地租、分頭家賃稅、門窓稅營業稅ノ附加稅トシテ之ヲ徵收スルノ方法ニシテ其直稅ニ附加スル所ノ副稅額ハ地方ノ必要ニ由リテ増減セラル、モノトシ又法律ニ據リテ定メタル制限内ニ於テ地方議會ハ其徵收スヘキ附加稅ノ高ヲ議決シ更ニ中央政府ノ官吏派出シテ以テ之ヲ徵收スルノ制トス故ニ佛

其利益

國ニ於ケル地方政府ハ敢テ直税ニ關スル新法ヲ設置スルコト能ハサルノミナラス地方ノ直税ハ即チ國家直税ノ附屬ニシテ其性質ヲ同ウスルカ故ニ其利害得失ハ渾テ國稅ノ利害得失ニ相伴フモノナリ蓋シ此ノ如クスル所以ノモノハ專ラ地方行政官ノ思想ヨリ生スル不規則ナル所業ヲ防キ會計上其方法ヲ簡易ナラシメ更ニ全國畫一ノ會計法ヲ施キ地方財政ノ區々紛糾一途ニ出サルノ弊實ヲ塞イテ以テ之ヲ一層簡易明瞭ナラシメ而シテ又既ニ國稅ノ附屬トスルカ故ニ其徵收上費途ノ節減ヲ得ヘク從テ官金竊取民財收斂等ノ害惡ヲ刈除スルノ利益アルカ故ナリ是ニ由リテ之ヲ觀レハ余輩ハ寧ロ地方ノ直税ハ國稅ノ附加トシテ之ヲ徵收スルヲ可ナリト信ス何トナレハ獨立税ノ如キ設ヒ善ク自治ノ主義ニ適スルモ他ノ牽制控御ナキカ故ニ動モスレハ増税濫費等ノ弊害ヲ招キ易ケレハナリ

目的税ノ得失

第二百六十節 特別税一名目的税ノ不可ナル所以

英國ノ地方税ニ於テハ特別税ノ法ヲ行ヒ即チ救貧税郡税邑税警察税、點火税下水税等各特殊ノ會計アリ佛國ニ於テモ又時ニ鋪石税巴里府掃除税棧橋税等ノ名目ヲ以テ市邑ニ特別税ヲ行フ此ハ豫メ特別ノ目的ニ使用シ特別ノ費途ニ充ツヘキコトヲ定メテ以テ徵收スルモノシテ其利益トスル所ハ被稅者ヲシテ其徵收セラル、金錢ノ費途ヲ明知セシメ又甲科目ノ金額ヲ濫リニ乙科目ニ流用スルコトナク從テ其監督ヲ容易ナラシムルニ在リ併シ特別税ヲシテ眞ニ特別税ナラシメント欲セハ須ラク各税相互ニ流用ヲ嚴禁シ又其徵收額ヲシテ各種ノ目的事業ヨリ生スル利益ト更ニ比例ヲ保タシメサルヘカラス然ルニ斯ノ如クスル片ハ會計上頗ル煩雜ヲ極メ一税毎ニ別ニ一局ヲ置キ以テ役員ヲ異ニシ事務ヲ分ツ等ノ必要アリ若シ否ラスシテ之ヲ一局ニ

任スルトキハ乙税ノ収入ヲ以テ甲税ノ収入不足ヲ補ヒ以テ互ニ相流  
用スル等ノ弊アルヲ免カレサルモノトス故ニ特別ノ目的費途ニ充テ  
ンカ爲メニ特別税ヲ設クルカ如キハ縱令其利アリトスルモ之ニ伴フ  
不便困難許多併存スルカ故ニ到底得失相償ハサルモノナリ

### 第二百六十一節 地方入市税 前上ノ如ク地方税ハ多クハ

國税ノ附加トセラレ即チ副税トシテ或ハ目的税ヲ以テ賦課セラル、  
モノニシテ以上ハ唯地方直税ノ上ニ就イテ云フモノナレ此他尙ホ  
間税即チ消費税ヲ課スルコトアリ而シテ地方ニ於テ間税ヲ課スルノ  
法ハ多クハ入市税ニ據ル佛國ノ如キ其一ナリ若シ此方法ヲ以テ數多  
ノ消費物ニ課税シ或ハ必要ナル消費品ニ課スルハ則チ徵收費ニ多  
額ヲ要シ且ツ細民ノ生計ヲシテ困難ナラシムル等ノ弊害ヲ醸成スル  
モノナリ故ニ其課税ニ方リテハ宜シク消費廣大ニシテ且ツ生計ニ最

地方ノ間  
税ハ入市  
税ニ據ル

内地關稅  
即チ入市  
税ノ不利  
不便

本邦ノ地  
方税  
第一、地  
租

必要ナラサル消費品ヲ擇ンテ以テ之ニ課スヘシ然ルニ此ノ如クスル  
モ尙ホ免ルヘカラサル弊害アリテ存ス何ソヤ即チ凡テ生産貨物ノ運  
轉交換ノ自由ヲ妨ケ從テ商業ノ發達ヲ妨害スルコト是レナリ加之ナ  
ラス入市税ヲ設クルハ各市ハ恰モ各國々際間ニ於ケル貿易ノ如ク  
各競フテ其地方ノ昌榮ヲ望ミ其産業ノ振起ヲ欲スルカ故ニ殆ト各國  
々民カ外國ノ競争品ニ保護税ヲ課スルト一般各地方ヨリ輸送スル所  
ノ類似品若シクハ代用品ニ重税ヲ課シ以テ我カ地方ノ生産ヲ保護ス  
ルノ風ニ傾クモノトス是故ニ入市税ハ尙ホ内地ノ各部ニ關門ヲ設ケ  
テ割據ノ弊ヲ養成スルニ均シク誠ニ有害ノ租税ト謂フヘキナリ

### 第二百六十二節 本邦ノ地方税 本邦ノ地方税ハ現今ニ在

リテハ専ラ三種ノ租税ヨリ成立ス一ハ地租割ト稱スルモノ即チ國税  
ノ地租ニ附加シタル副税ニシテ地租正税ノ三分ノ一ヲ限度トシテ地

第二、營業稅

第三、戸數割若クハ家屋稅

租ニ附加セシモノ第二ハ營業稅、雜種稅ニシテ之ヲ地方ニ於ケル獨立稅トス即チ工業商業ニ課スルモノヲ營業稅ト云ヒ工商外ノ營業ニ課スルモノヲ雜種稅ト云フ第三ハ戸數割ト稱スルモノニシテ戸毎ニ課スル竈稅トス其性質酷ク分頭稅ニ肖タリ而シテ都府ニ於テハ之ニ代フルニ家屋稅ヲ以テス家屋ノ大小、建坪ノ數及ヒ地位ノ善惡ニ依リテ等級ヲ定メ稅率ヲ異ニシ以テ課スル租稅ナレハ戸數割トハ稍其性質ヲ異ニシ即チ住居稅ニ近キモノトス

第二部 手數料及免許料論

第一章 手數料汎論

第二百六十三節 手數料ノ定義及其性質 余輩ハ前卷數

章ニ租稅ヲ汎論シ又此卷ニ於テ租稅ノ各種類ニ就イテ之ヲ詳論シタリ而シテ今茲ニ特ニ手數料及免許料ヲ別論スルハ則チ其性質較普通ノ租稅ト異ナル所アルカ故ナリ抑租稅ハ政府ノ必要ナル費用ヲ支辨センカ爲メニ國民ノ資力ニ應シテ之ヲ賦課シ以テ強迫的ニ徵收スル所ノ財貨ナリ然ルニ手數料ハ差之ニ異ナリテ恰モ普通賣買ニ於ケル代價ノ如ク人民カ政府ノ職務ト交換シテ拂フ所ノ報酬トス故ニ之カ定義ヲ下セハ左ノ如シ

第一章 手數料汎論



手数料及  
免許料ノ  
定義

手数料トハ政府カ一私人ノ請求アル時ニ限リ施ス所ノ特別ナル勤勞ニ對シテ其勤勞ニ憑リテ利益ヲ享有スル者ヨリ支拂フ所ノ報酬ヲ云フ而シテ免許料トハ政府ニ於テ特ニ監督ヲ加ヘサレハ國家ノ安寧ヲ毀害スルカ若クハ他ニ事情アリテ取締ヲ要スルカ如キ事業ニ就イテ特殊ノ人ニ特許ヲ與フルカ如キ場合ニ其免許ノ手数料トシテ徵收スル所ノ報酬ヲ云フ故ニ本邦ノ職獵免許稅、牛馬賣買免許稅ハ寧ロ其性質免許料ニ屬シ又代言免許料、專賣免許料、版權免許料ノ如キハ眞ノ免許料トス之ニ反シテ酒造免許料ノ如キハ其性質偏ニ政府ノ收入ヲ計ル即チ財政上ノ目的ヲ以テ徵收スルヲ主意トスルカ故ニ殆ト租稅ノ性質ヲ帶フルモノナリ夫レ手数料及免許料ヨリ生スル收入ハ各國共ニ猶ホ國家收入ノ財源ノ一部分ヲ占ムルモノナレバ決シテ租稅ノ收入ノ如ク重要ナルモノニアラサレハ余輩ハ手数料ニ關シ此篇ニ於テ

ハ極メテ簡單ニ略論セントス

第二百六十四節

手数料ト普通ノ租稅ト區別スヘキ

要點

手数料ハ左ノ諸點ニ於テ普通ノ租稅ト區別セサルヘカラス

第一 其徵收ノ目的異ナルコト 手数料ハ人民ノ隨意ニ請求スル

所ノ特別ノ公務ニ對シ之カ報酬トシテ徵收スルモノナリ之ニ反シ

テ普通ノ租稅ハ政府カ國權ヲ以テ一般公共ニ對シ強行スル所ノ職

務ノ費目ニ充テンカ爲メ單ニ國家ノ收入ヲ得ルノ目的トシテ之ヲ

國民ノ資力ニ賦課シ以テ命令的ニ徵收スルモノトス故ニ各人ハ自

己カ直接ニ政府ヨリ利益ヲ享受スルト否トチ問ハス齊シク之ヲ納

メサルヘカラス即チ他語以テ言ヘハ人民カ隨意ニ之ヲ忌避スルヲ

得サルモノトス手数料ニ在リテハ則チ否ラス之ヲ免ル、ト否トハ

特別ノ公務ヲ政府ニ請求スルト否トニ在リテ共ニ人民ノ隨意タリ

手数料及  
免許料ト  
租稅トノ  
區別

第一、其  
徵收ノ目  
的異ナル

之ヲ郵便料ニ替ヘンニ人民ハ政府ニ托シテ書狀ノ郵送ヲ依頼スル  
カ故ニ政府ハ之ニ對シ郵便料ヲ徵收スレモ若シ人民カ書狀ヲ遞送  
スルニ方リテ各自相互ニ使者ヲ派シテ遞送スルハ決シテ政府ニ  
郵便料ヲ納ムルヲ要セス故ニ郵便料ハ即チ手數料ナリ但シ之ヲ郵  
便稅ト稱スルハ學理上不穩當ノ名稱トス

第二、徵收額ヲ定ムル標準相異ナルコト

第二 徵收額ヲ定ムヘキ標準相異ナルコト 手數料ノ場合ニ於テ  
ハ政府カ特別ニ一私人ノ請求ニ對シテ公務ヲ行フ爲メニ支出シタ  
ル費額ヲ標準トシテ徵收スルモノナレモ租稅ノ場合ニ於テハ政府  
ハ一私人ニ對シテ盡ス所ノ職務ノ費用ニ據ラスシテ納稅者ノ資力  
即チ財產歲入額等ヲ標準トシテ之ヲ徵收ス故ニ前者即チ手數料ハ  
各人カ政府ノ職務ニ依リテ受クル所ノ利益ニ比例セシムルモノニ  
シテ後者即チ租稅ハ人民ノ納稅シ得ヘキ能力即チ財力ニ比例セシ

手數料ヲ徵收スル事業ノ特占ノ屬スルカ故ニ手數料ト雖モ強制的ニ徵收セラルナリ

ムルモノトス

斯ノ如ク手數料ト租稅トニ二點ノ區別アレモ元來手數料ハ租稅ニ準  
スヘキモノニシテ之ヲ夫ノ通常民間ニ於ケル交易賣買等ノ物價ト同  
一視スルコトヲ得ス何トナレハ政府カ人民ノ爲メニ執ル所ノ職務ハ  
往々特占ニ屬スルモノナレハナリ例ヘハ郵便事業ト云ヒ電信事業ト  
云ヒ將タ登記事業ト云フモ凡テ政府ニ於テ特占權ヲ有スルモノナレ  
ハ人民ハ之ヲ政府ニ請求スルニ非サルヨリハ決シテ他ニ請求スルノ  
途ナシ故ニ書信ノ往復電信ノ贈答若クハ財産ノ安固ト所有權ノ確定  
等ヲ要スルハ勢政府ニ憑リテ請求セサルヘカラス左レハ之ヲ請求  
スルト請求セサルトハ恰モ人民ノ隨意ニ出ルカ如クナレモ決シテ斯  
ル性質ヲ有スルモノニアラス即チ手數料ト雖モ尙ホ幾分カ政府ノ強  
制ニ出テ、徵收セラル、モノナルカ故ニ租稅ト全ク別物ナリト云フ

コト能ハサルナリ

### 第二百六十五節

#### 租税ノ外特ニ手数料ヲ徴收スヘキ

理由 抑政府ハ國家ノ安寧秩序ノ齊整ヲ維持スル職務ヲ有スルモノニシテ又之ヲ一私人ニ比スレハ政府ハ固ヨリ公平無私ナルカ故ニ國家全體ノ福利及民衆一般ノ利便ヲ計圖スルカ如キハ政府ノ當ニ履踐スヘキ所ノ任務トス更ニ此點ヨリ觀察ヲ下ス片ハ或ル事業ニシテ之ヲ一私人ノ企業ニ委テヨリ寧ロ政府ニ於テ之ヲ爲スノ負カニ適當ナルト間之キナニアラス即チ郵便電信事業ノ如キ貨幣鑄造若クハ登記事務ノ如キ是レナリ加之ナラス政府ニ於テ此ノ如キ事務ヲ執ルハ抑社會ニ二重ノ利益ヲ與フルモノト謂フヘキナリ何トナレハ一ハ普ク會社一般ノ公衆ニ及ホス間接ノ利益即チ例ヘハ郵便事業ヲ起シ、爲メ公衆ハ安心シテ信書ノ往復ヲ委テ又登記事業アルカ爲メ人民各

社會ノ一般公衆ニ與フル利益

直接ニ事務ヲ請求スル者ニ與フル利益

自平和ニ且ツ安全ニ財産ノ所有權ヲ確定スルカ如キ專ラ一般公衆カ國家ノ事業ヨリ享受スル福利ニシテ一ハ直接ニ電信ヲ發送シ郵書ヲ贈答シ或ハ財産ヲ賣買讓與スルカ如キ專ラ社會一部ノ人民カ享受スル所ノ利益ナレハナリ而シテ善ク公衆ニ及ホス間接ノ利益ハ固ト無形ナレハ詳ニ之ヲ計算スルト能ハサレハ之ニ反シテ直接ニ一部ノ人民カ享受スル利益ハ時トシテ之ヲ概算シテ相當ノ代價ニ見積ルヲ得ヘシ然ルニ政府ニ於テ斯ル場合ニ施セシ行政事務ヲ維持センカ爲メ之ヲ一般公衆ヨリ徴収セル普通ノ租税ヲ以テ支辨スルカ如キハ蓋シ不公平ヲ生スルノ恐レアリトス何トナレハ常ニ多ク電信ヲ發送シ又常ニ財産ノ賣買取引ヲ多クスル人ハ固ヨリ直接ノ利益ヲ享タルト多カルヘケレハ其員數ハ僅カニ一局部ノ民ニ過キササルニ一般社會ノ公衆ハ反テ此等一部ノ少數民ニ利益ヲ與ヘンカ爲メ更ニ重荷ヲ負ハサル

直接ニ利益ヲ享受スル者ヨリ手数料ハ至當ナルコト

ヘカラサレハナリ是故ニ直接ニ利益ヲ享クル人ニシテ明亮ナル場合ニハ其利益ヲ受ケシ相當ノ報酬即チ手数料ヲ拂ハシメ之ヲ以テ斯ル行政事務ノ爲メニ要セシ費用ノ一部ヲ支辨スルハ尤モ至當トス故ニ何人カ利益ヲ享受スルヤ明確ニ知リ得ヘキ場合ニハ其費用ハ政府ノ職務ニ頼リテ利益ヲ享受スル者ヨリ徴収シ尙ホ足ラサルトキハ一般公衆ヨリ徴収スル所ノ租稅ヲ以テ之ヲ補フハ良ニ至當ノコトス

### 第二百六十六節

#### 手数料ノ限度

手数料ハ其性質政府ヨリ

手数料ハ其徴収額ノ限度ヲ超ユレハ租稅トナル

利益ヲ受クル人ヲシテ之ニ拂ハシムヘキ代價即チ報酬ナレハ茲ニ政府カ手数料ヲ徴収セントスルニハ實際其手数料ニ相當スル特別ノ職務ヲ施シ以テ特殊ノ利益ヲ與ヘサルヘカラス故ニ若シ政府カ一人ニ對シ盡スヘキ職務ヲ爲サルカ若クハ其職務ヲ盡スモ不相當ノ手数料ヲ徴収スルハ其手数料ノ性質ハ變シテ純乎タル租稅トナルヘ

手数料ヲ免除スヘキ場合

シ是ヲ以テ手数料ノ徴収額ハ一定ノ限度ヲ超過セシメサルヲ肝要トス實ニ手数料ハ政府カ徴収スヘキ人ノ爲メニ費セシ一定ノ費額ヲ標準トシテ定ムヘキモノナレハ其一定ノ費額ヲ超過スルト否トニ因リテ其性質ニ變更ヲ來タシ乃チ租稅トナルモノナリ故ニ又手数料ト租稅ノ由リテ岐ル、境界ハ則チ徴収金額ノ多寡ト其徴収額カ適當ノ限度内ニ在ルト否トニ由ルモノナリ

手数料ノ場合ハ租稅ノ場合トハ自ラ異ナリテ納稅者ノ貧富及資力財產ノ多寡ニ付テ區別ヲ立テス苟モ政府ニ特別公務ヲ請求スル者ヨリハ一様ニ徴収スルモノナレハ必要ナル行政事務ヲ請求スルニ方リテ往々手数料ヲ拂フコト能ハサル貧寒者ナシトセス例ヘハ訴訟裁判等ニ必ス手数料ヲ拂ハシムルトスレハ極貧者ニシテ訴訟入費ヲ拂フコト能ハサルハ其權利ヲ損傷セラル、モ之ヲ救正スルニ途ナク

已ムヲ得ス對手タル曲者ニ屈セサルヲ得ス此場合ニ於テ政府ハ正理ヲ保護シ是非曲直ヲ明斷シ以テ曲者ヲ罰セントセハ勢訴訟入費ノ如キ手数料ヲ免除セサルヘカラス次ニ政府ハ強迫的普通教育ヲ施キ卑チ貧富ヲ問ハス普ク智識ノ開發ヲ計ル時ニ當リテハ亦徃々貧家ノ子弟ニシテ授業料ノ如キ手数料ヲ納ムルコト能ハサルモノアラン斯ル場合ニ於テハ政府ハ須ラク之ヲ免除スルカ若クハ之ヲ輕減セサルヘカラス蓋シ政府カ訴訟ヲ裁判シ是非曲直ヲ明斷シ又普ク教育ヲ施キテ以テ一般人民ノ智識ヲ増進セシメントスルカ如キコトハ固ト社會公衆ニ對シテ爲サ、ルヘカラサル職務ナレハ僅カニ手数料等ノ爲メ其利益ヲ享受スル能ハサル貧民等アリテハ其主意ニ背クコト鮮カラストス故ニ宜シク之ヲ免除スヘキハ勿論又社會一般ヨリモ特ニ貧民ニ對シ恩惠トシテ手数料ヲ免除シ以テ之ニ司法事務ヲ施シ又貧民ノ

子弟ヲシテ就學セシムヘキハ洵ニ至當ノコトト謂フヘシ

**第二百六十七節 手数料ノ種類** 手数料ノ種類ハ頗ル夥多

ニシテ且ツ多クハ各國其揆ヲ一ニセサルカ故ニ今一々茲ニ列舉センハ固ヨリ煩ニ堪ヘサル所ナレト先ツ其大要ヲ舉クレハ手数料ノ區別ハ國家行政ノ部類ニ配當スルヲ常トス即チスタイン氏ハ内務、外務、軍務、財政、司法ノ各部ニ區別シ又ワグネル氏ノ手数料類別法ハ略ホスタイン氏ノ法ニ類似スレト未タ全ク同一ナリト云フヘカラス余ハ同氏ノ類別法ニ本キ左ニ其種類ヲ舉ケン而シテ此種類中各國普通ニ行ハル、重要ノ種類ニ至リテハ之ヲ後章ニ論スヘシ

**第一種 公共ノ安寧ニ關スル行政ノ手数料** 此内ニ屬スル重モナルモノハ兵役免除料、外國旅行免許料、在外商人保護料等トス又司法行政上ノ手数料ハ此種中一大部類ヲ占ム其主タル者ハ裁判入費、登

手数料ノ  
第一種、公  
共ノ安寧  
ニ關スル  
行政ノ手  
續料

第二、公  
共ノ福利  
ニ關スル  
行政ノ手  
數料

記料等ナリ又次ニ警察事務ニ關スル手數料ハ銃獵免許料、武器携帶  
免許料等ノ類トス而シテ此種ノ内ニ本邦ノ醫師開業免狀及醫術開  
業試驗手數料、藥品検査其他ノ手數料、代言免許料等ヲモ含有ス  
第二種 公共ノ福利ニ關スル行政上ノ手數料第一類ハ人民ノ智識  
道德等無形ノ幸福ニ關スル行政上ノ手數料ニシテ即チ學校ノ授業  
料等第二類ハ工商業ノ保護、獎勵、運輸、交通、貿易等有形ノ利益ニ關ス  
ル行政上ノ手數料、此内ニハ專賣特許料、商標登録手數料、貨幣鑄造手  
數料、度量衡檢印手數料、金銀證印料、鐵道運賃、郵便料及電信料等ノ類  
是レナリ

以上ノ種類中其重モナルモノハ司法ニ關スル手數料ト工商業貿易運  
輸交通等經濟上ノ行政ニ關スル手數料等トス余ハ此二種類ニ就キ後  
章ニ畧論セントス

### 第二章 司法行政ニ關スル手數料

司法的  
手數料ノ  
種類

#### 第二百六十八節 司法行政ニ關スル手數料ノ種類

司法事務ニ關スル手數料ハ分チテ二種ト爲スヲ得ヘシ即チ訴訟裁判  
ノ手數料ト訴訟ヲ豫防スルカ爲メ行フ所ノ公證登記等ノ手數料是レ  
ナリ第一種ハ訴訟入費ノ名義ヲ以テ徵收スル所ノモノ第二種ハ公證  
料及登記料ト稱シ其收入少カラサルモノトス本邦ニ於テモ登記法ヲ  
設ケテヨリ登記料ノ收入實ニ少カラス次下是等ノ手數料ニ就キ畧論  
セントス

#### 第二百六十九節 訴訟入費 訴訟入費トハ訴訟アルニ當リ

テ政府ハ之ニ裁判ヲ下シ其是非曲直ノ判定ニ就キ直接ニ關係者ニ對

第一、訟  
訴裁判ノ  
手數料  
第二、公  
證料及登  
記料

裁判手數  
料ヲ徵收  
スルノ理  
由

### 第二章 司法行政ニ關スル手數料

第一、一般納税者  
ヲシテ各  
訴訟事件  
ノ費用ヲ  
拂ハシム  
ルハ不公  
正ナリ

シテ特別ノ職務ヲ行ヒ以テ利益ヲ興フルモノナルカ故ニ關係者ハ其  
特別ノ公務ニ對シ報酬ヲ拂ハサルヘカラス此レ之ヲ訴訟入費ト云フ  
訴訟入費ヲ徴収スルニ就キ其重ナル理由ハ他ナシ裁判所ハ實ニ一私  
人間ニ於ケル爭論ヲ裁判シテ其關係者ニ特別ノ利益ヲ與フルモノナ  
レハ此ノ如キ特別ノ訴訟ニ對シ他ノ一般納税者ヨリ費用ヲ供給スヘ  
キ理由ナシトスルコト是レナリ故ニ直接ニ裁判ノ利益ヲ蒙ムリ直接  
ニ訴訟ニ關係シタル者之カ入費ヲ負擔セサルヘカラス但シ裁判所ヲ  
設置シ裁判官ヲ置クハ固ト一般公衆ノ安寧ヲ計ルニ在リテ單ニ訴訟  
ヲナシ裁判ヲ仰ク者ノ爲メノミニアラサレハ以上ノ入費ヲモ都テ訴  
訟關係人ヨリ徴収セントスルハ其不當ナルコト勿論ナレトモ特別ノ訴訟  
事件アル毎ニ其裁判ヲ受クル者ヨリ其費用ヲ徴収スルノ理由ハ十分  
存スルモノトス尙ホ他ニ一ノ理由アリ即チ裁判所ニ於テ此等民事訴

第二、健  
訟ノ弊ヲ  
防クニ在

訟ニ入費ヲ徴課セサレハ些細ノ事故ニモ尙ホ訴訟ヲ提起シ所謂健訟  
ノ弊ヲ生スヘケレハ少額ノ手数料ト雖モ之ヲ負擔セシメ以テ些細ナ  
ル紛議ノ爲メ敢テ裁判所ヲ煩ハス等ノ弊ナカラシメントノ事はレナ  
リ然ルニ訴訟入費ノ徴収ヲ不可トスル反對論者ハ曰ク抑民事裁判所  
ヲ設置スル所以ハ獨リ訴訟關係人ニ特別ノ利益ヲ與フルノミニ止マ  
ラスシテ却テ訴訟ニ關係ナキ人民ニ最も多クノ利益ヲ與フルモノナ  
リ何トナレハ一切訴訟ヲ裁判所ニ提起スルノ必要ナキ人民ト雖モ裁  
判所ノ設置アルカ爲メ安全ニ自己ノ財産權及ヒ其他ノ權利ヲ保持ス  
ルモノナレハ最も多ク利益ヲ享クルモノナリト言ハサルヘカラスレ  
ハナリ然ルニ訴訟ヲ提起セサルヘカラサル人民ハ固ト必要ニ迫ラレ  
テ此ニ至リシモノナレハ誠ニ不幸ト云ハサルヲ得ス而シテ此不幸ノ  
訴訟關係人ヨリ特別ニ入費ヲ徴収セハ則チ安全ニ權利ヲ保チ且ツ最

訴訟入費  
ヲ徴収ス  
ルヨリ生  
スル弊害

モ多ク利益ヲ享受スル者ニ厚ク裁判所ノ設ケアルモ其利益ヲ受クルコト左マテ多カラサル者ニ反テ刻薄ナル道理トナルヘシ且夫レ訴訟入費ヲ徴収スルトセハ假令權利ヲ毀損セラレタル貧民アルモ其入費ナキカ爲メ之ヲ恢復シ若クハ救正スルノ途ヲ失フニ至ラン良シ又訴訟ヲ提起シ得ヘシトスルモ常ニ其入費ノ繼續セサルカ爲メ貧者ハ正理ヲ枉ケテ富者ニ屈從セサルヲ得ス殊ニ其入費ハ敗訴者ヲシテ支辨セシムルノ制ナレハ訴訟ヲ繼續スル能ハサル貧者ハ毎ニ之ヲ負擔スルノ不幸ヲ見ルニ至ルヘシト此論亦一理アリト云フヘシ故ニ訴訟入費ハ宜シク輕課スヘク決シテ其一定ノ限度ヲ超過セシムヘカラス何トナレハ若シ過チテ其制限ノ程度ヲ超過スルコト甚シキニ至ラハ訴訟入費ハ一變シテ訴訟禁止税トナリ其極一切ノ訴訟ヲ禁止スルニ至ルヘケレハナリ良シ此ノ如キ極度ニ達セサルトスルモ社會ノ下層ニ

在ル貧民ハ訴訟入費ノ爲メニ訴訟ヲ提起スル能ハサルニ至リ復タ權利ノ伸張ヲ計ルニ由シナク竟ニ富民跋扈シテ貧民ハ冤枉ノ下ニ屈シ且ツ其壓制ヲ受クルノ惡結果ヲ生スルヤ知ルヘシ斯ノ如クンハ政府カ裁判所ヲ設ケ訴訟ヲ判定シ是非曲直ヲ裁決シ以テ曲者ヲ罰シ直者ヲシテ權利ヲ伸張セシメントノ目的ニ背叛スルノ不幸ヲ見ルニ至ルヘシ豈ニ慎ミテモ尙ホ慎マサルヘケンヤ

**第二百七十節 訴訟入費ノ徴収法** 訴訟入費ハ訴訟ノ爲

メ裁判上要スル費額ニ應シ該訴訟敗訴者ヨリ之ヲ徴収シ以テ其負擔タラシムヘキモノトス而シテ之ヲ徴収スルニ方リ官吏ヲシテ領取セシムル法ト官吏ヲシテ徴収セシムル法ト印紙法トノ三種アリ官吏ヲシテ領取セシムル法ハ即チ訴訟事件ニ就キ特別ノ手數ヲ煩シタル者其費用ヲ辨償シ當該官吏之ヲ領取シテ以テ己レノ報酬若クハ俸給ノ



一都ト爲スノ法是レナリ此方法ハ頗ル曖昧ニシテ且ツ危險多キカ故ニ近來ハ各國共ニ之ヲ廢止セリ次ニ官吏ヲシテ徵收セシムル法ハ無論其徵收シタル手数料ハ之ヲ國家ニ納メ官吏ハ一定ノ俸給ヲ受ケ若クハ手数料ノ一部ヲ得テ單ニ訴訟關係者ヨリ手数料ヲ徵收スルコトニ任スルノ法トス第三ノ印紙法ハ訴訟用書類ニ一定ノ用紙ヲ用ヒシメ若クハ一定ノ印紙ヲ貼用セシメ又ハ訴訟上ノ金高ニ應シテ印紙ヲ貼用セシムル等ノ方法ニシテ現ニ本邦ニ於テ施行スルモノ是レナリ此ハ最モ便利ナル方法トス蓋シ直接ニ官吏ヲシテ徵收セシムルハ人民ノ感觸ヲ害スルコト鮮カラサレ此印紙税法ニ據リテ間接ニ徵收スルハ官吏ト人民ト直接ニ會合セサレハ從テ人民ノ感觸ヲ害スルノ虞ナク極メテ便利ノ方法ト謂フヘキナリ

第二百七十一節

公証料及登記料

國家ハ各人ノ契約約

公證料並  
登記料ノ  
性質及ヒ  
之ヲ徵收  
スル理由

定財産ノ受授等ヲ確認スルノ任ニ當ルモノナレハ此場合ニ於テ政府ハ保證人ノ地位ニ立チ權利ノ移轉變化消滅等各人ノ所有權及ヒ他ノ一切ノ權利ヲ安固ナラシメンノ目的ヲ以テ其證書ヲ公證シ若クハ保管シ或ハ之ヲ登錄簿寫スルカ如キ行爲ヲ成シ以テ關係人ニ直接ノ利益ヲ與フルモノトス故ニ國家カ此特別公務ニ對シ各人ヨリ徵收スルモノヲ指シテ登記料ト云ヒ或ハ公證料ト云フ抑以上ノ如キ權利ノ確定移轉消滅等ノ場合ニ付キ政府之カ間ニ立チ嚴格ナル方式ヲ以テ一切ノ行爲ヲ執行シ取引ノ月日ヲ確證シ或ハ金高其他ノ條件ニ關スル證書類ヲ登記簿ニ登錄シ又ハ其原本ヲ調製シテ以テ豫メ供備スルハ各人ハ之ニ依リテ以テ安全ニ權利ヲ保チ百事明瞭トナリテ他日ノ紛議訴訟等ヲ豫防スルヲ得ヘシ故ニ關係人ノ利益ヲ享受スルヤ明カナリ又政府ハ之カ爲メニ官吏ヲ置キ簿冊ヲ備ヘ若クハ之ヲ保管スル等

第二章 司法行政ニ關スル手数料

種々ノ手續ヲ履行セサルヘカラサルカ故ニ之ニ對シ手数料ヲ徵収スルハ決シテ理由ナキモノトスヘカラス併シ以上ノ手数料ハ動モスレハ真正ノ手数料ニ止ラスシテ財産ノ轉徙即チ取引契約等ニ課スル所ノ租稅ト混シ易キモノナリ既ニ前陳セル如ク財産ノ轉徙ニ課スル租稅ト純然タル手数料トハ須ラク區別セサルヘカラサルモノトス而シテ其區別ノ存スル所ヲ擧グレハ次節ニ示スカ如シ

第二百七十二節 財産轉徙稅ト手数料トノ差異 (第一)

徵課スヘキ目的物件相同カラサルコト 手数料ノ場合ニ於テ徵課スル所ノ目的物件ハ契約證書類トス然ルニ財産轉徙稅ノ場合ニ於テハ其徵課ノ目的物件移轉スル所ノ財産ニ在リ (第二) 之ヲ徵收スル目的相同カラサルコト 手数料ハ專ラ契約證書類ヲ確認シ或ハ保護スルカ爲メニ支出シタル費額ヲ補償スルヲ以テ目的トシ財産轉徙ニ課

手数料トノ區別  
第一、課稅ノ目的物件異ナルコト  
第二、徵收セヘキ目的異ナルコト

第三、收入額ノ標準異ナル

稅スル目的ハ之ニ依リテ以テ政府財政上ノ目的ヲ達セントスルニ在リ即チ國庫ニ收入ヲ獲得セシメントスルコト是ナリ (第三) 徵收スヘキ稅額ヲ定ムル標準相同シカラサルコト 手数料ニ在リテハ其手續ヲ履行シ手数料ヲ施スカ爲メ支出シタル費額ヲ限度トシ之レヨリ超過セシメサルヲ以テ通例トス故ニ其徵收額ヲ定メントセハ手数料ノ多少ニ應シテ其多寡ヲ定メ他ノ事情ハ敢テ問ハサルモノトス然ルニ財産轉徙稅ニ於テハ財産轉徙ノ性質例ヘハ賣買ト相續又ハ相續者ニ於ケル血統ノ遠近等ノ差異ニ依リテ稅額ヲ異ニス又財産轉徙稅ノ場合ニ在リテハ專ラ其轉徙スル所ノ財産ノ價格ニ比例シテ稅額ヲ定メ或ハ財産ヲ授受スル所ノ各人間ノ親疎遠近ヲ區別シ其區別ニ由リテ稅額ヲ異ニセシムルモノトス此ノ如ク財産移轉稅ト登記料公證料等ノ手数料ト區別ヲ立ツレ元來此區別ハ混シ易キモノニシテ殊ニ各國

第二章 司法行政ニ關スル手数料

行政上ニ於テ往々此混交アルヲ見ル且ツ手数料ト雖モ時トシテ其證  
書面ニ記入シタル價格ノ大少ニ比例シテ徵收スルカ故ニ必スシモ一  
定額ヲ課スルモノト云フヘカラス併シ此故ヲ以テ斯ノ如キ手数料ハ  
必ス租稅ナリト云フニ及ハサルナリ若シ適當ノ限度ヲ超エス即チ一  
私人カ特別ノ公務ヲ請求スルカ爲メ政府ヲシテ支消セシムル費額ハ  
其證書面記入ノ財產價格ニ比例スルモノト看做シ又之ヲ以テ政府ノ  
支消額ヲ示ス標準ト爲シ或ハ斯ノ如キモノヲ以テ手数料ト云フモ敢  
テ妨ケナキモノトス然レモ其徵收額ニシテ一定ノ限度ヲ超ユル片ハ  
忽チ租稅ニ變スヘシト云フコトハ當ニ遺忘スヘカラスナルモノナリ

### 第三章 經濟行政ニ關スル手数料

#### 第二百七十三節 經濟行政ニ關スル手数料ノ種類

經濟行政ニ關スル手数料ノ種類ハ頗ル夥多ニシテ之ヲ分類スル亦尤  
モ困難トス故ニ一々之ヲ論究スルノ煩ヲ避ケ先ツ之ヲ大別シテ二種  
トスヘシ

第一 工商業ノ保護獎勵及交易ノ器具ニ關スル制度上ノ事務ニ係  
ル手数料

第二 運輸通信等ノ事務ニ對シ徵收スル手数料

是レナリ第一種中其重モナルモノハ貨幣鑄造手数料、度量衡檢證手數  
料、貴金屬証印手数料、專賣免許料等第二種中重モナルモノハ鐵道運賃、

經濟行政  
ニ關スル  
手数料ノ  
二種

郵便料電信料等トス此内首要ナルモノニ就キ左ニ畧論スヘシ

### 第二百七十四節 貨幣鑄造手数料 貨幣鑄造ノ事務ハ其性

質元ト民業即チ一私人間ノ自由競争ニ放任スヘキモノニアラス宜シク公衆ノ利益ヲ計ルヲ以テ其任トスル政府自ラ之ニ當ルヘキモノトス而シテ貨幣鑄造ハ正確ナル交易ノ器具ヲ作り且ツ磨滅シ若クハ粗悪ノ貨幣ヲ改鑄スル等ノ事務ヲ取扱フモノナレハ其國家ノ必要事務タルヲ知ルヘシ是ヲ以テ貨幣鑄造所ハ一般公衆ヨリ徴収スル所ノ税ヲ以テ設立スヘキモノナルコト復タ疑ヲ容レス併シ貨幣鑄造ニ際シ幾分カ少額ノ手数料ヲ徴収シ以テ鑄造用實費ノ一部ヲ補償セシムルハ寔ニ良制トス爰ニ貨幣鑄造ハ之レヲ國家ノ義務トシ政府ハ宜シク無料ニテ鑄造スヘキモノナリト説ク論者アリ其説ノ原ク所ハ地金ノ價格ト貨幣ノ價格ヲ均一ナラシメ貨幣ヲシテ實價ヲ失ハサラシメ

貨幣鑄造ハ宜シク國家ノ事務トスヘキコト

無料貨幣鑄造ノ弊害

ントセハ國家ハ當ニ無料ニテ貨幣ヲ鑄造スヘキモノナリト云フニアリ蓋シ無料ヲ以テ貨幣ヲ鑄造シ貨幣ト地金ト毫モ其間ニ價格ノ差異ナカラシメンカ實際上弊害ヲ生シ易キモノトナルヘシ何トナレハ鑄造ニ手数料ヲ要セサル片ハ新鑄貨幣ハ屢々磨潰若クハ輸出セラレ從テ鑄造スレハ從テ消失シ即チ磨損シタル輕量ノ貨幣ノミ社會ニ流通スルカ故ニ政府ハ屢々鑄造シ一般納税者ハ改鑄ノ重キ費用ヲ負擔セサルヘカラサルニ至ルヘケレハナリ故ニ貨幣鑄造ニ手数料ヲ要セサル片ハ其弊ヤ貨幣ノ新造ヲ濫リニ政府ニ請求スルノ結果ヲ招クニ至ルヘシ但シ貨幣鑄造ノ手数料ハ之ヲ確然タル手数料トシテ其鑄造ノ實費額ニ止マラシムヘシ若シ之ヲ以テ鑄造費以外ニ超過セシメ新歲入ヲ得ルノ方法ト爲ス片ハ其弊害タル亦太甚シキニ至ラン抑往古ニ在リテハ政府財政ノ法ニ暗ク即チ紙幣ヲ發行シ若クハ國債ヲ起シテ財政

貨幣鑄造ノ實費額ハ手續料ハ實額ヲ限度トスヘキコト

ノ紊亂ヲ整理スル等ノ方法ニ熟セザリシカハ往々貨幣鑄造上其純分ヲ減シ若クハ地金タル貴金屬ノ分量ヲ減少シテ以テ他ノ金屬ヲ混交シ法律ノ力ヲ以テ之ニ精良ナル貨幣ト同一ノ名義ヲ付シテ社會ニ流通セシメ而シテ其純量ノ差ニ於ケル収入ヲ以テ政府ノ利益ト爲スノ法ヲ行ヒキ我邦徳川幕府ニ於テモ吹替ト稱ヘテ屢之ヲ行ヒ惡貨幣ヲ鑄造シテ其地金ト貨幣呼價トノ差ヲ政府ニ益シ以テ一時財政ノ急ヲ救フノ用ニ供シタリ英國ニ於テモ曾テ此事盛シニ行ハレヘンリー七世ノ頃金貨幣鑄造手數料ハ貨幣價格ノ一割六分ニ當リタリト云フ又佛國伊國等ニテモ近世商業ノ振起スル迄ハ國王ノ財源トシテ屢行ハレタリ斯ノ如キ方法ハ其害毒一ニシテ足ラス就中貨幣ノ信用ヲ社會ニ失ハシメ從テ粗惡貨幣ノ低落ヲ來タシ物價爲メニ騰昂シ契約ヲ紊亂シ債主ヲシテ損失ヲ蒙ラシムル等專ラ貨幣制度ヲ亂スノ弊害ヲ醸

貨幣鑄造  
ヲ以テ國  
家ニ收入  
ヲ得ルノ  
手段トス  
ルハ不可  
ナリ

成スルモノナリ加之ナラス之ト同時ニ粗惡貨幣ノ出ルルハ純良ナル貨幣ハ跡ヲ収メ空シク金匠兩換店若クハ銀行家ノ爲メニ竟ニ鑄潰セラル、ニ至ルヘシ故ニ貨幣鑄造ヲ以テ國家ノ歲入ヲ計ル法ト爲スカ如キハ極メテ弊害多キ措置ト云ヘキナリ但シ貨幣鑄造所ニ於テ他金ヲ以テ貨幣ニ鑄造センコトヲ請求スル者アル時其分析費並鑄造費ノ補償ニ限リテ手數料ヲ徵スルコトハ實ニ必要ニシテ且ツ至當ナリトスヘキナリ

度量衡檢  
證手數料

第二百七十五節 度量衡檢證手數料 度量衡ハ正確ニシテ且

ツ其間ニ毫釐ノ差ナキヲ要スルヤ勿論トス是故ニ度量衡ノ制度ハ政府之ヲ制定シテ其製造ヲ他ノ自由競争ニ一任シ去ルカ如キ事ナカラシメ政府ハ宜シク十分ニ其制度ヲ維持シテ以テ其製造ノ均一ナラシムコトヲ務ムヘキモノナリ然ルニ一般人民ヲシテ國家カ制定シタル度

量衡ノ制ヲ遵奉セシメ更ニ全國ヲ通シテ均一ナラシメントセハ國家ハ勢權力ヲ以テ之ヲ檢證スルノ勞ヲ執ラサルヘカラス此レ政府カ毎ニ度量衡ノ製作者ニ就イテ其製造セル度量衡ヲ檢査シ之ニ證印ヲ施シ且ツ其勞ニ對スル報酬トシテ手数料ヲ徵收スル所以ナリ故ニ度量衡ノ手数料ハ當初之ヲ製作者ヨリ徵收スト雖モ製作者ハ之ヲ販賣スルニ當リテ該使用者ニ轉嫁シテ以テ其手数料ヲ回収スルヲ得ヘシ實ニ度量衡ノ檢證ハ必要ナル經濟上ノ保護ニシテ又之レヨリ相當ノ手数料ヲ徵收スルハ蓋シ十分ノ理由アリテ存スルモノト謂フヘキナリ

**第二百七十六節 金銀證印手数料** 金銀ノ如キ貴金屬ヲ以テ製造セル物品ハ間賈造若クハ其性質ノ粗惡ナルモノヲ生シ易キモノトス殊ニ社會ノ公衆ハ一々金銀若クハ金銀ノ器具ヲ鑑識スルノ明ヲ有セサレハ從テ其眞贋良否等ハ之ヲ知ルニ由ナキナリ故ニ政府

金銀證印  
手数料

ニ於テ豫メ社會ノ便益ヲ計リ之カ性質ヲ檢定シ而シテ以テ其性質ノ純良ナルコトヲ保證スルハ良ニ至當ノ任務トス是レ政府カ金銀及金銀ノ器具ニ證印ヲ付スル所以ナリ而シテ此事タル或ハ時ニ販賣者ヲシテ必ス證印ヲ受ケシムルノ制ヲ執リ或ハ其證印ヲ請求スル者ニ限リ檢證スルノ制ヲ執レルモアリ而レモ概シテ斯ノ如ク金銀器ニ純良ナリトノ證明ヲ與ヘンカ爲メ政府ニ於テ之カ檢査ノ勞ヲ執ルハ是レ則チ社會公衆ニ利益ヲ與フルモノナレハ其報酬トシテ之ニ對シ手数料ヲ徵收スルハ誠ニ至當トス其徵收方法ハ矢張製造人若クハ販賣人ヲシテ先ツ手数料ヲ上納セシメ以テ政府ハ金銀若クハ金銀器ノ純良ナルコトヲ證明センカ爲メ之ニ證印ヲ施シ而シテ後チ製造人若クハ販賣人ヲシテ更ニ之ヲ購買者ニ轉嫁セシメ以テ其手数料ヲ回収セシムルコトヲ得ヘシ

官有鐵道  
及民有鐵道

### 第二百七十七節

### 鐵道運費

鐵道ノ所有及管理ハ宜シク自由

競争以外ニ置キ國家ニ於テ之ヲ所有管理スヘキモノナリトスル即チ官有鐵道ノ利益ヲ説ク者近來益々其勢炎ヲ増セシモノ、如シ然レモ仍ホ鐵道ハ英米兩國ニ於ケルカ如ク凡テ之ヲ民有トシ政府ハ單ニ之ヲ監督スルニ止ル所ナキニアラサレハ官有民有ノ利害得失ハ未タ一定ノ歸結ヲ得ス猶ホ未定ノ問題ニ屬スト云フモ敢テ害ケナカルヘシ併シ鐵道ハ事業ノ性質ヨリ見ルモ之ヲ民間ノ營業ト爲サンヨリハ寧ロ國家ノ事業ト爲スニ適スルモノ、如シ故ニ獨佛兩國ノ如キハ鐵道ヲ以テ漸次國家ノ所有ト爲スノ方針ヲ取レルノミナラス又私立會社ノ鐵道事業ト雖モ尙ホ其管理ヲ國家ニ於テ掌ルカ如キ趨勢ヲ致セリ蓋シ國家ニ於テ鐵道事業ヲ經營シ且ツ之ニ從事スルニ方リテ國家ノ特占營業トナシ其營業ヲ民間ニ禁スルカ如キニ至ラハ其收入ハ即チ純

鐵道運費  
ハ手数料  
トシテハ  
官業収益  
タリ

鐵道運費  
稅

乎タル手数料ノ性質ヲ帶フルモノト云フヘシ併シ政府カ仍ホ民間ニモ營業ヲ許シ之カ自由競争ノ間ニ立チテ鐵道營業ニ從事スル片ハ之レヨリ生スル一切ノ収益ヲ稱シテ官業ノ收入ト言ハサルヘカラス要スルニ國家カ鐵道事業ニ從事シ其營業費及ヒ之カ爲メニ投シタル固定資本及流動資本ノ利息ヲ補償スルカ爲メ旅客若クハ荷物ヲ運搬シ之ニ依リテ利益ヲ享受スル者ヨリ運費ヲ徵收スル片ハ之ヲ指シテ手数料ト云フヲ得ヘシ然レモ又民間ノ私立會社ニシテ鐵道營業ニ從事セシメ國家ハ單ニ之カ監督ノミニ任シ往々手数料ヲ徵收セスシテ急行列車若クハ緩行列車ニテ運搬スル乘客並荷物ニ課稅スル國アリ斯ノ如キハ即チ租稅ヲ私立會社ヨリ徵收スルモノニシテ鐵道會社ハ又之ヲ運費ノ中ニ算入シ以テ旅客若クハ荷物ノ委託者ヨリ同收スルカ故ニ鐵道旅行及鐵道運搬ニ課スル所ノ租稅ト云フヲ得ヘシ

### 第二百七十八節 郵便料 郵便料ハ鐵道事業ニ反シテ之ヲ國

郵便事業  
ハ國家ノ  
職務ト爲  
スニ適ス  
ル所以

家ノ特占事業ト爲スヘキコトハ各人概テ一致スル所ニシテ又現今諸國ノ實際ニ於テ殆ト其揆ヲ一ニセリ併シ近來ニ至ルマテ之ヲ民業ニ委テシ處ナキニアラサリシ被ノ有名ナルチユール、エ、タキシース社ノ日耳曼諸邦ニ信書ヲ遞送スルヲ以テ業ト爲シ、カ如キ即チ是レナリ現今ニ迄ンテハ郵便事業ハ各國實際ノ諸例ニ依リテ國家特占ノ事業トナスニ適スルコト業ニ既ニ證明セラレタルモノ、如シ實ニ便郵事業ヲ以テ公衆ニ利益ヲ願フタントセハ第一寒村僻邑ヲ問ハス遍ク通信遞送ヲ迅速ニ且ツ頻繁ニシ第二發着集配ヲ嚴ニセサルヘカラス故此ノ如キ事業ハ之レヲ民業ノ自由競争ニ放任シ即チ單ニ利益ノ獲得ノミヲ以テ目的トスル營利的會社ニ委任センヨリハ寧ロ政府ニ於テ管理監督スルノ優レルニ若カサルナリ又郵便事業ハ其組織單簡ニシ

現今各國  
ノ郵便料  
入ハ手數  
料ヲ償フ  
リ尚ホ餘  
リアリ

テ而モ畫一ノ方法ヲ以テ取扱フコトヲ得ルカ故ニ之レヲ他ノ複雜瑣ニ渉ルモノニ比スレハ其管理上大ナル利便ヲ有スルヤ知ルヘシ是レ郵便事業ヲ以テ國家ノ特占業ト爲スニ適スル所以ナリ而シテ國家ハ信書ヲ遞送配達スルカ爲メ一私人ニ對シテ特別ノ行爲ヲ施シ其職務ヲ爲スカ故ニ郵便事業ノ行政費用ハ之レヲ通信者ヨリ領収スルコト固ヨリ其所トス左レハ現今各國共ニ郵便料ノ収入ハ其經費ヲ支辨スルモ尙餘利ヲ生シ往々之ヲ以テ國家歳入ノ一要具トナスニ至レリ獨リ北米合衆國ノミハ他ノ諸國ト異ナリ其境域非常ニ廣大ナルカ爲メ其収支相償ハ即チ一八七五年度ニ於テ其収入ノ支出ニ及ハサルコト四一五、一〇〇弗ナリシト云フ實ニ郵便収入ハ單ニ事務上ノ手數料タルニ止ラス益増進シテ國庫ニ収入ヲ納ル、カ故ニ往々之ヲ郵便稅ト稱シ又之ヲ租稅ト同一視スルニ至レリ然レモ其性質ヤ元來信

米國ハ例



膏ヲ發送スル者即チ政府ニ特別ノ公務ヲ請求シテ利益ヲ享受スル者ヨリ徵收スル者ナルカ故ニ真正ノ手数料タルヤ復タ疑ヲ容レズ殊ニ其手数料タル現今各國ニ行ハル、所ノモノ皆齊シク僅少ノ額ニ止ルカ故ニ手数料トシテ決シテ不適當ナル金額ナリト云フヘカラス現ニ我邦郵便料ノ實況ヲ見ルモ二錢ノ郵券ヲ貼用セハ以テ寒村僻邑ノ嫌ナク全國到ル處ニ信書遞送ノ委託ヲ得ルニアラスヤ之ヲ當時只飛脚ノ便ニ藉リテ僅ニ音問ヲ通セシ時ニ比シテ費用上其差異幾許カアル實ニ舊時ニ比スレハ斯ル費額ハ九牛ノ一毛トモ云フヘキノミ蓋シ各國ニ於テ郵便料ノ巨多ナル所以ハ實ニ郵便事業ハ其擴張巨大ニ趨クニ從ヒ通信愈其數ヲ増加スルニ從テ其數ノ増加ノ割合ニ費用却テ嵩マサルノミナラス一信書ヲ遞送スルモ數千通ノ信書ヲ遞送スルモ其間ニ殆ト費額ノ差アラサルカ故ニ事業益増大スルニ從テ其費用省減ス

郵便料取  
入ノ巨大  
ナル所以

郵便料徵  
収方法  
及其改良

ルヲ得ヘク而シテ其收入ハ却テ陪增加スルモノナリ又昔者郵便料ハ大抵距離ノ遠近ニ從テ増減シタリシカ此距離ノ遠近ニ從テ手数料ヲ異ニスル舊制ハ事務複雑ニシテ費用從テ冗多ニ且ツ實際書狀遞送ノ手數ハ距離ノ遠近ニ比例セサルカ故ニ頗ル公平ヲ缺ケル者ナリキ然ルニ現今ニ途ンテ郵便料ハ單ニ書狀ノ重量ニ原キ距離ノ遠近ニ拘ハラズ渾テ均一ノ手数料ヲ徵收スルニ至リシハ此レ郵政上ノ一大進歩ト謂フヘシ而シテ此改良進歩ヲ率先首唱シタリシハ實ニ一八三七年英國ノローランド、ヒル氏ノ有名ナル發議ニ係ル次テ改正ノ實施ヲ見タリシハ一八三九年創メテ英國ニ於テ行ヒシコト是レナリ實ニローランド、ヒル氏ノ郵便料徵収法上一大進歩ヲ促シ且ツ氏ノ改正ニ依リテ通信ノ便ヲ社會ニ増セシト眞ニ其幾何ナルヤヲ知ラス殊ニ此改正方法實施后ハ歐洲諸國ノ郵便法漸次簡單トナリ均一トナリ從テ經費ノ節

ローランド、  
ヒル氏ノ  
一大  
改正

約ヲ得タル亦幾許ナルカヲ知ラサルナリ即チ郵便切手ヲ用ヒテ運賃ヲ前納セシムルコト運賃ノ割合ヲ低減スルノ距離ノ遠近ニ從テ運賃ノ種類區別ヲ設ケサルコト郵便爲換法ヲ制定シタルノ又近年ニ迄ンテ郵便端書及郵便小荷物ノ制ヲ創始シタルカ如キ是レ皆郵便制度上著キ改良進歩ト云ハサルヘカラス而シテ是等ノ進歩改良相集リテ竟ニ現今ノ如キ郵便制度ノ完備ヲ致シ且ツ其收入ハ愈益巨大ナルノ趨勢ヲ示スニ至レリ是ニ由テ之ヲ觀レハ郵便料收入増加ノ如キ敢テ異ムニ足ラサルナリ且夫レ社會ノ人事益々頻繁ニ赴キ其構成愈々複雑トナルニ從テ人口増加シ又教育漸次普及スルニ及ンテ文字ヲ記シ書ヲ讀得ルモノ次第ニ増加シ其増加ニ從テ通信ハ愈々其數ヲ増スニ至ルヤ知ルヘシ殊ニ未開ノ昔時ト異ナリテ現今ハ漸次夫ノ故土ニ戀々シテ一小天地ニ局促セルカ如キ生活ヲ抛キ天涯地角敢テ辭セス東ニ西ニ各快

郵便料収  
入増加ノ  
原因

潤ナル生活ヲ逐フテ轉徙スル有様ナレハ他郷ニ住スルモノ極メテ多ク從テ其間ニ通信ノ數ヲ増スニ至ルヘク又運輸ノ便急速トナリ車馬鐵道道路等ノ開達ニ從テ通信ノ數愈々増加スルニ至ルヘシ是等ハ皆以テ信書増加ノ原因トスヘク又斯ノ如キ數多ノ原因ハ其ニ郵便物ノ増加チ來タシ其事業ヲ盛大ナラシメ又其收入ノ増加ヲ惹起スルヤ當ニ疑ナカルヘシ

第二百七十九節

電信料

電信事業ハ其性質郵便事業ニ似タ

レレ唯電信事務ハ郵便事務ニ比シテ簡單畫一ナラス隨テ其經費少ナカラストス然レレ之ヲ鐵道事業ニ比スレハ尙ホ遙カニ簡單ニシテ國家ノ管理ニ適スルカ故ニ國家ノ事業ト爲スコトハ殆ト確然動カスヘカラサルモノ、如シ是ヲ以テ電信事業ハ概テ諸國ニ於テ政府ノ特占業トナシ又其手数料ノ徵收方法モ畧ホ郵便業ニ相等ク敢テ距離ノ遠

電信料

近ニ依テ細密ナル區別ヲナサス一音信毎ニ手数料ノ増加ヲナスノミ  
斯ノ如ク簡單ナル方法ヲ採用シ又漸次手数料ノ額ヲ減少スルハ電  
信事業ヨリ生スル政府ノ収入ハ其支出ヲ償フテ尙ホ餘リアルニ至ル  
ヘシ

## 第二篇 國家ノ私權ヨリ生スル諸收入論

### 官有財產及官業ノ收入論

#### 第一章 國家ノ生産ニ係ル收入汎論

#### 第二百八十節 生産的収入ノ意義 生産的収入トハ國

家カ私人的經濟ノ範圍内ニ於テ通常人民カ有スル所ノ權利即チ私權  
ノ施行ニ依リテ其所有財產若クハ營利的產業ヨリ獲得スル所ノ收入  
ヲ云フ而シテ此種ノ収入ハ之ヲ國家カ其特有ノ權力即チ國權ヲ以テ  
人民私有財產ノ一部分ヨリ徵収シ得ル所ノ収入ト區別セサルヘカラ  
ス國家ハ元ト一個人ト均シク土地森林鑛山ノ如キ財產ヲ所有シ又其  
資本ヲ運用シテ產業ヲ營ムコトヲ得ルカ故ニ此ノ如キ行爲ヲ執ルニ

生産的収  
入トハ何  
ソヤ

生産的収  
入ト収府  
持占業ノ  
取入即チ  
租税ト  
ノ區別

當リテ國家ハ恰モ一私人ト異ナル者タ官有財産ヲ所有シ官業ヲ創設  
シテ之ヲ管理シ貨物ヲ製造シテ之ヲ販賣スルカ如キ行爲ハ凡テ民法  
規定ノ範圍内ニ於テ法律ニ準據シテ從事セラルヘカラス又之ヲ經濟  
上ヨリ云フモ國家カ此ノ如キ營業ニ就イテ生産物ノ製造販賣等ニ從  
事セントセハ亦廣ク一般人民ト等シク自由競争ノ地位ニ立タサルハ  
カラサルモノナリ故ニ國家カ生産的の事業ヨリ収入ヲ獲得スル場合ニ  
ハ國家ト一私人ト毫モ其間ニ軒輊ナキモノトス若夫レ國家カ他人ノ  
自由競争以外及民法規定以外ニ立チ特別ノ法律ヲ設ケ此特權ニ依リ  
テ以テ財産ヲ所有シ若クハ産業ヲ營ムカ如キハ是レ則チ國家カ特占  
ノ生産ニ依リテ得タル収入ニシテ余輩ノ愛ニ所謂國家ノ私權ヨリ生  
スル生産的の収入ト稱スルモノニハアラサルナリ此レ既ニ前陳シタル  
如ク佛蘭西ノ烟草製造火藥彈丸製造摺附木製造ノ特權等ニ於ケルカ

往古歐洲  
諸國ニ在  
リテハ官  
有財産ノ  
經濟法專  
ラハレ  
タル

如ク專ラ政府特占ノ企業ニ屬シ其収益ハ家口租税ニ準スヘキモノニ  
シテ此ニ論スル生産的の収入トハ全ク之ヲ區別セサルヘカラス夫ノ特  
占企業ニ屬スル政府ノ生産物ハ製造ニ販賣ニ素ト他ノ競争ナキカ故  
ニ其價格ノ由リテ出ル所モ亦自ラ政府ノ一方ニ屬シ決シテ賣買者雙  
方ノ協議ニ依リテ成レルモノニアラス之ニ反シテ特權ヲ有セサル政  
府ノ企業ニ屬スル生産的の製造販賣ハ他ニ同一ノ事業ニ從事シ共ニ競  
争スルモノ一個人或ハ私立會社等多ク之レアルカ故ニ政府ハ己カ欲  
スル所ニ從テ其價格ヲ定ムル能ハス從テ通常収メ得ル利益ノ外格外  
ノ巨利ヲ収ムルヲ得ス此レ兩者ノ間ニ差異アル較著ノ要點トス

**第二百八十一節 有官財産及官業ノ收入** 往古歐洲諸國  
ノ未タ封建時代タリシ時ニ當リテハ專ラ官有財産ノ収入ヲ以テ國家  
ノ支出ヲ支辨シタリシカ降テシエフレ、氏ノ所謂無限專制君主政治

ノ時代ト爲リ全國家ヲ舉テ國王ノ權力ノ下ニ統率セラレ即チ中央集權旺盛ナルニ迫ンテ國家收入ノ最大部分ハ當時ノ政府即チ國王所屬ノ財產ヨリ生スル收入トナリ加フルニ務メテ諸物件ヲ舉ケテ政府特占權ノ範圍内ニ包括セシメ以テ莫大ノ利益ヲ取得セシカハ此收入ヲ以テ國費ヲ支辨スルトナレリ然ルニ近世ニ迫ンテ國家ノ觀念頗ニ一變シ國家ヲ以テ社會憲法上ノ機關トスルニ至リシカ故ニ財政ノ主義綱領モ亦此ニ一變シテ從來專ラ官有物ノ收入即チ國王所屬ノ財產收入ヲ以テ國家經濟ノ基本ト爲シ、コトヲ廢メ現今ハ國民ノ私有財產ヨリ徵收シタル租稅ヲ以テ國家收入ノ首座ニ置キ國家ノ支出ハ渾テ之ニ依リテ以テ支辨スルノ制トナレリ左レハ租稅ハ漸次擴張セラレ又其種類増加シテ國民納稅ノ負擔ハ漸次重キヲ加ヘシカ曾テ最モ顯著ナリシ官有財產ノ收入ハ漸ク其區域ヲ狹ムルニ至レリワグチル

現今ノ國家ニ在ツテハ租稅經濟法專ラ行ハル

官有物收入近世巨額ナラサハルニ付キワグチル氏ノ計算

氏ノ計算ニ據レハ一八七三年ニ於テ歐洲各國政府カ獲得シタル私權的収入(但シ同氏ハ此内ニ手數料並ニ其他租稅類似ノ諸收入ヲモ包含セシメ殊ニ郵便、電信、鐵道及ヒ富講收入ノ如キ者ヲモ算シタリ)ノ純生產額ヲ以テ之ヲ其各國政府ノ純支出ニ比例スレハ英國ハ僅カニ二分五厘佛國ハ三分九厘奧國四分九厘伊國ハ較多キモ一割〇二厘露國ハ一割三分五厘普國ハ三割一分九厘ニ當ルト云フヲ以テ國家ノ私權ヨリ生スル純粹ノ生產的収入ハ寔ニ僅少ニシテ到底國家財政上ノ要地ヲ占ムルニ足ラサルヤ明ケシ(尙ホ國家收入論中緒論第二十九節ヲ參照スヘシ)爰ニ歐洲中或ル一國ニ於テハ尙ホ官有財產ノ收入ヲ棄スシテ專ラ之ヲ以テ國家財源ノ要地ニ置カンコトヲ試ミ却テ之カ擴張ヲ計ル者アルカ如シ而シテ某國トハ何ソヤ曰ク普國是レナリ

第二百八十二節 官有物ニ於ケル收入ノ多少ニ就キ

私權的即  
子生產的  
收入ニ關  
シ英普ノ  
反對

英普兩國ノ差異 英國政府ハ所屬ノ土地又ハ其企業ヨリ獲得ス  
ル收入ハ殆ント之レナキカ如シ元來同國政府ノ歲出入額ハ其總額頗  
ル莫大ナルカ故ニ假令官業等ノ收入之アリトスルモ此ヲ以テ彼ニ比  
スレハ其額甚々僅微ニシテ殆ト九牛ノ一毛ニタモ及カサルナリ殊ニ  
英國ハ官有地官業等ノ收入ヲ以テ其歲入豫算表ノ一部ヲ填補スルカ  
如キハ固ト其素望ニアラサルニ似タリ然ルニ之ニ反シテ普國ハ其國  
費ヲ支辨スル收入ノ大部分ハ固ヨリ之ヲ租稅ニ取レ之レノミヲ以  
テ足レリトセス尙ホ其官有地ヨリ生スル收入ヲ以テ之ヲ補充シ加之  
ナラス特權ヲ有セスシテ人民ト更ニ自由競争ノ地位ニ立チテ以テ収  
ムル所ノ官業ノ利益ヲモ擧ケテ之ニ充テリ左レハ之ヲ英國政府カ官  
有地若クハ官業ヨリ收ムル額ニ比スレハ固ヨリ同日ノ談ニアラス其  
間實ニ霄壤ノ差アリト謂フヘシ且ツ普國政府ハ更ニ自ラ資本家トナ

英國ニ於  
ケル私權  
的収入ノ  
僅少ナル  
ヲ

リテ内外國人民ノ別ヲ問ハス其營メル事業ニ投スルニ資本ヲ以テシ  
之レヨリ生スル利益ヲモ合セテ歲入豫算表ノ一部ヲ補フ財源トセリ  
而シテ普國政府ハ此財政ノ方法ヲ敢テ拋棄スルニ意ナキノミナラハ  
尙益之ヲ擴張セントスルモノ、如シ此ニボリユ一氏ノ言ニ從ヘハ英  
國政府ハ官有地ヲ廣メ又ハ官業ノ盛大ヲ希望セサルカ故ニ一八七七  
年度ニ於テ英國政府歲入豫算ノ總額ハ一九六五〇〇〇〇〇法(即チ  
約三、九二八〇〇〇〇〇圓)ナリ其内官有地及官業等ヨリ得ル所ノ收入  
額ハ一五〇〇〇〇〇〇法(即チ約三〇〇〇〇〇〇圓)ニ達セス左レハ英  
國政府ノ歲入豫算表中其總額ニ對スル官有地及ヒ官業ノ收入ハ僅カ  
ニ百分ノ〇分八厘ナルカ故ニ英國政府カ此等私權的収入ヲ以テ敢テ  
重要視セサルコト亦以テ怪ムニ足ラサルナリ然ルニ之ト反對ノ觀ヲ  
呈スルモノハ則チ普國ニシテ一八七三年ニ於テ該政府カ官有物並官

普魯士於  
國私權  
ケル巨  
的収入  
大ナル

選ヨリ得タル収入ノ總額及其種類別並ニ其各種ノ總收入中ヨリ扣除  
スヘキモノ即チ以上ノ利益ヲ収メシカ爲メ要セシ費用等ヲ列記スレ  
ハ左ノ如シ

種目	總收入額	生産費用即チ總收入額ヨリ 扣除スヘキ金額
政府所屬ノ耕作地ヨリ得タル収入	七一〇、六二〇〇〇圓	一六〇、〇〇〇〇圓
全森林地ヨリ得タル収入	一六九〇、一〇〇〇〇圓	五六七、〇〇〇〇圓
全鐵山諸製造場及鹽坑ヨリ得タル収入	二二五六、八七一〇圓	一六六五、〇〇〇〇圓
同鐵道ヨリ得タル収入	三〇七〇、〇〇〇〇圓	二二八三、〇〇〇〇圓
政府ノ開鑿修繕シタル道路ヨリ得タル収入	一一四、四〇〇〇圓	
政府ノ開鑿ニ係ル掘削ヨリ得タル収入	四五〇〇〇〇圓	
政府所有ノ普魯士銀行株券ヨリ得タル利息	一五〇、一五〇〇圓	
貨幣ノ鑄造ヨリ得タル利益	二五八〇二〇圓	貨幣鑄造費、官有印刷場費、官立陶器製造所費等ヲ合セ

二四、六四〇〇圓 官有印刷場ヨリ得タル利益 四八、〇〇〇〇圓

七九、一六〇六圓 官立農學校及牧馬場ヨリ得タル収入

七九五七、一四三七圓 以上總計

以上掲ケシ統計ニ據リテ觀レハ普魯士王國政府所屬ノ官有物及官業ヨリ得タル収入ハ實ニ少カシケル額トス同年度ニ於ケル該國政府ノ歳入總額ハ一、五七四三、二六〇〇圓ニシテ其内八〇〇〇〇〇圓ハ殆ト官有物及官業ノ収入ナルカ故ニ普魯士王國政府歳入總計ノ過半ハ生産的収入ノ占ムル所ナリト云フヲ得ヘシ但シ普魯士ハ獨逸聯邦中ノ一王國ナレハ縱令普魯士國ヨリ徵收シタル収入ト雖モ之ヲ該國歳入ノ内ニ加ヘスシテ直チニ獨逸帝國ノ歳入中ニ移シ算入スルモノ蓋シ亦妙カラス是故ニ普魯士國政府ノ歳入豫算表ハ凡テ該王國內ヨリ徵收シタル所ノ歳入ノ總額ヲ謂フモノニアラス今爰ニ普魯士王國ヨリ徵收

スル租税ニシテ之ヲ該王國ノ収入ニ加ヘス直チニ獨逸帝國歳入ノ部ニ移スヘキモノヲ舉レハ第一海關稅第二消費稅第三郵便料第四電信料等トス此等ハ皆悉ク巨大ナル収入ナルカ故ニ普魯士全國ヨリ生スル眞歳入即チ帝國ノ國庫ニ移スモノヲモ合セテ總計スルトキハ殆ト二、二〇〇〇、〇〇〇圓ニ達スルナラン而シテ前ニ舉ケシ八〇〇〇、〇〇〇圓官有物及官業ノ収入ヲ以テ之ニ比スルトキハ其割合コソ少シク減スレ尙ホ普魯歳入ノ三分ノ一強ヲ占ム但シ爰ニ謂フ八〇〇〇、〇〇〇圓ニ垂ンタル官有物収入ハ是レ其收入總額ニシテ之レヨリ諸費用ヲ扣除セシ純収益ニアラス故ニ前表ニ掲出シタル諸費用ノ合計四七二四、三六二一圓ヲ之レヨリ扣除セハ則チ普魯士國ノ官有地及其官業ヨリ生スル純収入額ハ三二二、七八一七圓ニ減少スヘシ併シ此額ト雖モ尙ホ決シテ僅少ノ額ト云フヘカラス之ヲ以テ普魯士國

歳入ノ總計ニ比スレハ其比例頗ル大ナルモノトス之ニ依リテ見レハ普魯士政府ニ於ケル官有物収入ヲ以テ其重要ナル財源ナリト云フモ決シテ過誤ニアラサルヘシ實ニ普魯士國政府ハ廣漠ナル土地ヲ所有シ且ツ之カ開墾種藝ヲ勉メ尙ホ進ンテ自ラ諸種ノ工業ヲ起シ期スルニ盛大ヲ以テス其他道路ヲ開墾シ國道橋梁ヲ架設シ運輸ノ便ヲ計ル等定ニ勤メタリト謂ツヘシ左レハ普魯士政府カ從事スル所ノ事業ノ區域ハ日ニ月ニ潤大トナリ就中鐵道事業ノ如キハ該政府カ益々擴張セントスル所ニシテ尙ホ全國ノ鐵道ヲシテ悉ク官有ニ歸セシメントスルハ殆ト該政府ノ素志ナルカ如シ而シテ以上ノ事業ノ如キハ皆英國政府ノ敢テ望マサル所ナレハ其財政上収入ノ點ニ至リテ全然反對ノ結果ヲ生スルハ固ヨリ當然ノ事ニシテ決シテ其間ニ疑訝ヲ容ル、ニ足ラサルナリ



### 第二百八十三節 生産的収入ノ種類

以上陳ヘシ如ク現今歐洲諸大國中稍巨大ナル収入ヲ官有財産及官業ヨリ獲得スル者ハ蓋シ普國ヲ以テ最トス抑官有財産及官業ノ収入中ニハ如何ナル種類ヲ含有スルヤ蓋シ官有財産ノ如キハ其數稍限リアルモノナレモ官業ハ固ト政府カ特占權ヲ握リテ營業スルモノニアラサレハ政府ニ於テ擴張セント欲セハ凡ソ民間ニ存スル諸種ノ營利的事業ハ皆取りテ以テ施行スルヲ得ヘシ左レハ其數其種類ノ如キニ至リテハ敢テ制限ヲ施サスシテ其欲スル所ニ從ヒ尙ホ幾許ニテモ増加シ得ヘキナリ而レモ其得失ヲ考フルハ官業ハ決シテ増加スヘキモノニアラス何トナレハ政府カ民間ノ事業ヲ奪ヒ以テ之ト競争スルカ如キハ固ト批難スヘキモ決シテ嘉ミスヘキコトニアラサレハナリ抑政府ノ企業ヲ要スル事業ハ即チ國家カ之ヲ爲スハ適カニ一私人ヨリ勝レルカ若クハ之ヲ

官業ハ增加シテ民間ノ事業ヲ要スルヲ要ス

### 生産的収入ノ種類

爲セハ大ニ公衆ノ利益ヲ保護スルニ適スルカ或ハ収益巨大ナル事業ニシテ政府ハ之ヲ以テ單ニ財政上國庫ニ歲入ヲ納ルルノ目的ニ充テ而シテ租税ノ幾分ヲ輕減スルノ用ニ供センカ爲メニ起スカ以上二三ノ場合ヲ除ク外國家ノ經營スル營利的事業ハ決シテ贊襄スヘキモノニアラサルナリ此ニ生産的収入ヲ大別セハ大要左ノ種類ニ過キス

- 第一 官有財産ノ収入
- 第二 官業ノ収入

以上二種即チ官有財産ト官業ノ種類ヲ再ヒ別チテ別舉スルハ左ノ如シ

- 第一 官有財産
  - 甲 不動産
    - (イ) 官有地(耕作地、森林地、礦山等ヲ總稱ス)

(ロ) 工場其他建物家屋等

乙 動産

第二 官業

甲 耕作業及鑛業(此ハ政府カ其所有ニ屬スル耕地ヲ耕作シ或ハ  
レ鑛山ヲ採掘スル如キ行爲ヲ指ス)

乙 製造業(印刷局織物陶器武器等ノ製造所ヲ建設スルカ如キ是  
ナリ)

丙 商業及運輸交通ニ關スル事業

(イ) 普通ノ商業(但シ方今ニ在リテハ之ヲ營ム邦國甚タ稀レナ  
リ)

(ロ) 銀行事業(但シ此レモ方今ニ至リテハ官立銀行ノ存スルヲ  
要セス多クハ私立銀行ヲシテ其事務ヲ營マシメ政府ハ之

ヲ監督スルヲ常トス)

(ハ) 鐵道事業

第二百八十四節 廣意官有財産ノ二大種類 官有財産

廣意官有  
財産ノ二  
大種類

及官業ノ種類ハ畧ホ前節ニ舉ケタルカ如クナレモ其所謂官有財産ト  
ル語ハ狹義ノ官有財産ニシテ唯總テ生産的ノ使用ニ供スヘキモノノ  
ミヲ指稱シタルニ過キス然ルニ官有財産ヲ更ニ廣キ意義ニ解スルハ  
ハ即チ凡テ國家所屬ノ財産ヲ含有セサルヘカラス國家所屬ノ財産ハ  
分チテ二大種類トスルヲ得ヘシ此ニ舉ケシ二個ノ種類ハ各相異ナル  
ノミニシテ其第一種類ハ國家カ其本分タル施政ヲ爲シ又職掌ヲ行フ  
カ爲メニ其使用ニ供スル財産ニシテ人民モ亦均シク之カ利益ヲ享受  
シ且ツ之レヲ使用スト雖モ毫モ其代料ヲ拂ハス政府モ亦此等ノ土地  
ヨリ敢テ直接ニ租稅ヲ徵収セサルモノトス之ニ反シテ第二種類ニ屬

第一、國  
家ノ公債

第二、狹  
義ノ官有  
財産

二者ノ區別

スルモノハ猶各個人カ其財產ヲ所有スルモノト至ク其理ヲ同ウシ即チ國家ハ之ヲ以テ巨多ノ收入ヲ得ヘキ本源トス其第一種ニ屬スルモノハ財產ニ對シテ期滿得權時効ナキモノナリ又斯ル財產ハ政府ハ單ニ之ヲ維持シ且ツ之ヲ保管スルノ權利義務ヲ有スルノミニ止リテ之ヲ他ニ販賣スルヲ得ス又之ヲ國家ノ財政上ヨリ見レハ毫モ直接ニ收入ヲ生セス所謂不生産的ノモノナリ此第一種ハ所謂佛國ノ行政法上國家ノ公領ト稱スルモノニシテ道路、運河、港灣、海岸、砲臺、官衙ノ敷地等ヲ含ム之ニ反シテ第二種ハ政府ノ私有財產即チ狹義ノ官有財產ト稱スルモノニシテ國家ハ之ニ對シテ真正ノ所有權ヲ有シ又之ニ對シテ期滿得權(即チ期滿効若クハ時効存在シ且ツ國家ハ之ヲ販賣シ若クハ拂下クルコトヲ)得加之ナラス此等ノ財產ハ皆收益ノ生産力ヲ有スルモノ即チ收入ヲ生スヘキ性質タリ余輩ハ國家ノ公領ニ就キ(各國共ニ其區域頗

ボリユー  
氏ガ公領  
ノ性質ヲ  
説明ニセ  
ル

ル廣大ナルニモ拘ハラヌ)敢テ此ニ論セス唯生産力ヲ有スル官有財產即チ狹義ノ官有財產ニノミ就イテ以下順次ニ畧論セントス

(備考) ボリユー氏曰ク「吾佛國」行政法ニ據レハ政府ノ公領ハ假令何年間之ヲ占有スルモ期滿効ニ依リテ之カ所有權ヲ得ルコト能ハサルモノナリ且ツ政府ノ公領ハ其通常ノ所有物ト大ニ異ナリ即チ賣却贈遺等ノ如キ行爲ヲ以テ之カ所有權ヲ他ニ移スコト能ハサルモノナリ尙ホ行政法ニ據レハ政府ノ公領ハ之レヨリ收入ヲ生セサルモノナリトスレド此點ハ少シク事實ニ適セサルニ似タリ何トナレハ公領ノ或ル部分ヨリハ實際諸種ノ收入ヲ生スルコトアレハナリ例ヘハ道路ノ傍ニ在ル樹木ハ幾分ノ收入ヲ生シ又川河ニ漁リスルモノニ若干ノ稅ヲ拂ハシメ又公領ノ或ル部分ヲ受用スル者ヨリ納メシムル租稅アリ此等ハ則チ公領ヨリ生スル收入ナリ云々ト以テ

國家ノ公領タル性質ノ一斑ヲ窺フニ足ラン

第二章 重要ナル官有財産及官業論

官有財産ノ重要ナル種類

第二百八十五節 官有財産ノ重要ナル種類 狹意ノ所謂

官有財産トハ収益ヲ生スルモノ即チ生産的官有物ヲ云フ而シテ其首要ナルモノヲ官有不動産トス余輩ハ此章ニ於テ聊カ官有地ノ重要ナル諸種類及官業ノ大躰ニ就イテ觀察スル所アラントス官有地ノ重要ナル種類トハ何ソヤ左ノ三種是レナリ

第一 官有耕作地

第二 官有森林

第三 官有鑛山

第一項 官有耕地

第二章 重要ナル官有財産及官業論